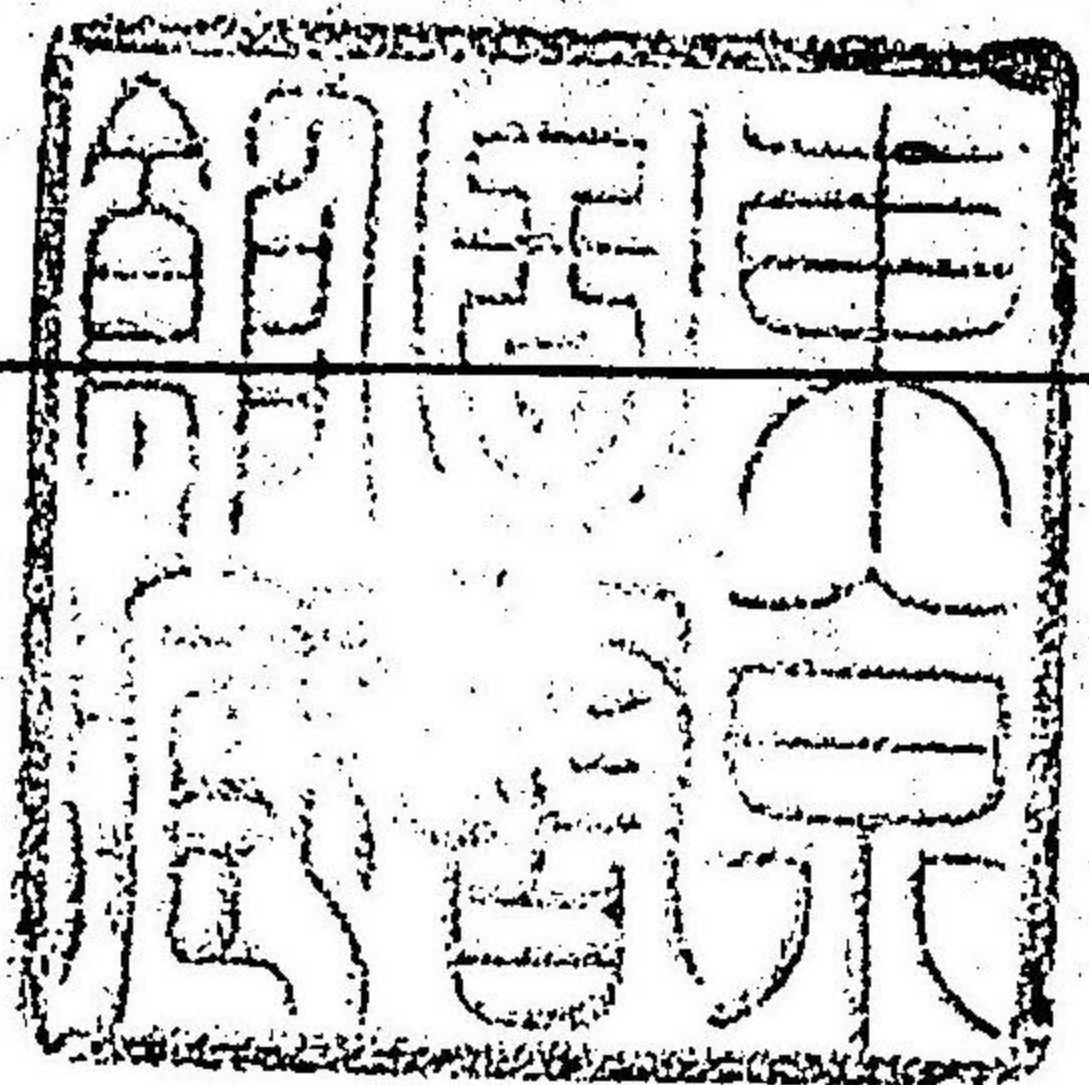


213E12

震災豫防調査會報告

第四號

震災豫防調査會



構造物離形調製ノ事項外三件調査ヲ了リタルニ由リ之ヲ編纂シテ報告第四號ト爲シ謹テ進達ス

明治二十八年五月

震災豫防調査會長理學博士 菊池大麓

文部大臣侯爵西園寺公望殿



震災豫防調査會報告第四號

目次

一 委員臨時委員及囑託員.....	第一頁
一 委員會.....	第二頁
一 調査事業.....	第四頁
一 参照書類	
(一) 構造物變形調製ニ關スル委員ノ報告.....	第五頁
(二) 東京附近地震被害建物等調査ニ關スル委員ノ報告.....	第十三頁
(三) 同上被害橋梁調査ニ關スル委員ノ報告.....	第九十一頁
(四) 水平振子観測ノ報告.....	第九十三頁
一 地震其他地異彙報.....	第九十五頁

震災豫防調査會報告 第四號

○委員臨時委員及囑託員

明治二十八年三月三十一日現在本會委員臨時委員及囑託員ハ
左ノ如シ

會長

理科大学教授從四位勳四等理學博士	菊池 大麓
理科大学教授從四位勳四等理學博士	菊池 大麓
内務省土木技師正五位勳四等工學博士	市 公威
逓信省鐵道技師正五位勳五等工學博士	原 口 要
土木監督署技師從五位工學博士	冲野 忠雄
理科大学教授正六位理學博士	石黒 五十二
理科大学教授正六位理學博士	小藤 文次郎
理科大学教授正六位理學博士	辰野 金吾
内匠寮技師從六位工學博士	關 谷 清景
工科大学教授正七位工學博士	片 山 東熊
工科大学教授正七位工學博士	田 邊 朔郎
工科大学教授正七位工學博士	眞野 文二
工科大学教授正七位工學博士	中村 達太郎
理科大学教授從六位理學博士	田中 館愛橘
農商務技師從六位理學博士	巨智 部忠承

委員臨時委員囑託員

學習院教授正七位理學博士	吉田 彦六郎
中央氣象臺技師從七位	中村 精男
中央氣象臺技師正七位	和田 雄治
非職理科大学教授從七位理學博士	長岡 半太郎
非職工科大学助教授從七位	井口 在屋
從五位工學博士	山 口 半太
正七位	曾 福 達藏
	大 森 房吉

臨時委員

土木監督署技師正七位	佐伯 敦崇
愛知縣技師從六位	江 森 盛孝
逓信技師正七位	大井 才太郎
陸軍技師正七位	安 永 義章

囑託員

山口高等學校教授	頼野 廣太郎
東京府士族	田 山 實
日本地震史編纂材料蒐集方	六波羅 奎次郎
第二高等學校雇助手	中村 清二
磁力觀測方	大學院學生
磁力測量ノ結果計算及取調方	石川縣平民
	山崎 定信

委員會

- 耐震構造物標本製圖方 岐阜縣士族 衣斐松雄
- 構造物耐震試驗方 島根縣士族 吉見鎮之助
- 耐震構造物標本製圖及調製方 東京府士族 瀧和親
- 地下溫度觀測ノ爲メ穿穴方 大學院學生 木村榮
- 緯度ノ變化觀測方 理科大學研究生 今村明恒
- 磁力測量ノ結果計算及取調方 松川小學校訓導 松橋銈三郎
- 南葛飾郡役所構内備付地震計觀測方 由井ヶ濱尋常小學校長 東條策吉
- 鎌倉郡由井ヶ濱尋常小學校近傍備付地震計監督方 新潟縣平民 安藤勇次郎
- 神奈川縣尋常師範學校内備付地震計監督方

○委員會

●第十四回委員會ハ明治二十八年二月十三日ヲ以テ開會ス出席者左ノ如シ

- 會長 理學博士 菊池大麓
 - 委員 工學博士 石黒五十二
 - 全 辰野金吾
 - 全 片山東熊
 - 全 眞野文二
 - 全 中村達太郎
 - 全 田中館愛橘
 - 全 吉田彦六郎
 - 全 理學士 中村精男
 - 全 和田雄治
 - 全 曾禰達藏
 - 全 大井才太郎
 - 全 安永義章
 - 臨時委員 全
- 當日ハ會長理學博士菊池大麓公務上ノ爲メ遅刻セシテ以テ委員工學博士石黒五十二假ニ會長席ニ就キ前回ニ於テ撰定セラレタル特別委員工學博士辰野金吾ノ提出ニ係ル山形縣下木造耐震家屋構造要領案ニ對シ各委員討議ノ末修正ヲ加フルコトニ議決シ終テ閉會セリ
- 第十五回委員會ハ明治二十八年三月六日ヲ以テ開會ス出席者左ノ如シ
- 會長 理學博士 菊池大麓
 - 委員 工學博士 石黒五十二

委員

- 理學博士 小藤文次郎
- 全 工學博士 辰野金吾
- 全 田邊朔郎
- 全 眞野文二
- 全 中村達太郎
- 全 理學博士 田中館愛橘
- 全 理學士 中村精男
- 全 工學士 曾禰達藏
- 全 安永義章

臨時委員

- 全 安永義章

當日ハ前回ノ續キ木造耐震家屋構造要領案ニ對シ討議ノ末尙次回ニ於テ審議スルコトニ決シ閉會セリ

●第十六回委員會ハ明治二十八年三月七日ヲ以テ開會ス出席者左ノ如シ

- 會長 理學博士 菊池大麓
- 委員 工學博士 辰野金吾
- 全 田邊朔郎
- 全 眞野文二
- 全 中村達太郎
- 全 理學博士 田中館愛橘
- 全 工學士 曾禰達藏
- 全 大井才太郎

當日ハ前回ノ續キ木造耐震家屋構造要領案ニ對シ討議スルコトニ決シ閉會セリ

ニ至ラスシテ閉會セリ

●第十七回委員會ハ明治二十八年三月九日ヲ以テ開會ス出席者左ノ如シ

- 會長 理學博士 菊池大麓
- 委員 工學博士 辰野金吾
- 全 眞野文二
- 全 中村達太郎
- 全 理學博士 田中館愛橘
- 全 工學士 曾禰達藏
- 全 安永義章

臨時委員

- 全 安永義章

當日ハ前回ノ續キ木造耐震家屋構造要領案ニ對シ討議ノ末次回ニ於テ確定議ヲ開クコトニ議決シ終テ閉會セリ

●第十八回委員會ハ明治二十八年三月十三日ヲ以テ開會ス出席者左ノ如シ

- 會長 理學博士 菊池大麓
- 委員 工學博士 石黒五十二
- 全 辰野金吾
- 全 片山東熊
- 全 田邊朔郎
- 全 眞野文二
- 全 中村達太郎
- 全 中村精男

委員 工學士 曾 福 達 藏
 臨時委員 全 安 永 義 章
 當日ハ木造耐震家屋構造要領案確定議ヲ開キテ之ヲ議決シ終
 テ閉會セリ

●第十九回委員會ハ明治二十八年三月二十日ヲ以テ閉會ス出
 席者左ノ如シ

- | | |
|----|-------------|
| 會長 | 理學博士 菊池 大麓 |
| 委員 | 工學博士 辰野 金吾 |
| 全 | 田邊 勲郎 |
| 全 | 中村 達太郎 |
| 全 | 理學博士 田中 館愛橘 |
| 全 | 吉田 彦六郎 |
| 全 | 理學士 中村 精男 |
| 全 | 和田 雄治 |
| 全 | 工學士 曾 福 達 藏 |

當日ハ特別委員會曾福達藏山形縣下町家改良構造仕様取調ニ關
 スル特別委員會ノ經過及結果ヲ報告シタル後之ヲ可決シ小學
 校及農家改良構造仕様ハ特別委員ニ於テ調査シ要領ニ矛盾セ
 サルモノナリトスル以上ハ別ニ本會議ニ付セスシテ本會ノ議
 決ヲ經タルモノト認ム可キ旨ヲ議決シ尋テ廿八年度豫算使用
 計畫ノ件ニ付各委員協議ノ末其使用方ヲ議了シ終テ閉會セリ

○調査事業

●構造物離形調製ニ關スル調査ノ件

本件ニ關スル調査ノ方針及神明島居外四種ノ圖面等ハ本會
 報告第二號(參照第十)ニ掲載セシカ今右調査主任委員
 ヨリ以上五種ノ圖面ニ對スル仕様書并ニ二階建洋風家屋改
 良案圖面及仕様書ヲ提出セリ(參照第一參看)

●東京附近地震被害建物等調査ノ件

昨二十七年六月東京附近地震ノ際被害建物ヲ撮影或ハ描寫
 シ且其狀況等ニ關シテハ廣ク官衙若クハ其他ノ報告ヲ蒐集
 シ之ヲ調査ニ從事セル旨ハ前號ニ記載セシカ爾後委員工學
 士中村達太郎主トシテ調査ノ任ニ當リ今般其取調ヘテ了リ
 タルモノヲ編製シ委員工學博士辰野金吾同片山東熊工學士
 曾福達藏ト俱ニ之ヲ提出セリ(參照第二參看)

●水平振子觀測ノ件
 同上地震ノ際囑託員吉見鎮之助ヲシテ府下橋梁被害ノ有無
 ナ調査セシメタリシカ今般委員工學博士石黒五十二全田邊
 勲郎ヨリ右報告ヲ提出セリ(參照第三參看)

●本會ノ調査事業助力ノ儀ヲ依頼セル工科大教師ヲヨソ、ミ
 ルノヨリ帝國大學構内ニ据付ケタル水平振子實驗ノ目的及
 結果ヲ報告セリ(參照第四參看)

○參照第一

震災豫防調査會報告第貳號記載ノ參照第十構造物離形報告
 ノ續トシテ右ニ關スル仕様書及委員中村達太郎提出ノ二階
 建洋風家屋改良案圖面及仕様及提出候也

明治二十八年三月

- | | |
|------------|------------|
| 震災豫防調査會委員 | 曾 福 達 藏 |
| 震災豫防調査會委員 | 中村 達 太郎 |
| 震災豫防調査會委員 | 片 山 東 熊 |
| 震災豫防調査會委員 | 辰 野 金 吾 |
| 震災豫防調査會委員長 | 理學博士 菊池 大麓 |

神明島居離形製作仕様書

一 神明島居

壹 箇

柱真々地盤ニテ拾壹尺下端ニテ拾尺
 高貫下端迄拾尺

右 仕 様

一 柱檜材直徑壹尺壹寸ノ圓形ニシテ長サ拾七尺參寸其兩端ニ
 桷ヲ附ク下桷ハ根石ニ差込ミ上島木笠木ニ差込ミ根入四尺
 壹寸地盤下凡ソ壹尺ノ處ニ檜押四寸角ヲ以テ井形ヲ作り根

參照第一 構造物離形調製ニ關スル報告

棟門離形製作仕様書

一 棟 門

壹 箇

柱真々六尺貫下端迄ノ高サ六尺五寸

右 仕 様

一 柱檜材五寸角長サ拾貳尺根入レ參尺ハ圓形ナリ檜四寸押角
 ナテ井形ヲ作り控柱ト共ニ根カセナシ上端ハ棟受ク入子

五

長柄共圖面ノ通り仕上ク控柱ハ前全木參寸五分角長サ八尺五寸根入レ參尺圓形トシ控柱用貫ヒイ參寸貳分五厘部壹寸貳分全參寸五分部壹寸貳分ノニツ通り相用ヒ大貫同木ヒイ六寸幅柱メシ内法トス柱柄穴ヘ差通シ槻角栓ヲ以テ打堅メ腕木受全木壹寸五分角長サ貳尺七寸五分ニシテ其兩端丸形ニ作り腕木全木參寸ニ壹寸五分長サ四尺壹寸五分受木ヘ柄入レニ致シ門柱ヘ差込ミ角栓ヲ以テ打堅メ其兩端ハ前全斷ニ致シ軒桁全木貳寸貳分五厘角柱真ヨリ壹尺參寸七分五厘出ニシテ腕木ヘ置渡シ棟木全木參寸角上端屋根勾配ニナラヒ頭巾形作り出シ門柱ニ差込ミ釘付共致シ屋根四寸勾配檜厚八分五厘板ニテ葺立目板幅五寸五分厚六分五厘片流拾枚葺共丈夫ニ釘打堅メ兩押ヘ全木厚七分五厘板幅五寸目板ヘ釘打棟押ヘ全木ヒイ五寸幅四寸上端水垂付破風板全木厚六分幅參寸ニシテ棟木及軒桁ニ釘付致スベシ

一門扉檜堅框貳寸五分ニ貳寸上下棧及中棧參寸ニ貳寸其他中棧貳寸角ヲ用ヒ總テ貳枚柄作り出シクサヒヲ以テ丈夫ニ締メ堅メ組立扉板ハ厚六分參枚堅張トシ一ト棧ニ六本宛鐵釘ヲ以テ打付ク四寸臂坪ニテ釣リ込ミクワノ貫全木貳寸角長サ扉ノ巾ニ準スクワノ貫用附屬金物ハ總テ鐵製トス

一門柱香石花崗石九寸角ヒイ參寸中央ニ四寸五分角ノ穴ヲ穿

チ双方ヨリ嵌メ込ミ總テ圖面ノ通り出來ルニシテ、
一右雛形出來ノ上杉板製ヲ以テ長サ拾壹尺幅八尺深サ四尺ノ箱ヲ作り土ヲ入レ充分ニ突キ堅メ致シ底上壹尺ノ高ニ雛形ヲ直立セシメ周圍ニ土ヲ入レ箱上端ニ平均シ念入レ出來ノ事

一此仕様書ニ記入ノ寸法ハ總テ實物ノ大サナルヲ以テ實際雛形ノ寸法ハ五分ノ一ナリトス

一日本家屋 軒高桁下端迄九尺七寸 壹 棟
梁間九尺 桁行拾貳尺

右 仕 様
一土臺檜材四寸押角四方ヘ置渡シ柱ノ柄穴ヲ穿テ隅ハ柄差シ割楔打堅メノ事

一柱杉押參寸五分角總テ八本下端ニ土臺ヘノ差込ミ柄ヲ附シ圖面ニ依リ貫穴ヲ穿テ上端ニ長柄ヲ附ケ桁受トナスヘシ且柱ハ松參寸總テ五本トス長サハ本柱ト全様上下兩端ニ柄ヲ附シ貫ノ處ハ双方合ヒ欠キ釘打付トス貫杉中貫ヲ用ヒ三尺ニ準テ總テ三通リ柱ヘ差入口ハクサヒヲ以テ充分ニ締メ付クま柱トハ合欠キ釘付トナスヘシ

一桁ハ杉押四寸角柱柄ヲ入レ割楔打トス上端ハ屋根勾配ニナラシメ削リ取ルヘシ傍軒出ノ柱真ヨリ八寸五分トス

一梁總テ三通リ壹間ヲキニ置渡スヘシ松末口參寸五分丸太桁ヘキヨクハ蟻ニ仕掛ク束アタリヘハ柄受ノ穴ヲ穿ツヘシ束ハ杉押參寸上下共柄ヲ附シ梁毎ニ三本立トス母屋杉押參寸角繼手ハ追掛ク蟻トス種木松參寸相用ヒ真々壹尺五寸出ハ柱真ヨリ壹尺母屋ヘ釘付トス屋根ハ切妻作り六寸勾配廣木舞ハ杉中貫野木舞杉參寸貫駒返シニ打付ク種形大貫桁及母屋ヘ釘付トス面戸板杉四分板タルキヘ溝入レ釘打付ノ事

一大引松末口參寸丸太ヲ用ヒ松末口參寸丸太ノ受束ヘピンタ付ケ釘付トシ柱際ノモ前全斷ノ事根太松參寸大引ヘ釘付トシ真々壹尺五寸床板松六分板引割ノ儘相用ヒ根太ヘ釘付トス敷居松四寸敷居木相用ヒ柱ヘ差込ミ釘付トス寄敷居松參寸前全樣柱ヘ差込ミ釘付トス鴨居ハ松材使用寸法ハ敷居ト全樣附ケ鴨居モ松材使用寸法ハ寄敷居ト全樣柱ヘ差込ミ釘打付トス

一此仕様ニ記載漏レノ箇處ハ純粹ノ日本家屋構造法ニ從ヒ必要ノ箇處ハソレノ施工可致事

一記入ノ寸法ハ總テ實物大ノモノナルヲ以テ雛形製作ニハ其貳分一ヲ現寸トナスヘシ

一日本家屋 軒高桁下端迄九尺七寸 壹 棟
梁間九尺 桁行拾貳尺

改竄案ノ目的トナル處ハ左ノ二點ニアリ
第一 柱ニ施工セテ全ク無疵ナル事
第二 各繼手ノ改良

右 仕 様
一屋根野木舞仕上ク軒出ノミ裏板張立敷居寄敷居鴨居付鴨居取付ク床板張立ヲ以テ總仕上トス大躰ノ構造ハ圖面ノ通り隅柱ハ參本間柱ハ貳本合ヒ貫ヲ挾ミ土臺桁梁ハ柱ヲ挾ミ何レモホールトニテ締付クノ事

一桁行遣ヒノ土臺杉參寸五分ニ貳寸梁間遣ノ分全木全寸左右ヨリ柱ヲ抱キ合ハヒ柱間ヘ杉貳寸角厚五分ノ木片ヲ挿入シ隅々三分ポルトト貳箇其他ハ參分ポルトト壹箇ヲ以テ締メ付ク隅柱杉四寸ニ壹寸七分五厘壹本壹寸七分五厘角貳本寄ヒ合ヒ組立間柱ハ杉四寸ニ壹寸七分五厘貳本抱キ合ハヒ杉中貫三通リ桁全木ヒイ四寸厚貳寸抱キ合ハヒ遣ヒ總テ圖面ノ通り出來

一屋根六寸勾配小屋梁松ヒイ四寸厚貳寸貳枚遣ヒ桁束全木參寸角合掌同木參寸五分ニ參寸鼻母屋貳寸角種松貳寸角面戸

板杉四分板裏板松六分板野木舞杉三寸貫五寸ニ打圖面ノ
 通り參分ボルト及適當ノ釘ヲ以テ夫々締方致スヘキ事
 一隅々梁間遣ヒ土臺上端ヨリ桁行遣、土臺下端へ圖面ノ如ク
 松材ヲ以テ筋遣入レ釘締致シ隅々桁上端ヨリ梁下端へ前全
 木筋遣入レ締メ堅メノ事
 一敷居松四寸敷居木使用寄敷居全木鴨居付鴨居共全木根太東
 杉九太見斗ヒ側廻リ土臺上ニ立テ釘付致シ其他ハ參尺ニ
 立テ大引松太丸末口參寸五分納穴彫リ束上ニ置渡シ際大引
 セイ參寸五分厚貳寸ノ脊板使用束上ニ乗セカケ釘打付ケ根
 太松貳寸角壹尺五寸ニ床板松六分板相用ヒ圖面ノ通り釘ニ
 テ丈夫ニ出來ノ事
 一記入ノ寸法ハ實物ノ大サナルヲ以テ其貳分一ヲ雛形ノ現寸
 トス

九尺貳間洋風家屋雛形製作仕様書

一洋風家屋

一梁間九尺

一軒高

一壹棟

一土臺檜五寸角使用隅々繼手ニ圖面ニ依ルベク本柱間柱管柱
 一ノ納受穴ヲ穿ツベシ隅柱杉四寸五分角上下兩端ニ長柄ヲ附

シ貫穴ヲ穿テ間柱ハ全木參寸五分ニ參寸上下兩端ニ柄ヲ附
 シ貫穴ヲ穿ツベシ窓ノ兩側ニ各壹本宛入口ナキ桁行ニ貳本
 都合六本トス其窓ノ兩側ニアルモノニハ楣窓臺ノ納受穴及
 引キ掛ケアゴヲ作ルヘシ入口ノ左右ニアルモノハ杉四寸ニ
 參寸五分上下兩端ニ柄ヲ附シ貫穴ヲ穿テ楣受ヲ作ルヘシ管
 柱ハ杉貳寸角上下兩端ニ柄ヲ附シ土臺へ差シ込ミ釘打付ト
 ス貫アタリハ引キ掛ケアゴヲ作リ釘打付トス總數拾貳本貫
 ハ杉中貫使用土臺ヨリ三尺ニ三通り隅柱間柱ハ差込口
 ハクサヒヲ以テ充分ニ締メ付ケ管柱ハハアゴ引キ掛トシ
 タ所ニ貳本宛釘打付トス窓楣ハ杉參寸ニ參寸五分一端ハ間
 柱へ入り柄入レトシ一端ハ間柱へアゴ入レトシ釘打付ノ事
 窓臺ハ杉參寸ニ參寸五分楣全様取付ノ事入口楣ハ參寸五分
 ニ四寸前全様取付致スヘキ事
 一桁ハ杉四寸五分ニ四寸各柱へ柄入レトシ隅ハ合欠キトシ釘
 付ノ事
 一屋根ハ六寸勾配方形作リ小屋組ハ西洋小屋ニシテ圖面ノ通
 リ梁ハ松五寸ニ三寸柱真ヨリノ出ハ壹尺七寸トス隅梁モ全
 寸法ニシテ桁ノ上ニ乗セ掛ケ一端ハ燧梁へ大柄入り差込ト
 シ共ニ鎗打付トス出ハ梁全様ノ事燧梁ハ參寸ニ六寸桁へ引
 キ掛ケ鎗止トスベシ真束ハ松參寸ニ五寸下端ハ梁へ柄入レ

トシ枝束受ノ溝ヲ穿ツヘシ上端ハ屋根勾配ニテラヒ削リ取
 リ棟木受合掌受ノ溝ヲ穿テ合掌ハ松五寸ニ參寸兩端ニ柄ヲ
 附シ真束ト梁へ差込ミ梁ト合掌トハ五分ボルトヲ以テ繫
 キ止メ枝束ハ松三寸角兩端ニ柄ヲ附シ合掌ト真束トへ差込
 ムベシ

一棟木ハ參寸ニ二寸五分真束ノ上端ニ入りトシ極止メハ參寸
 ニ八分棟木ニ入りトシ共ニ釘打付トス母屋ハ杉貳寸五分ニ
 參寸片流シノ中央ニ二通りトス地廻リハ貳寸五分ニ參寸
 五分トシ屋根勾配ニテラヒ其上端ヲ削リ取リ梁へアゴ引キ
 掛トシ鎗止トス樺木ハ松二寸角使用真々壹尺五寸地廻母
 屋及ヒ棟木ニ釘打付トス廣木舞ハ杉六分板割使用樺木へ釘
 付トシ野木舞ハ松參寸貫天使用シ明々壹寸五分トシムルキ
 へ釘打付ノ事

一床カ上端ハ土臺下端ナミトシ床カ板ハ杉壹寸板巾五寸根太
 毎ニ貳本宛釘打付トス根太ハ松貳寸ニ貳寸五分壹尺五寸間
 トス大引へ引キ掛ケ釘打付トス大引ハ松末口四寸九太トシ
 束ヨリ納差込ミ釘打付際大引ハ松四寸部貳寸ノ板天用ヒ束
 ト合欠キトシ乘ヒ掛ケ釘打付束ハ松四寸九太大引へ柄入レ
 トシ釘打付際大引トハ合ヒ決リ釘打付トスヘシ
 一土臺下腰石ノ代用ニハ木製ノ梓ヲ以テス其仕様ハ

隅柱間柱入口兩側柱等ノ下ニハ松五寸角ノ束ヲ立テ兩端ニ
 柄ヲ附シ上柄ハ土臺へ差込ミ下柄ハ下土臺へ差込ムモノト
 ス下土臺ハ松材ニ參寸巾五寸四方へ置キ渡シ束へ柄受ケ
 穴ヲ穿ツベシ束ト束トノ間ハ圖面ノ如ク筋遣貳本宛使用
 シ合ヒ欠キ釘付トス入口段ハ木製武段踏面壹尺蹴込ミ七寸
 トス松參寸ヲ以テ圖面ノ如ク梓ヲ組立テ松六分板張付釘打
 付仕上下トス

一入口庇仕様ハ
 一建登モク木ハ杉巾參寸五分厚壹寸五分長サ貳尺五寸間柱へ
 取付ケ四分ボルトニテ締付ケ腕木ハ貳寸角建登セへ送り
 蟻差込ミ釘打付トシタスキハ松貳寸角建登セへハ入り柄引
 キ掛トシ腕木へ柄入レトシ釘打付トス桁ハ杉貳寸ニ參寸五
 分腕木へ引キ掛ケ釘打付トス樺木ハ貳寸ニ壹寸五分圖面ノ
 如クソリヲ附シ建登セ及桁へ釘打付屋根板ハ杉六分板横張
 付釘打總テ圖面ノ通り出來可致事

一記入ノ寸法ハ實物ノ大サナルヲ以テ其貳分壹ヲ雛形ノ現寸
 トスベシ
 一洋風家屋貳階建
 一壹棟

梁間九尺 軒高杉下端迄拾七尺五寸
桁行拾貳尺

右仕

一 土臺ハ檜五寸ニ四寸五分兩端ノ出ハ柱真ヨリ壹尺貳寸五分
繼手ハ圖面ニ如クニシテ井形ニ作り圖面ニ從ヒシレハ枘
受穴ヲ彫ルベシ桁行進ヒノモノハ貳本繼ニシテ繼手ハ圖面
ニ示シタル如ク柱ヲ避ケタルトコロニ於テスベシ柱杉材四
寸五分角ヲ使用シイイノ符號アルモノハ二階床上圖示シタ
ルトコロニ於テ第壹圖ノ繼手ノ如クシロロノ符號アルモノ
ハイイト同シトコロニ於テ第貳圖ノ繼手ノ如クシハハノ符
號アルモノハ圖示シタルトコロニ於テ第參圖ノ繼手ノ如ク
ニ何レモ下端ニハ枘ヲ附シ土臺ヘ差込ミ一本ニ二箇宛第四
圖ノ如キ鉄物ヲ用ヒボルトヲ以テ土臺ヘツナキ止ムベシ
桁行ノ間柱ハ杉材ヲ使用シ入口及窓兩側ノ柱ハ全材四寸ニ
四寸五分何レモ下端ニ枘ヲ附シ土臺ヘ差込ミ釘付トシ總テ
圖面ノ通り出來ノ事

一 足堅メハ杉材五寸ニ貳寸桁行ニ於テハ左右ヨリ柱ヲ抱キ合
ハセ双方四分宛喰ヒ込マセ五分ボルトヲ以テ柱ヘ締付ク
ベシ梁間ニ於テハ外側ヨリ壹本ダケトシ柱ト双方四分宛喰
ヒ込マセ桁行ノモノトハ合ヒ決リトナシテ乘ヒカク五分ボ
ルトニテ締メ付クベシ何レモ土臺上端ヨリ八寸ヲ足堅メ

ノ上端トス根太松材參寸ニ貳寸真々壹尺五寸ヲキトシセイ
壹寸ダケ足堅メヘ乘ヒカケ釘付トス

一 床板ハ杉厚壹寸板中五寸根太毎ニ貳本宛釘付トス

一 二階根太受杉材五寸ニ貳寸五分桁行ニ於テハ左右ヨリ柱ヲ
抱キ合ハセ双方四分宛喰ヒ込マセ五分ボルトヲ以テ柱ヘ
締付ノ事又梁間ニ於テハ外側ヨリ一本ダケトシ桁行ノモノ
ヘ五分喰ヒ込マセテ乘ヒカケ内部ノ際根太ト共ニ柱ヘ五分
ボルトニテ締付ノ事根太ニ一階ノ松材五寸ニ貳寸真々壹尺
五寸ヲキトス壹寸五分ダケ梁ヘ乘ヒカケ釘付トシ床板ハ階
下同様釘付トス階上ハ根太受ノ上ニ於テ階下ハ足堅メノ
上ニ於テ根太ト根太トノ間ニ松參寸ヲ嵌メ込ミ根太ヘ釘付
トシ根太ノ動搖止メトナスベシ

一 桁松材五寸ニ貳寸五分桁行ニ於テハ左右ヨリ柱ヲ抱キ合ハ
セ双方四分宛喰ヒ込マセ五分ボルトヲ以テ柱ヘ締付ク梁
間ニ於テモ全様左右ヨリ柱ヲ抱キ合ハセ双方四分宛喰ヒ込
マセ桁行ノモノトハ五分式ヲ乘ヒカケ五分ボルトヲ以
テ柱ヘ締付ヘキ事ソノ梁間ニアルモノハ小屋梁ヲ兼用スル
ヲ以テ桁行ノ中央ニ於テモ全様タルヘキ事

一 真束松材四寸角使用下端ハ梁間ニ差込ミ四分ボルトヲ
以テ締メ付ケ上部ハ屋根勾配ニナラヒ削リ取リ棟木受溝ヲ

穿チ合掌トハ平鐵物ヲ以テ圖面ノ如ク繋キ合ハスヘシ合掌
松材四寸五分ニ四寸上端ハ真束ニ乘ヒカケ鐵物締メトシ下
部ハ柱上端ニ乘ヒカケ一部ハ梁間ニ差込ミ五分ボルトニ
テ締付ノ事極全材參寸ニ貳寸棟木ト地廻リヘ釘付トス極上
端ハ合掌上端トサスリトス地廻リハ杉材參寸五分ニ參寸梁
ヘ參分程乘ヒカケ釘付トシ棟木ハ松五寸ニ貳寸五分真束ニ
差込ミ釘付トス屋根六寸勾配軒ノ出ハ四方トモ柱ツラヨ
リ壹尺廣木舞杉板割使用野木舞松參寸貫使用明キハ壹寸五
分軒先裏板杉六分板使用共ニ合掌及極ヘ釘付トス

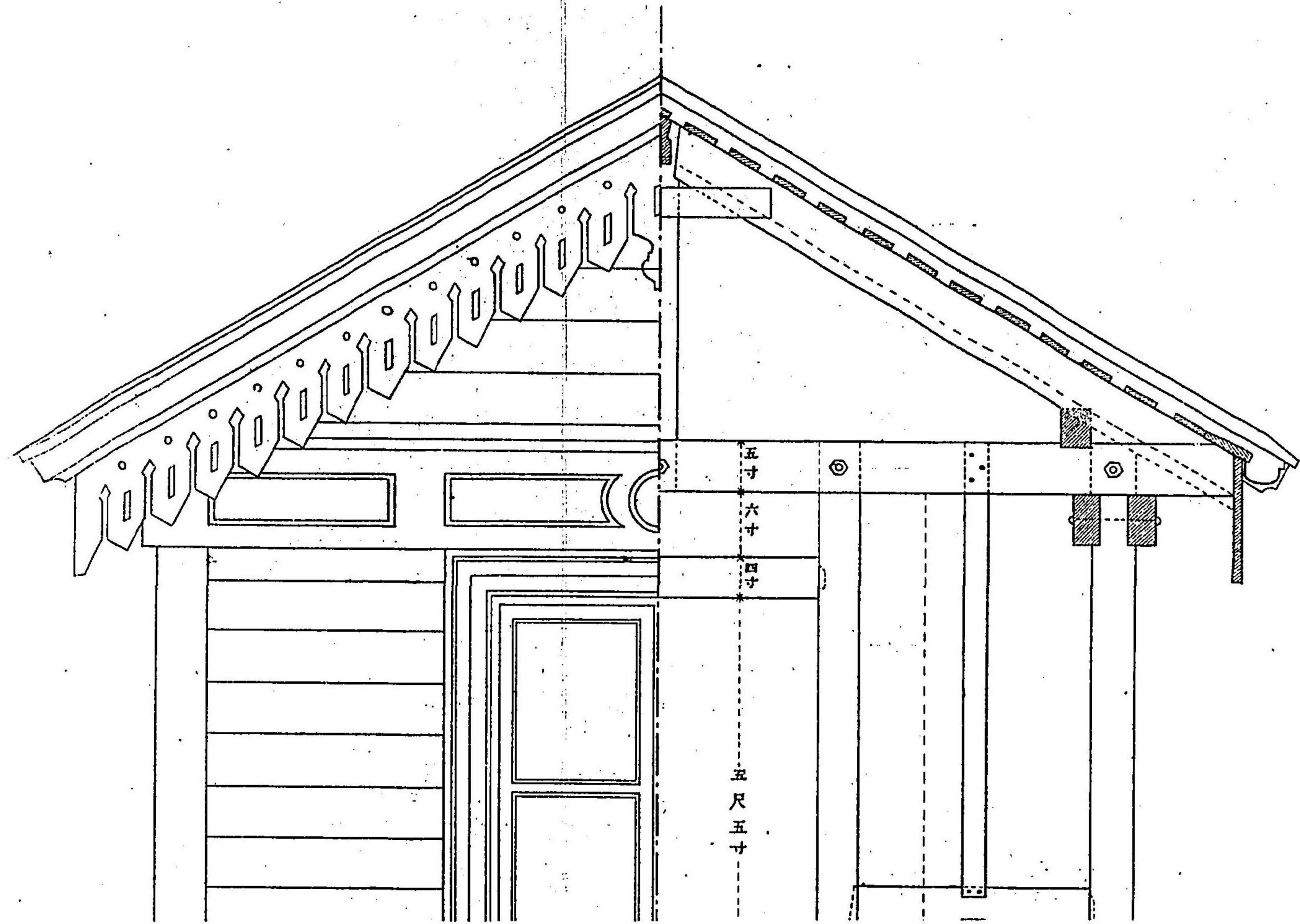
附記

一 鳥居及棟門ヲ除キ其他ノ雛形ハ極上ニ野木舞ノ取付ケテ廢
シ松六分板ヲ以テ裏板張立テ石盤板ヲ以テ屋根ヲ葺上ケタ
リ

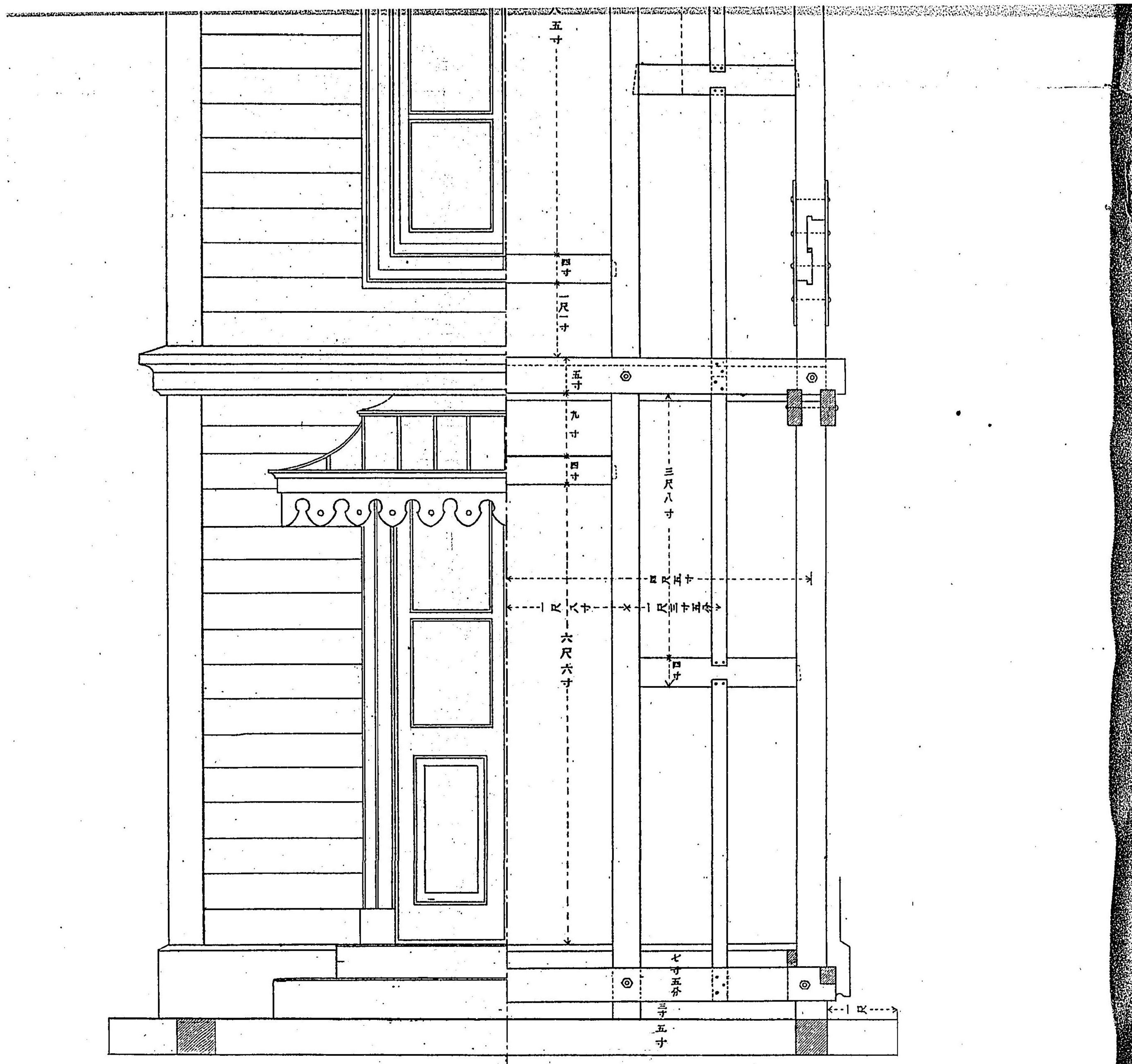
一 入口及窓楣窓臺ハ杉材四寸五分ニ四寸一端ハ柱ヘ枘入レト
シ一端ハ柱ヘアゴ引キ掛ケトシ釘打付ノ事

一 桁行ニ於テハ圖面ニ示ス如ク階上階下共筋違及貫ヲ使用ス
貫ハ杉四寸ニ參寸一端ハ柱ヘ枘入レトシ一端ハ柱ヘアゴ引
キ掛ケトシ釘締ノ事筋違杉參寸角使用柱間ニ切り込ミ釘打
付トス共ニ柱ツラナミノ事梁間ニ於テハ桁行ノ貫ト全高ニ
全寸ノ貫ヲ使用ス仕付方ハ前全様ノ事下見板釘受ハ貳寸角
ヲ使用シ圖面ニ示ス如ク貫ト梁又ハ足堅メヘ釘打付トシ總
テ圖面ノ通り出來可致事

一 配入ノ寸法ハ總テ實物ノモノナルヲ以テ其貳分一ヲ雛形ノ
現寸トス

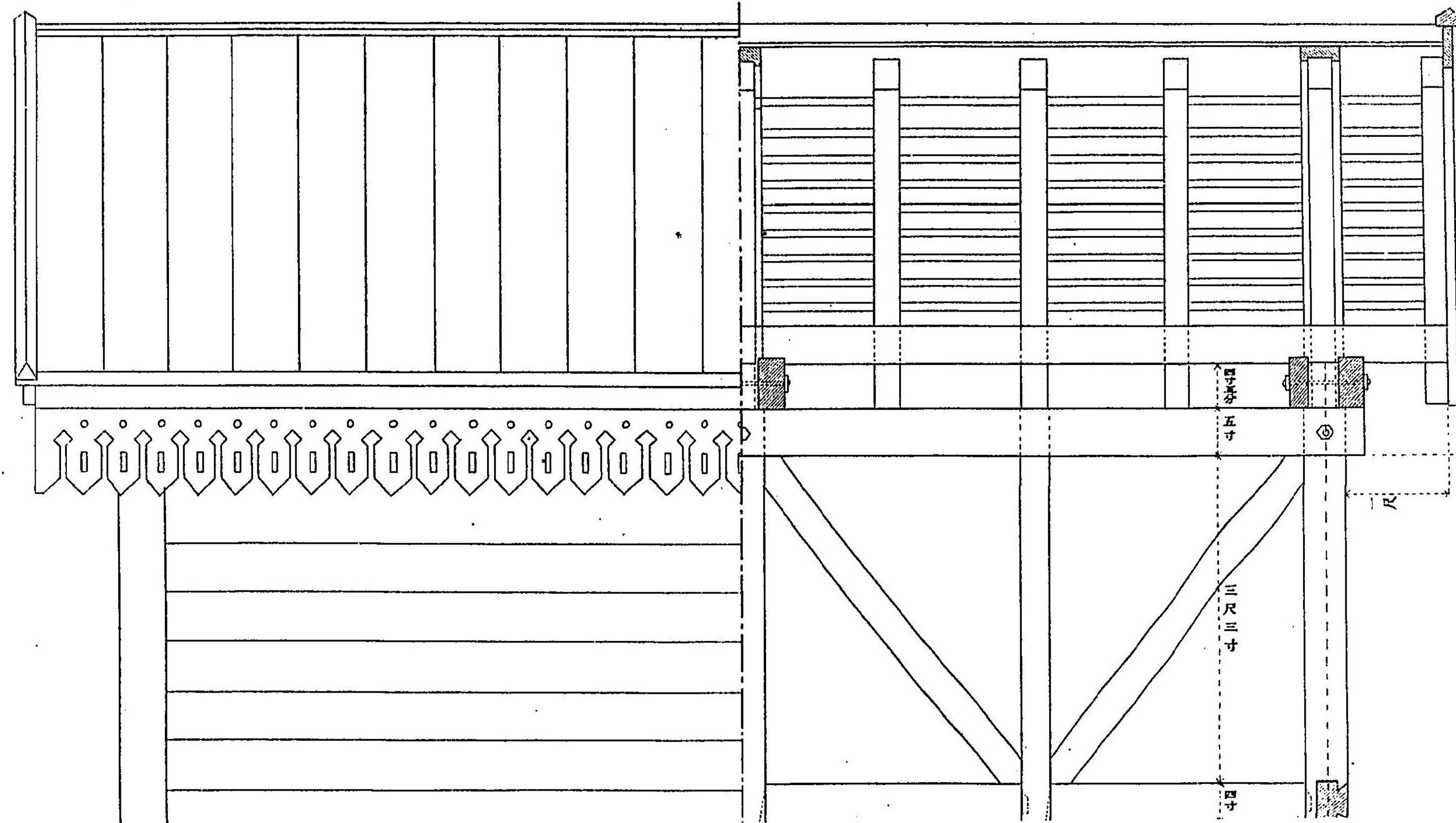


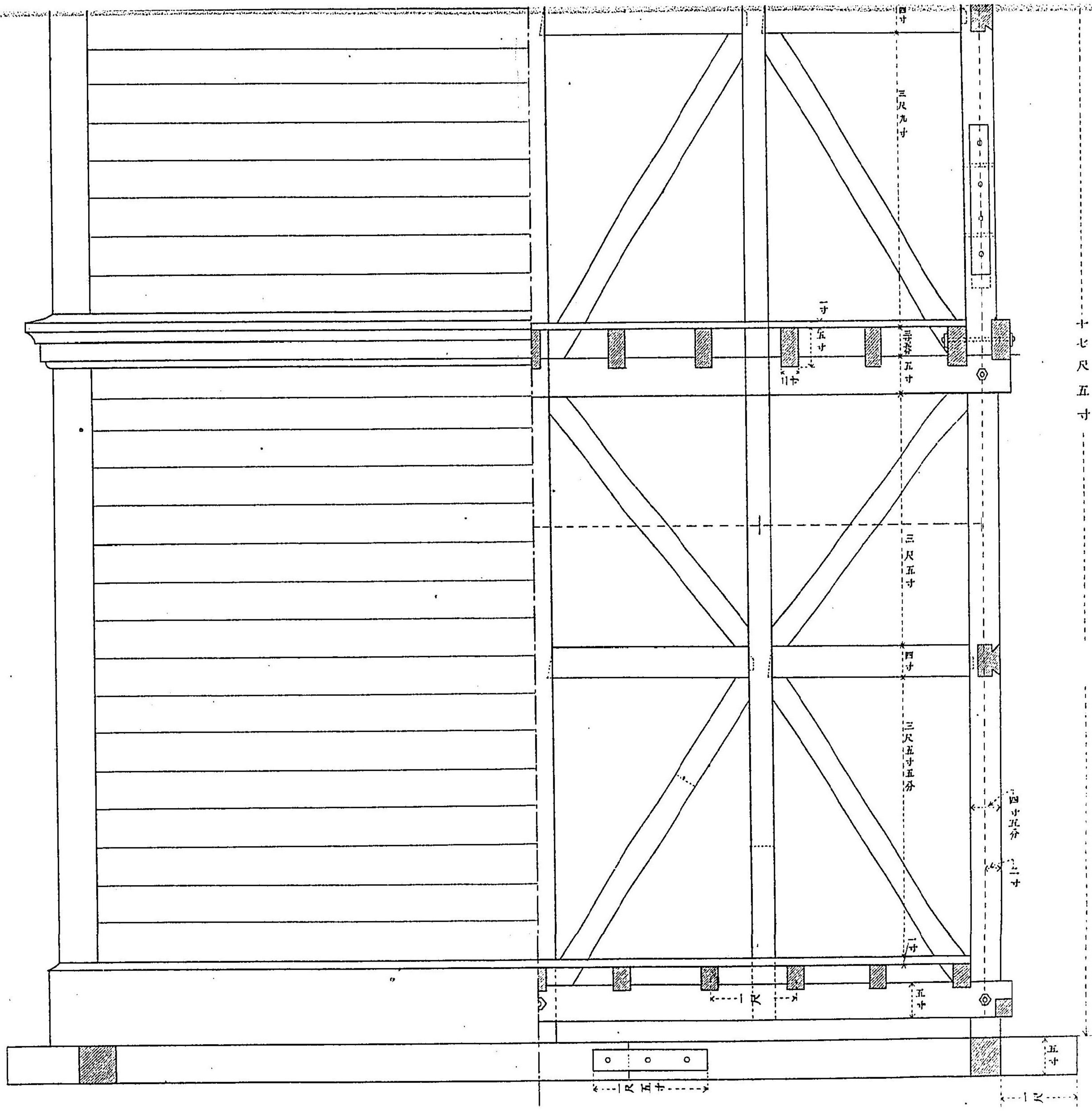
二階家洋風家屋改良案 二十分一縮圖





二階洋風家屋改良案
二分之一圖





十七尺五寸

三丈九寸

三丈五寸

四寸

三丈五寸五分

四寸五分

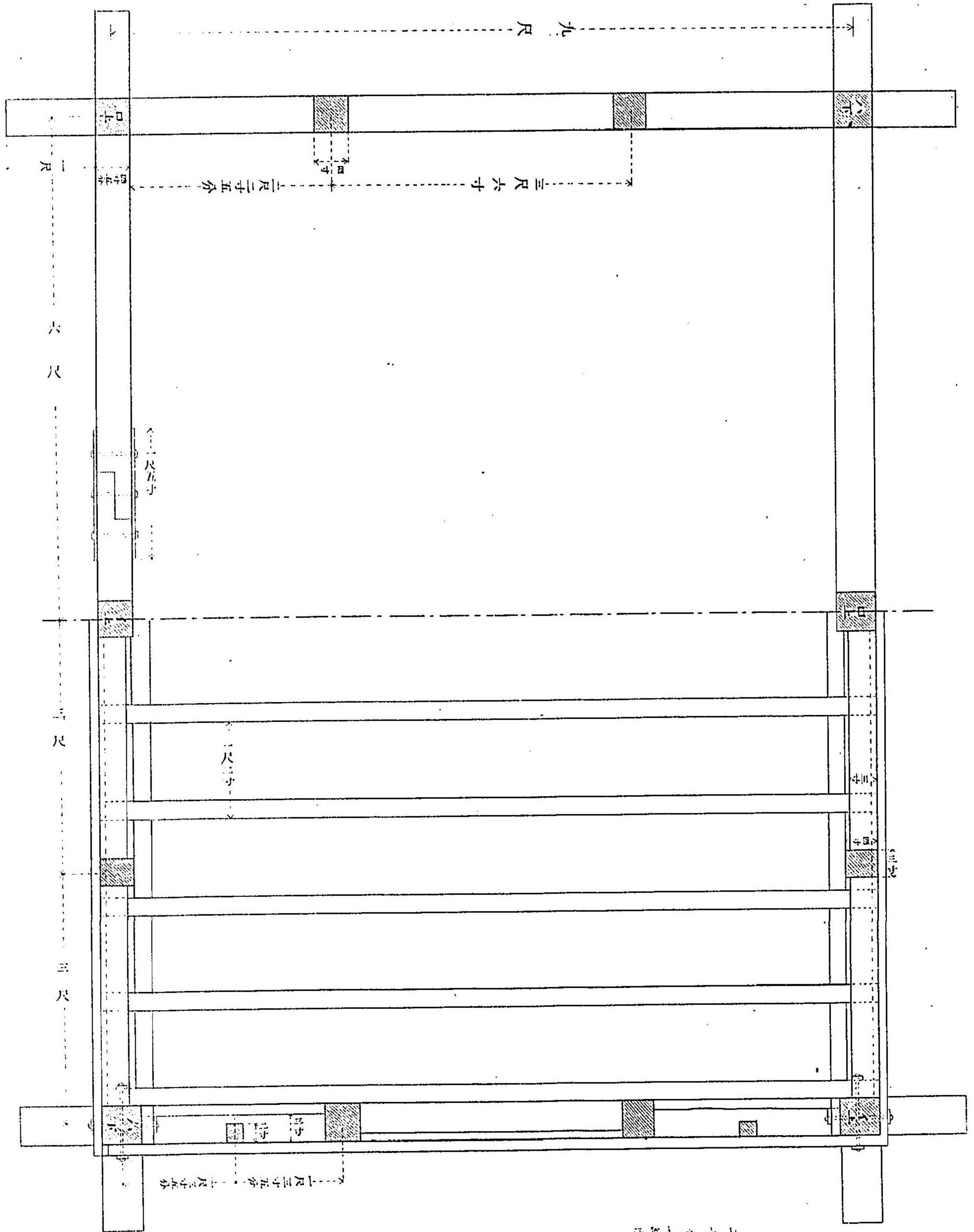
一丈二寸

一丈

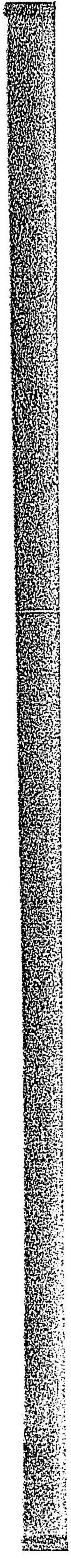
五寸

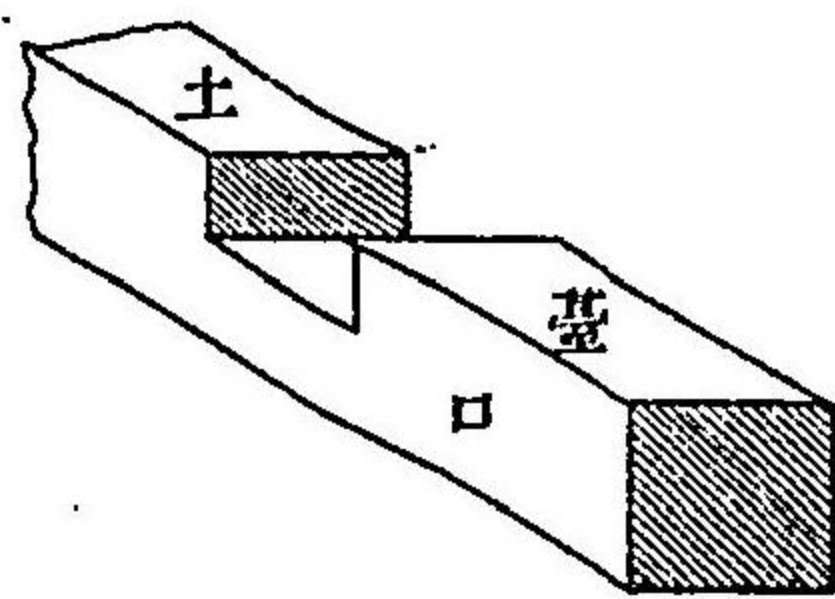
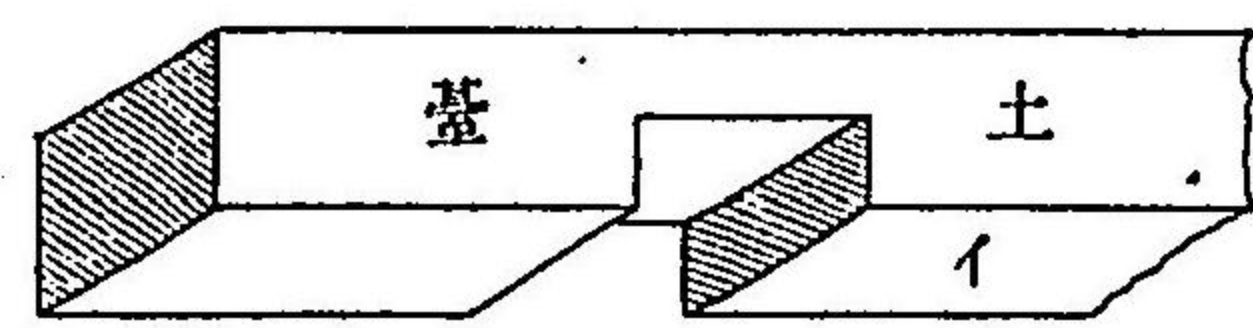
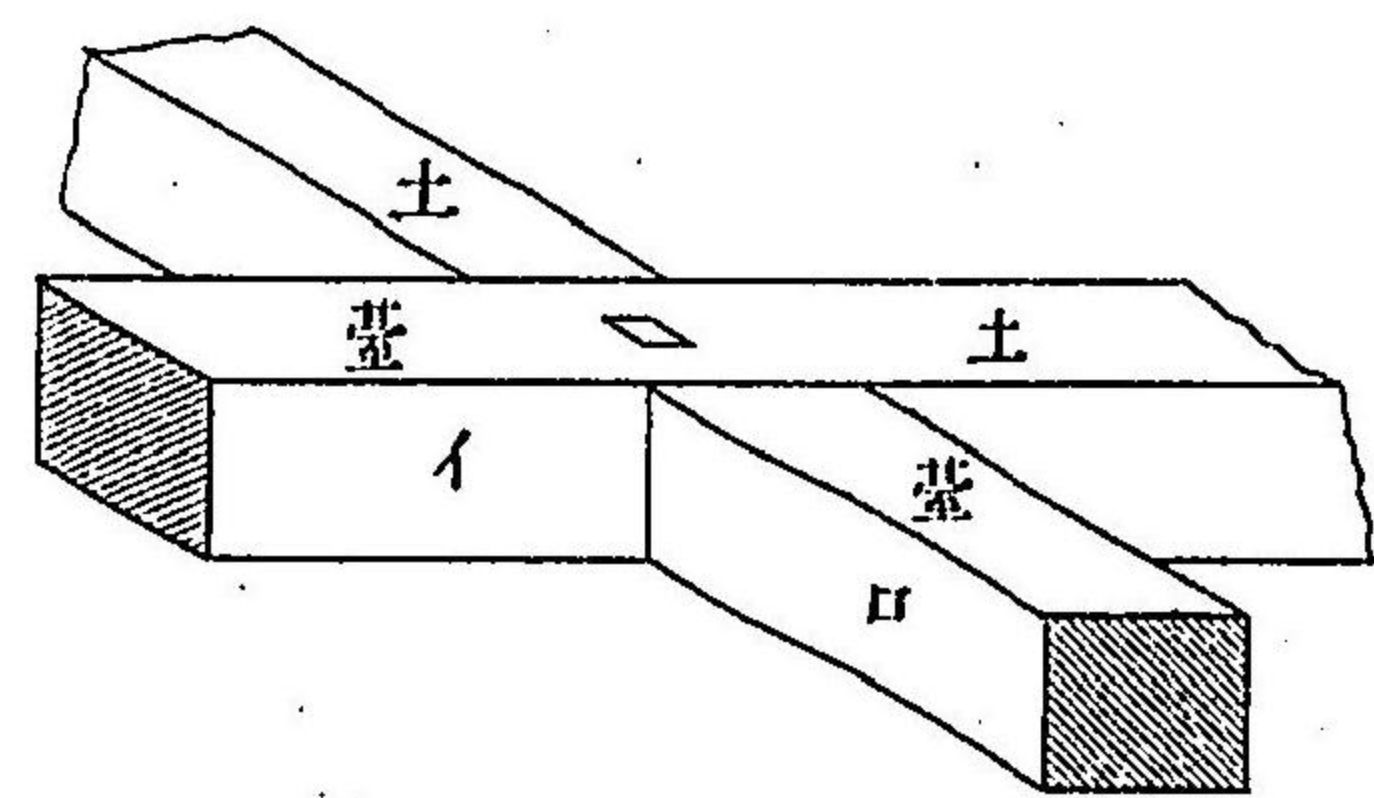
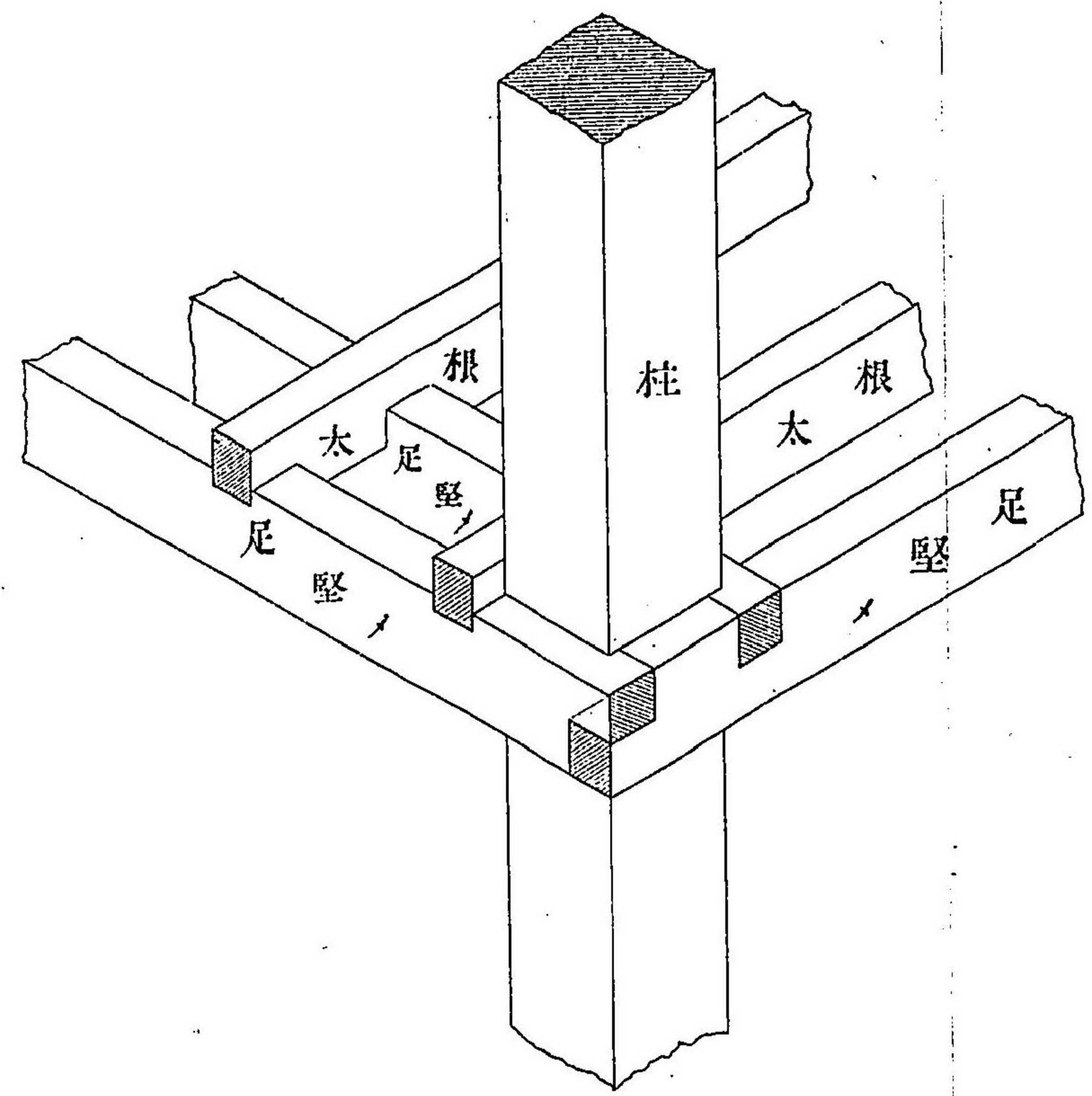
五寸

一丈五寸

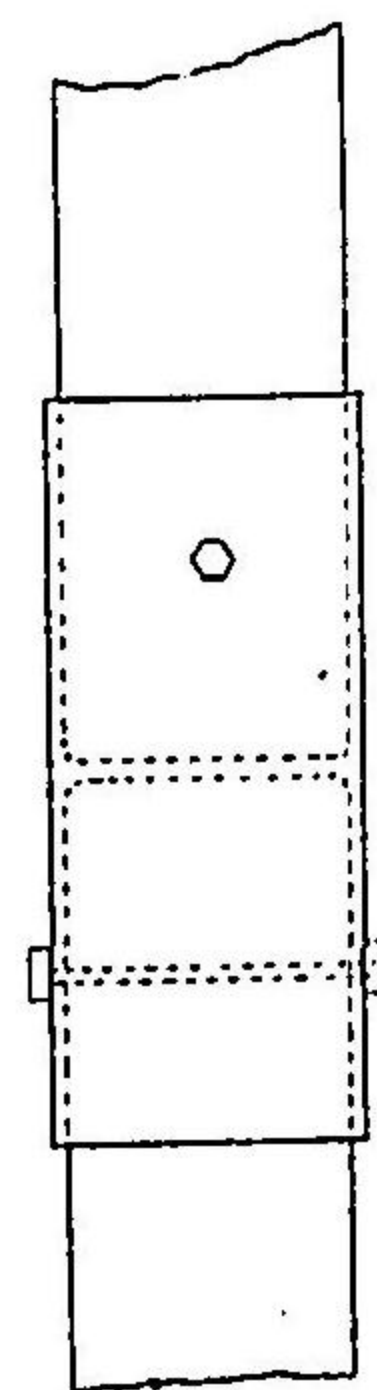
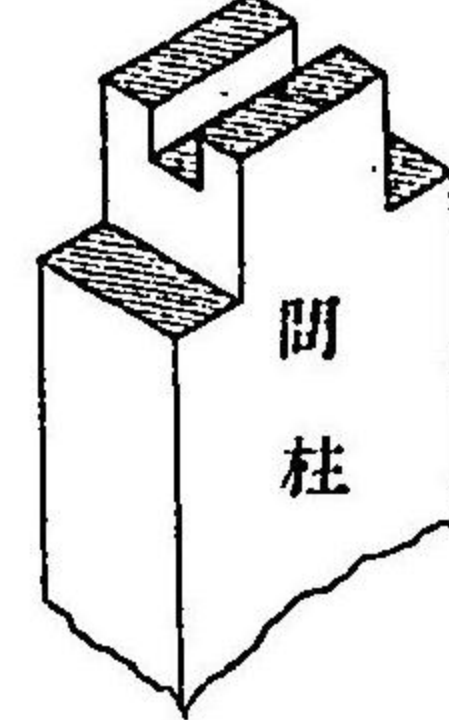
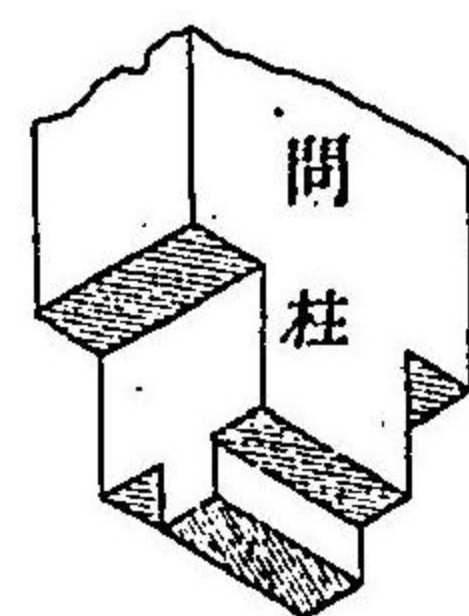
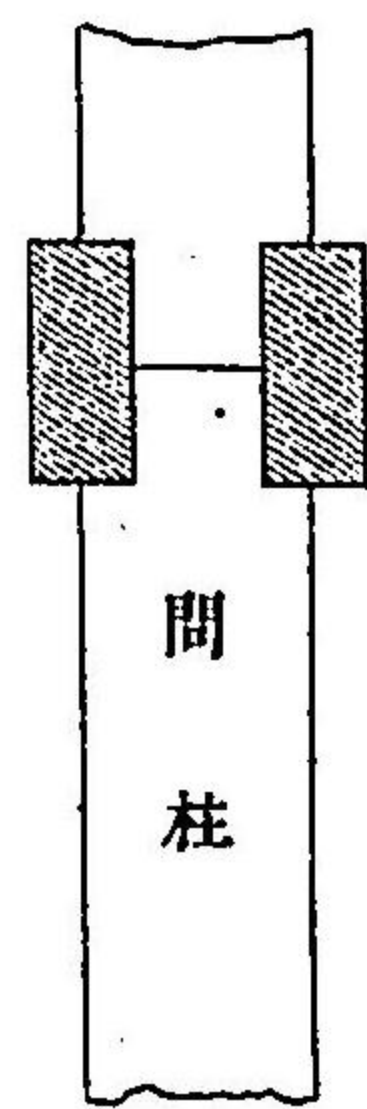
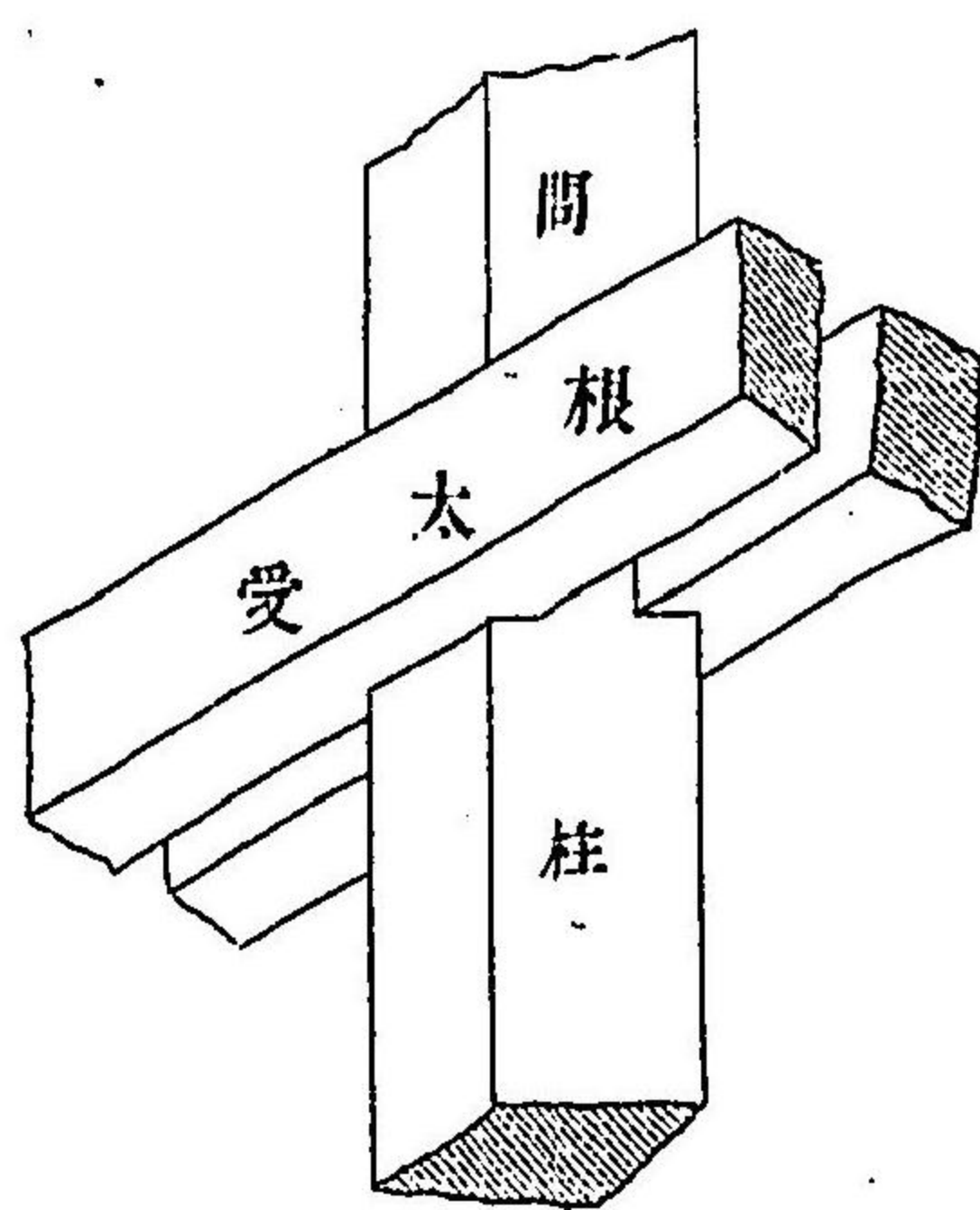
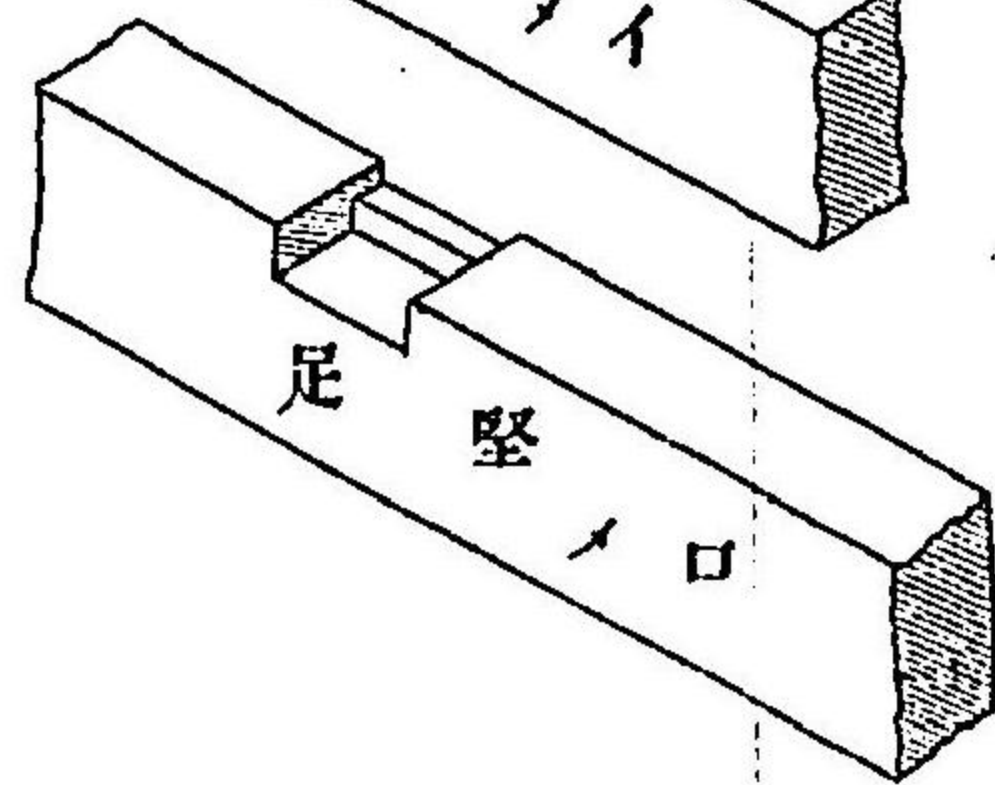
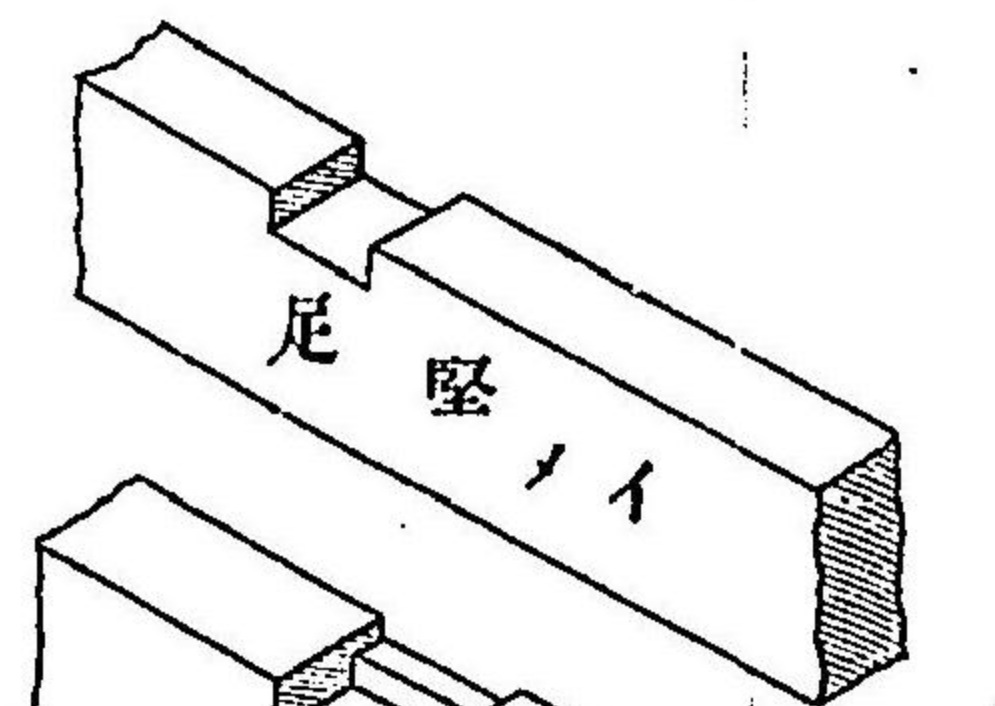
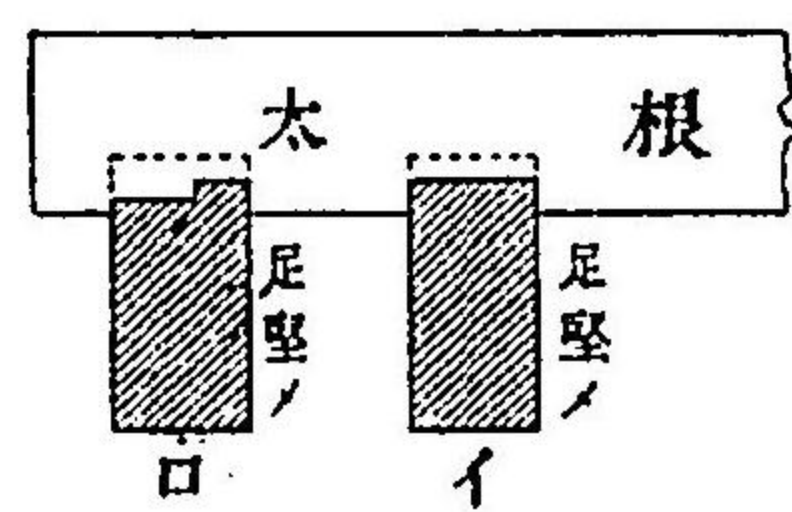
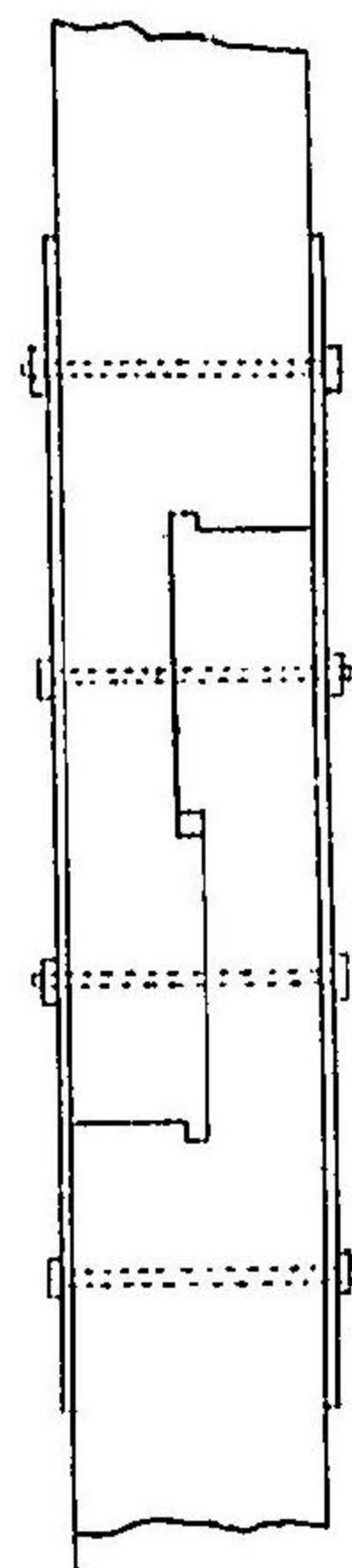
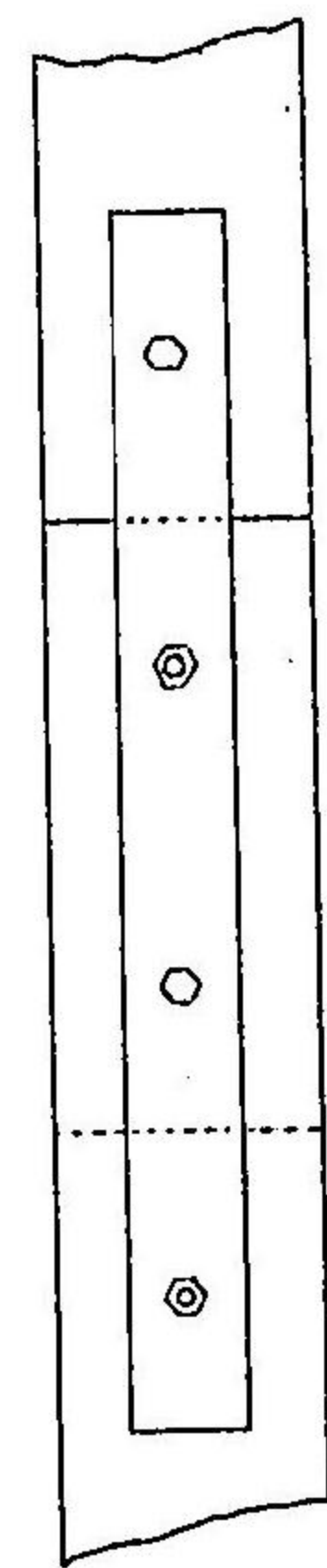
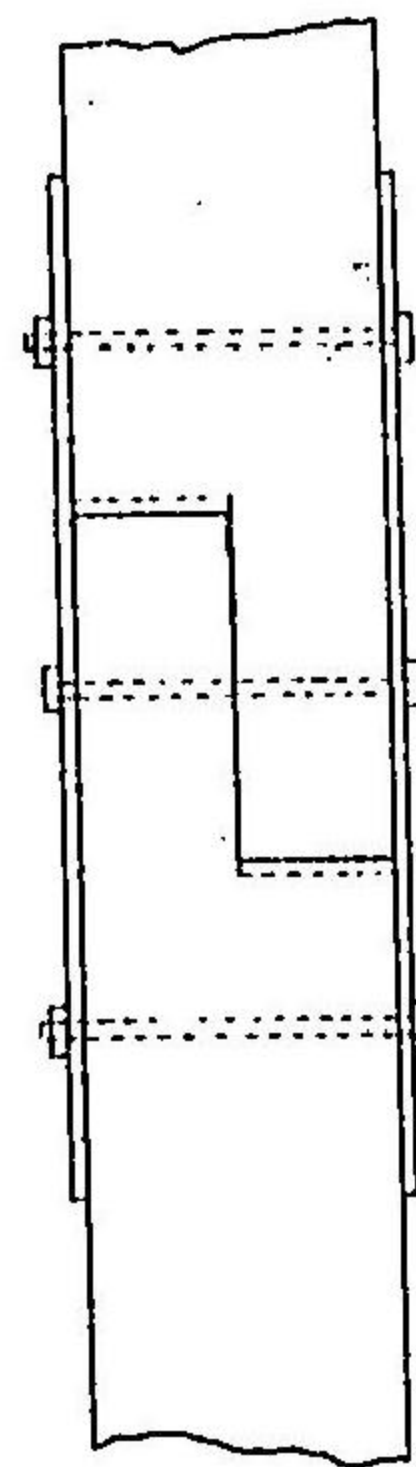
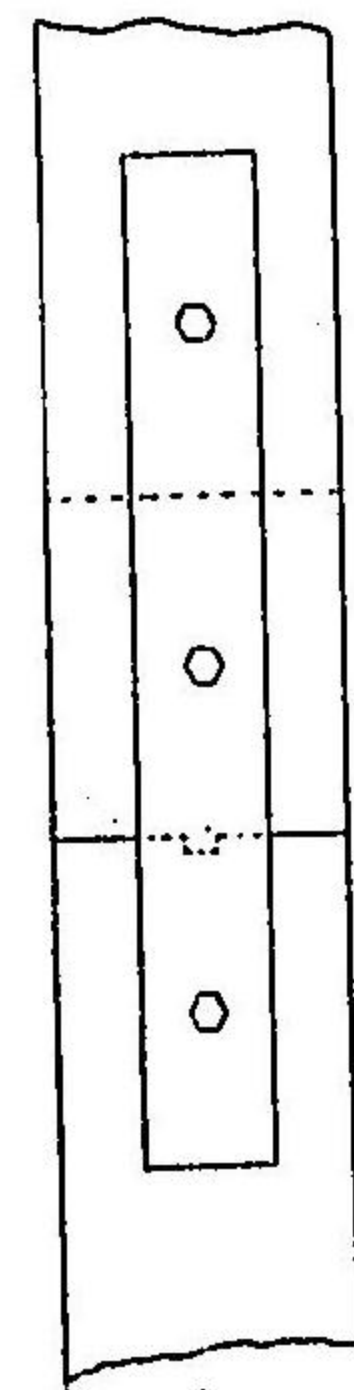


二階家洋風家屋改良案
二十分二編 四

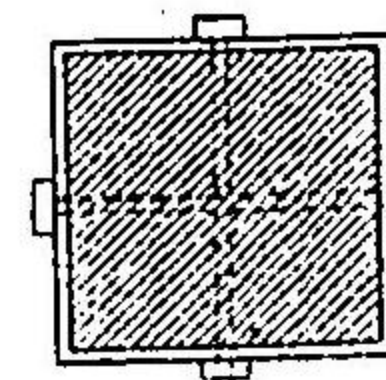
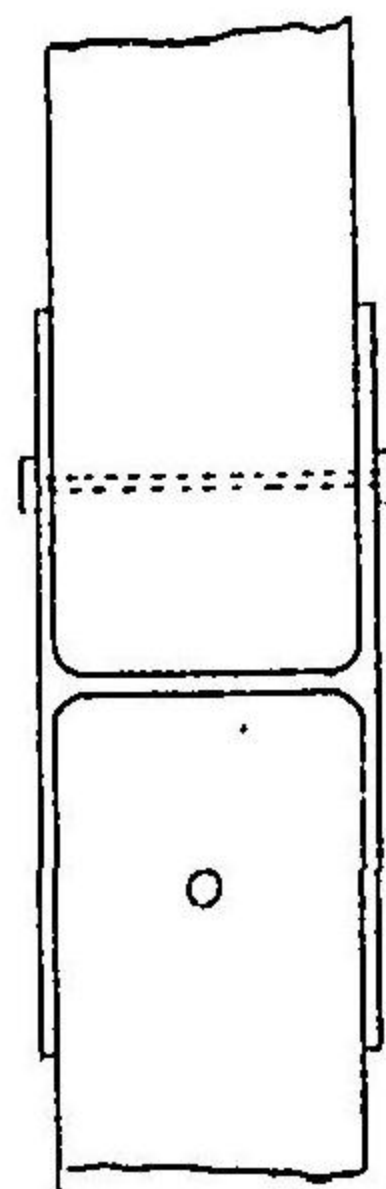




二階家洋風家改良宗明細圖
十分一縮圖



柱 継手 (ハ)



○參照第二

客年六月廿日東京近傍震災ニ際シ建物被害ノ狀況目下取調
出來ノ分別冊ノ通ニ有之候間此段申報候也

明治廿八年三月

委員 中村達太郎
全 曾禰達藏
全 工學博士 片山東熊
全 工學博士 辰野金吾
震災豫防調査會長理學博士菊池大麓殿

(別冊)

目次

- (一) 基礎
- (二) 崖際ニ在ル建物
- (三) 外側壁ノ張出シ
- (四) 傾斜及轉置
- (五) 水平罅裂
- (六) 垂直罅裂
- (イ) 二壁接際ノ部

參照第二 東京附近震災被害建物等調査報告

- (ハ)(ロ) 壁面中央部
- (七) 斜行罅裂
- (八) 外側壁下間仕切ノ接際
- (九) 追持
- (イ)(ロ) 半圓形追持
- (ハ)(ロ) 橢圓形追持
- (ハ) 楕圓形追持
- (ニ) 陸追持
- (ホ) 尖形追持
- (ヘ) 兩壁間ノ追持
- (ト) 楣石
- (十) アークトド
- (十一) 窓及出入口
- (イ)(ロ) 軒近クニアル窓
- (十二) 窓及ヒ入口ノ重ナリアル場合
- (イ) 軒ノ隅角
- (ロ) 軒ノ腹
- (ハ)(ロ) 軒飾

(三) 費	(四) 階段等	(五) 方杖	(六) 家屋烟突	(七) 土藏及倉庫	(八) たき、敷石等
(九) 屋根ノ附際ニ於ケル烟突ノ被害	(一〇) 軒際ニ於ケル烟突ノ被害	(一一) 屋根上ニ於ケル烟突ノ被害	(一二) 屋根下ニ於ケル烟突ノ被害	(一三) 煉瓦造ノ藏	(一四) 木骨煉化石造家屋
(一五) 間内ニ於ケル烟突ノ被害	(一六) 屋外烟突	(一七) 繼足シタル烟突	(一八) 烟突墜落ノ害	(一九) 木骨石造家屋	(二〇) 瓦張ノ壁
(二一) 烟突ト木造ノ關係	(二二) 漆喰	(二三) 暖爐前飾	(二四) 屋根	(二五) 日本造家屋	(二六) 塔
(二七) 鐵鐵手摺等	(二八) 鐵板	(二九) 鐵板	(三〇) 鐵板	(三一) 鳥居塀等	(三二) 塀
(三三) 鐵板	(三四) 鐵板	(三五) 鐵板	(三六) 鐵板	(三七) 竈	(三八) 水溜臺
(三九) 鐵板	(四〇) 鐵板	(四一) 鐵板	(四二) 鐵板	(四三) 大破シタル煉瓦造建物	(四四) 破損ヲ受ズル煉瓦家屋

(一) 基礎

基礎ノ不完全ナルハ震害ノ媒介ヲ爲スコシ少カラズ其實例左ノ如シ

一 燈明機械試驗所被害ノ狀況(大學院學生工學士塚本靖報告)

横濱市航路標識管理所燈明機械試驗所ハ管理所ノ西北隅ニ在リ其被害ノ實況ヲ觀察スルニ實ニ奇異ニシテ他ニ多ク其類ヲ見ス即チ水平ノ皸裂四壁ヲ廻リ及ヒ屋內東壁ノ西隅ニ垂直ノ罅隙中下二層ヲ通シ上層ニ至リ止マルハ是ナリ而シテ窓間斜線ニ下ルノ罅隙ハ往々見ル所ニシテ其性質大ニ奇トスルニ足ラス

今同所相澤技手ノ報告ヲ見ルニ同建築ノ性質ヲ詳悉スルニ足ルベキ者アリ書中曰ク本所燈明機械試驗所明治七年ノ建築ニシテ建物構造ハ煉瓦造側壁厚一尺二寸總高三十二尺ノ三層造ナリ基礎ハ根切巾二尺五寸深四尺程掘鑿シ松丸太杭三本宛並列シ二尺送ニ打込ミ松材ヲ以テ十露盤ヲ置渡シ而シテ捨土臺松材厚二寸五分ヲ据エ其上ニ房州元名石ヲ以テ縱横ニ二層据付ケ上地覆石ハ豆州河津産ノ青石ヲ以テ一層据付ケ夫ヨリ側壁煉化石ヲ以テ順次層積セシモノトス然ルニ建築以後四五年ヲ經過シテ基礎ノ陷落セシヲ發見セシヨ

リ之カ豫防ヲ考究シ第一大岡川岸ニ石垣ヲ増築スル等種々ノ豫防工事ヲ施セリ其後明治十五年頃基礎ノ傍ヲ掘鑿シ捨土臺十露盤ノ模様ヲ調査スルニ其木部ハ總テ腐朽セシニヨリ基礎ニ大修繕ヲ施セリ其仕様ハ在來ノ礎石地中二層及ヒ捨土露盤ノ木部ヲ除去シ更ニ根切ヲ施シコンクリートヲ以テ巾二尺五寸厚四尺築立固着セシム又基礎ノ陷落ニヨリ建物ノ傾斜セシ結果ハ左ノ如シ

明治十八年十一月該基礎ノ高低ヲ計リシニ西方面(即大岡川邊)基礎長二十尺ノ間北西隅ニ於テ一寸一分ノ低落ヲ見ル爾後本年七月迄九年間ニ凡九分九厘餘ノ陷落トナシ即チ最初建築ノ時ヨリ本年七月ニ至ル廿二年間ニ凡ソ二寸一分ノ陷落ヲ見ル又北方面(即海岸ニ面スル方)基礎長二十尺ノ間ニ於テ明治十八年十一月ノ調査ニハ西北隅ニ於テ一寸二分ノ低落ヲ生シ爾後九ヶ年間即チ本年七月ニ至リテハ前同ノ調査ト反對シ此度ハ東北隅ニ於テ三分ノ低落ヲ生セリ前陳ノ如キ成績トナルヲ以テ之ヲ推考スルニ本所構地ハ元來過半埋立地ニシテ殊ニ試驗所位置ノ如キハ其最西端ナリ地下ハ極メテ軟弱ナル泥土層ニシテ其上部ニ土丹岩ヲ以テ埋立タル地盤ナルニモ拘ハラズ彼ノ如ク重量ナル建物ノ基礎築立ノ仕様ハ前記ノ如ク極メテ不完全ナリ云々

報告者云ク上來陳來リタル所ヲ反讀シ之ヲ這回ノ損害ニ徵スルニ前述ノ奇異ナル箇條ハ逐次氷解スルヲ得即チ其損害ハ全ク地震ノ爲メニ起リタル者ニ非スシテ震災ノ爲メニ從來ノ弱點ヲ顯表シタル者ナリ而シテ余ノ考察スル所ニ依レバ東壁兩隅ノ縦裂ハ全ク東隣建造物ノ直ニ之ニ接セルガ爲メニシテ現ニ東隣ノモノハ平家ヨリ成リ其屋棟正ニ燈臺第二層ノ所ニ及ヘリ又水平ノ罅裂ニ就テ特ニ吾人ノ注意ヲ惹ク可キハ其上下ノ距離殆ソド均一ナルノ事實是ナリ(凡煉化石七段及八段)蓋シ是レ煉瓦積ノ時、日々工ヲ繼クノ際前後モルタルノ粘着其宜キヲ得サルノ結果ニハ非ルカ猶同所鐵工場ニ於テモ同様ノ水平罅裂ヲ見ル右ノ外損害ノ箇所ハ一般ニ北ノ面ニ稀ニ東西南ノ三面ニ多キヲ見レバ(第一圖ハ南面ノ壁ナリ)這般災害ノ一因ハ確ニ地形ノ不完全ニ在ルヤ明ナリ

一 目黒村火藥製造所ノ硫黃室(委員中村達太郎報告)
此建物ニ於テハ壁中所々ニ頗ル太キ罅裂ヲ生セリ
罅裂ノ原因ヲ記載スルニ先チ建物ノ構造ヲ略述セバ其地繪圖ハ矩形ニシテ桁行外法三十尺〇六分梁間同四十五尺九寸四分壁厚煉瓦二枚其高ハ地盤ヨリ軒上迄拾七尺六寸腰ノ高二尺九寸七分ナリ而シテ屋根ハ地震ノ當時海鐵板ヲ以テ

蔽ヘリ
罅裂ノ原因ヲ釋スルニモルタルノ粗惡ナル其一ニ算入スルヲ得ベシト信ス而シテ其地形ノ不完全ナルハ主ナル原因ノ一ナルベシ今其地形ノ方法ヲ述ヘンニ地盤下三尺九寸六分ノ所ニ厚板ヲ根切一面ニ並ベアリ而シテ之ヲ支フルニ捨テ以テシ其下ニ杭アルコト第三圖ノ如シ杭ハ真々二尺三寸一分其歩ミ真々三尺三寸ニシテ壁下ニハ根積無ク又コソクコトナシ試ニ杭上ノ目方ヲ計算セシニ一本ニ付キ二噸、六ノ割合ニ當レリ
聞クカ如クンベ數年前内部修繕ノ際杭頭ノ既ニ腐朽セシテ見タリト蓋シ永久水中ニアラザル故ナラン且設令ヘ杭ヲシテ腐朽セザルト假定スルモ尙完全ナル地形ト云フ可ラズ况ソヤ杭ノ腐朽セシテヤ腰卷ニ罅裂アルハ其實證ナラン
右ノ如ク不完全ナル地形ニ在テハ例ヘ屋根ヲ輕クスルモ到底煉瓦壁中龜裂ヲ免ル、一難カルベシ將來杭打地形ヲ用フルモノ注意セズンベアルヘカラサルナリ

一 砲兵工廠砲具庫
砲具庫ハ二棟アリテ各梁間八間桁行五十二間ナリ其四壁傾斜セシコト地繪圖ニ示シアルガ如シ且迫持及ヒ壁ニ龜裂ヲ生セリ

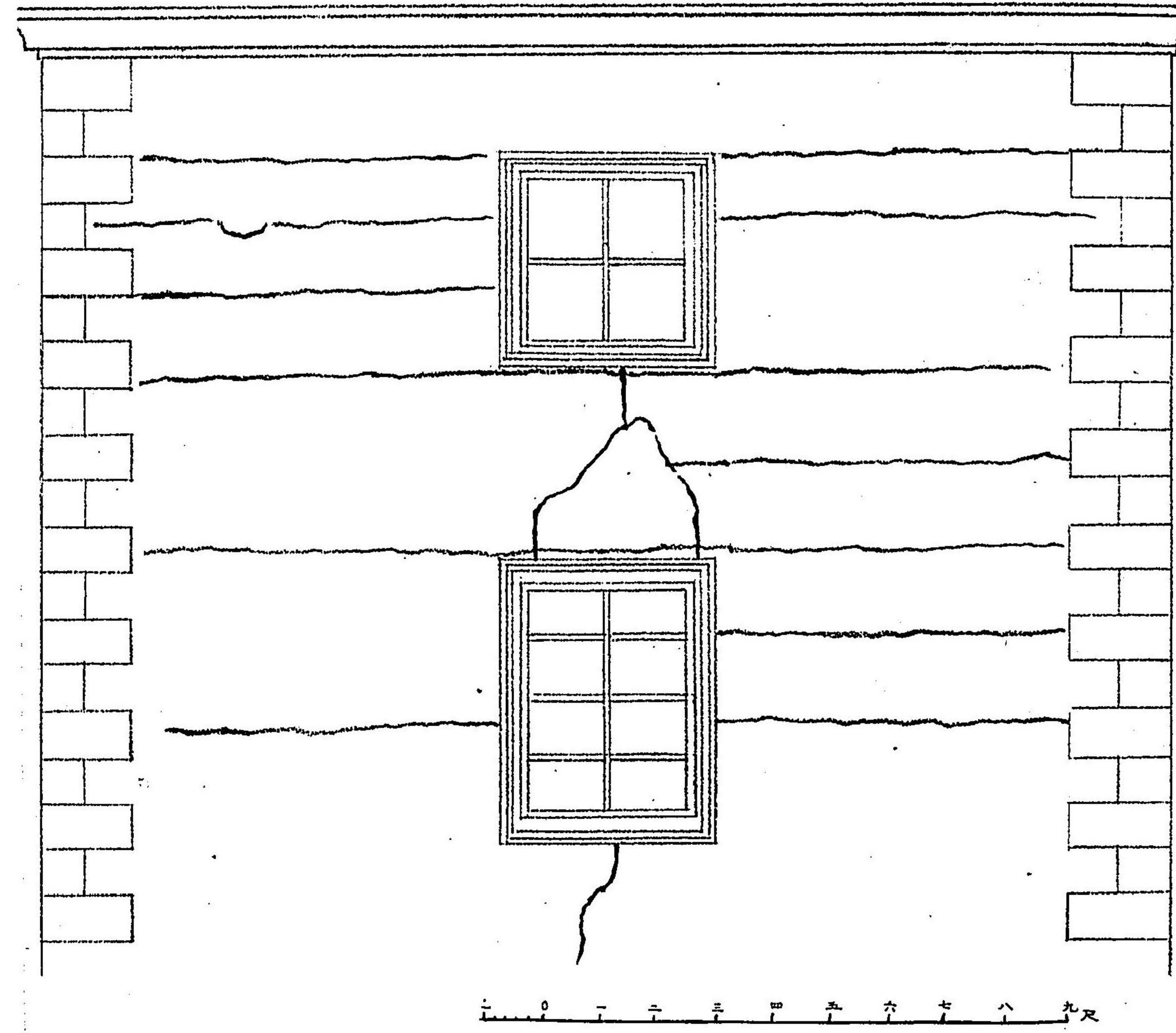
砲兵工廠ノ地ハ古圖ヲ案スルニ神田河底ニ當ルヲ以テ地質ノ粗惡ナル殊ニ甚ク武拾間以下ニ掘下ルモ尙堅地盤ニ達セスト云フ(傳ヘ云フ此砲具庫ハ三間杭式本ヲ打込ミタリト)此砲具庫ハ明治ノ初年最モ注意シ費用ヲ節セズ(或ハ外人ノ關係スルモノアリシト云フ)構造セラレタルモノナレバ張間ノ廣大ナルト壁中ニ柱ヲ積ミ込ミシト地質ノ粗惡ナルトニ源因シ斯ル結果ヲ生セシモノナランカ(第六圖參照)

一 第一師團小銃彈藥庫
此倉庫ハ梁間五間桁行十三間ニシテ赤坂區青山第一師團司令部ノ南隅ニ在リ名ニシ負フ蛇池ニ臨ミ全ク盛立地ナレバ杭打地形ヲ爲シ六尺以上割栗石ヲ突入レ其上ニ側石ヲ据エタルモノニシテ同大ノ倉庫總ヲ三棟アレドモ他ハ無害ニシテ此庫ノミ此度ノ震災ニテ地盤ヨリ第四圖ノ如キ龜裂ヲ生シタリ

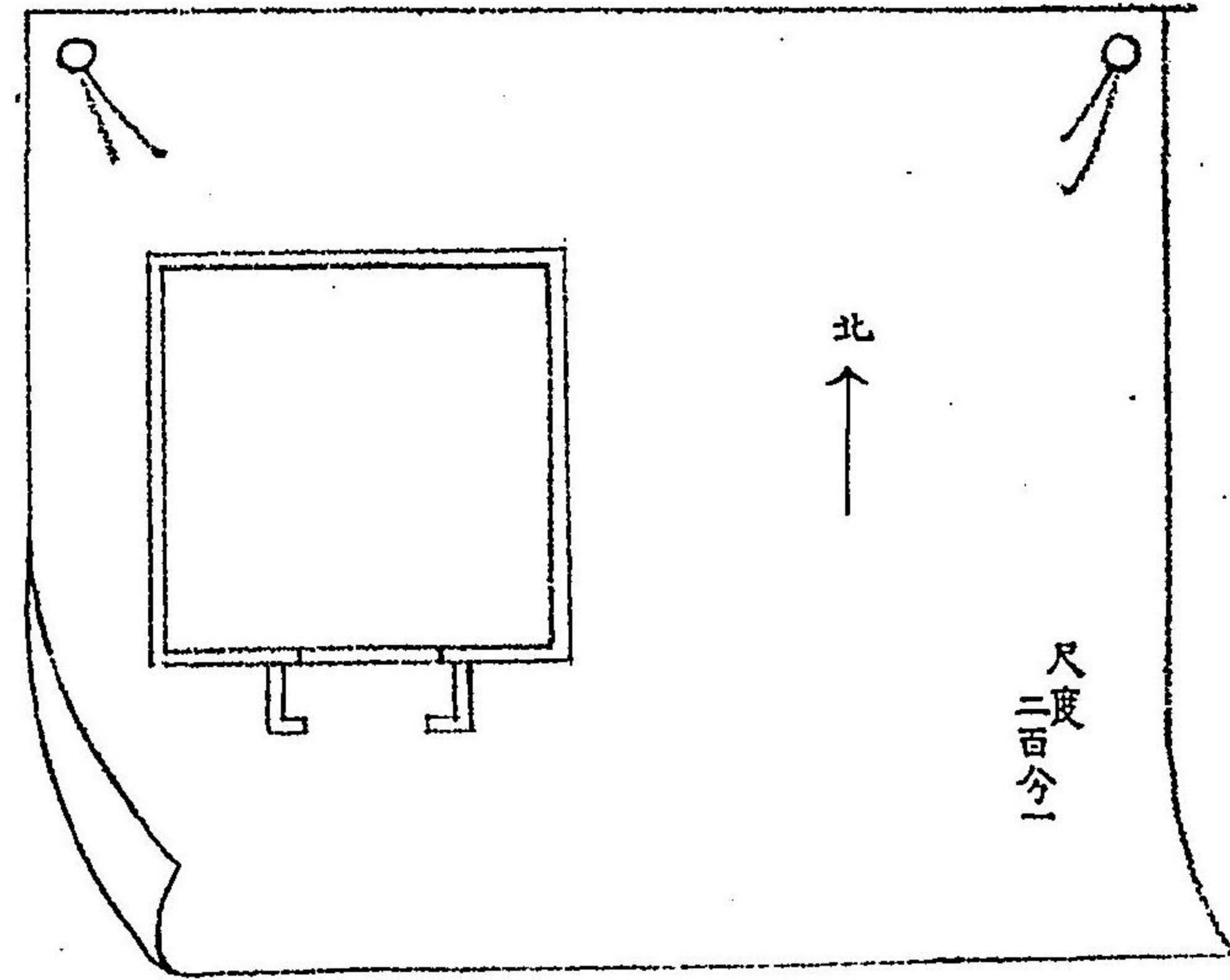
一 麻布四ノ橋製綱會社(山崎定信報告)
社員ノ言ニ依レバ同處ハ地質頗ル軟弱ニシテ通常ノ地形方ヲ施ス能ハサルヲ以テ「ウェルファウンデーション」ノ法ヲ用ヒタリ然ルニ落成後多少ノ罅裂ハ存在セリト今實地ヲ驗スルニ今回ノ地震ニ依リテ生シタル罅裂ハ甚タ少ク何レモ舊來ノ罅裂ノ増大シタルガ如シ其尤モ甚キモノ一ヶ處ヲ撮

影シタリ又小屋梁受煉瓦製支柱ノ梁ト接シタル上部分ハ梁ノ動搖シタル爲メ何レモ欠損シタリ又小屋組ノ真東ト梁トハ卷鐵物ヲ以テ繋キボールトニテ締メ付ケアルモノ今回ノ震災ニ遇ヒ真東ト梁トノ間ニ空隙ヲ生シタリ
一 精密工場(山崎定信報告)
小石川陸軍砲兵工廠構内ニアリ梁間凡四間桁行參拾間餘ノ煉瓦造平家建切妻作リナリ被害ノ箇所ハ桁行ノ窓臺下部ニ於テ水平罅裂ヲ生シ隅ニ至リ傾斜シテ軒ニ達ス兩側トモ罅裂ノ状態モ異ナルコトナシコレ地形ノ不完全ニシテ局部ノ沈下ニ基クナラン

圖一第



橫濱航路標識管理所燈臺



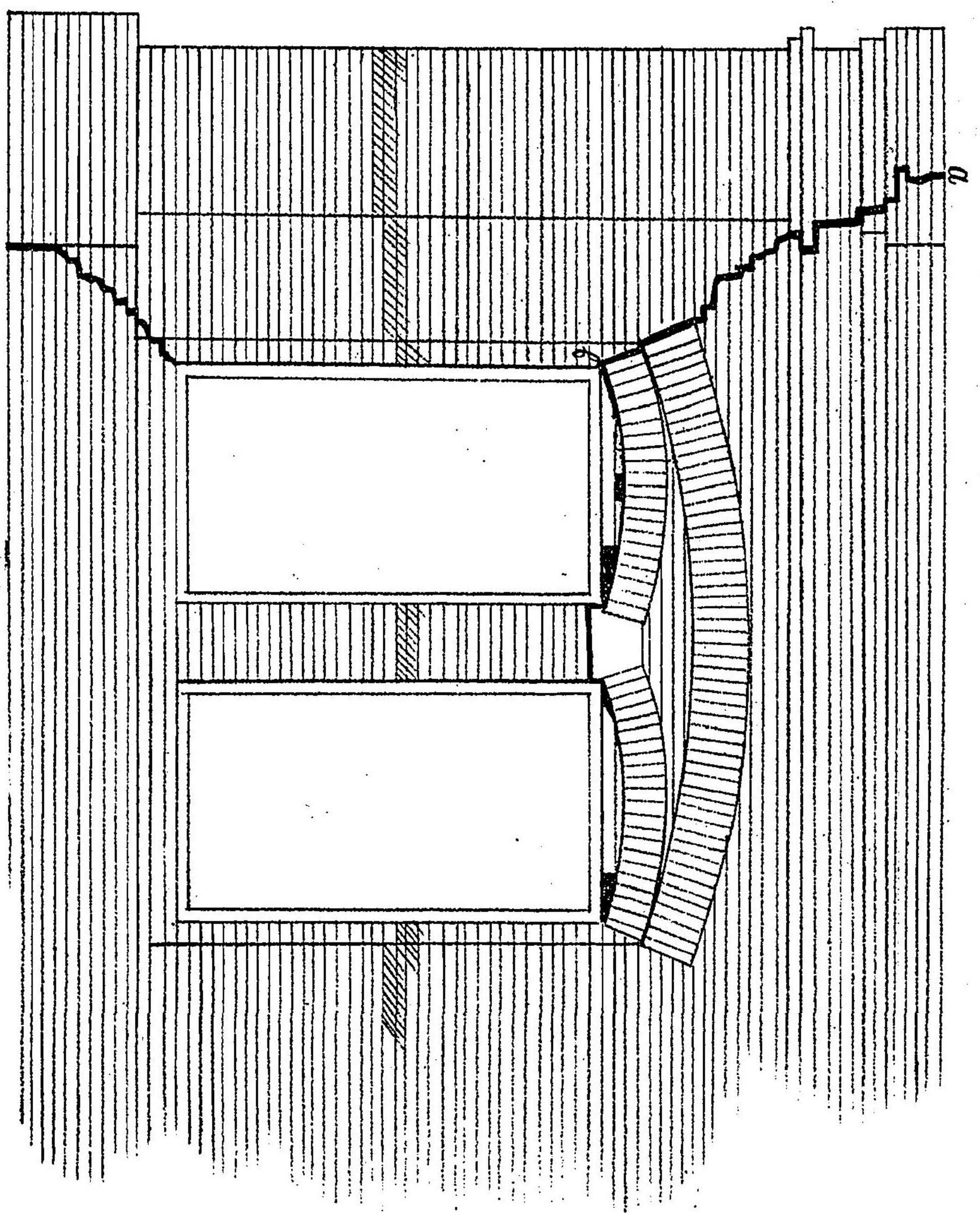
大學院學生 工學士塚水晴生

参照第二 東京附近震災被害建築物等調査報告

（以下為模糊之日文報告內容）

圖 二 第

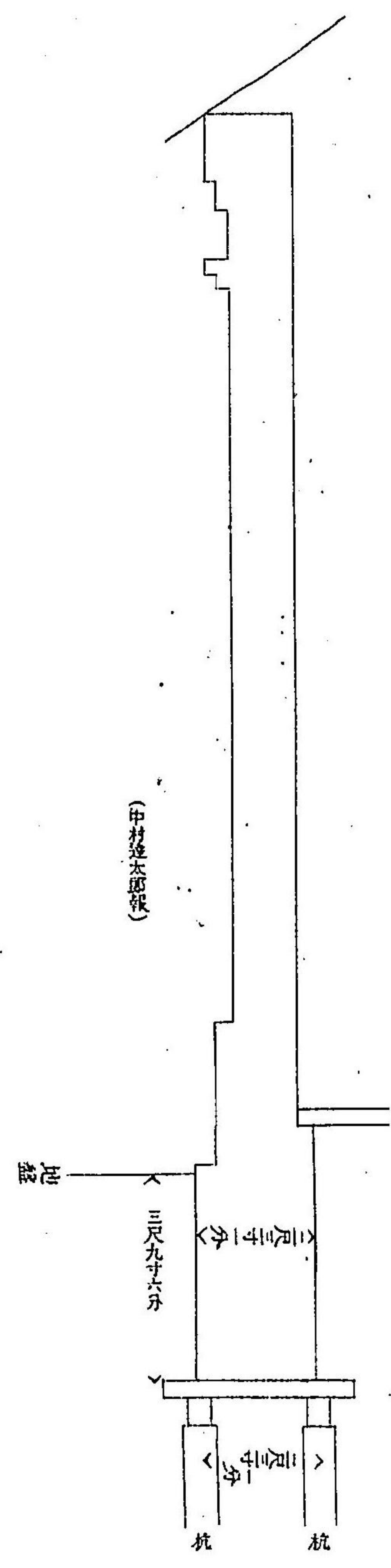
目黒火藥製造所内
硫黄精製室南東面外壁

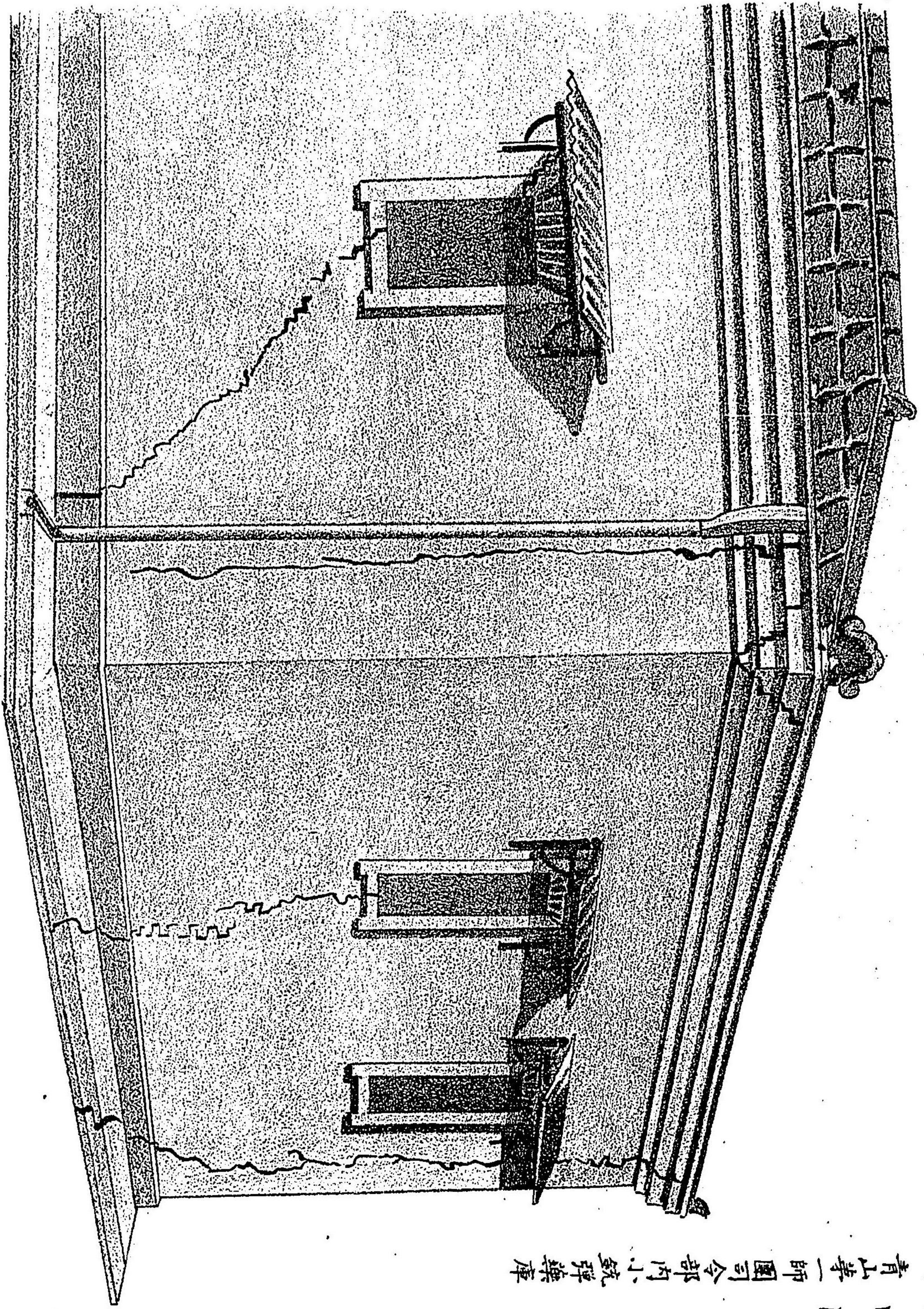


乙の同破れを甚く大し處六七分幅あり對邊即ち西北外壁へ位置全條
毀裂し其内壁、直角壁即ち東北側、上部、外方傾斜せり

(注 写真定時上)

第三圖 目黑火藥製造所內
硫黃精製室切面





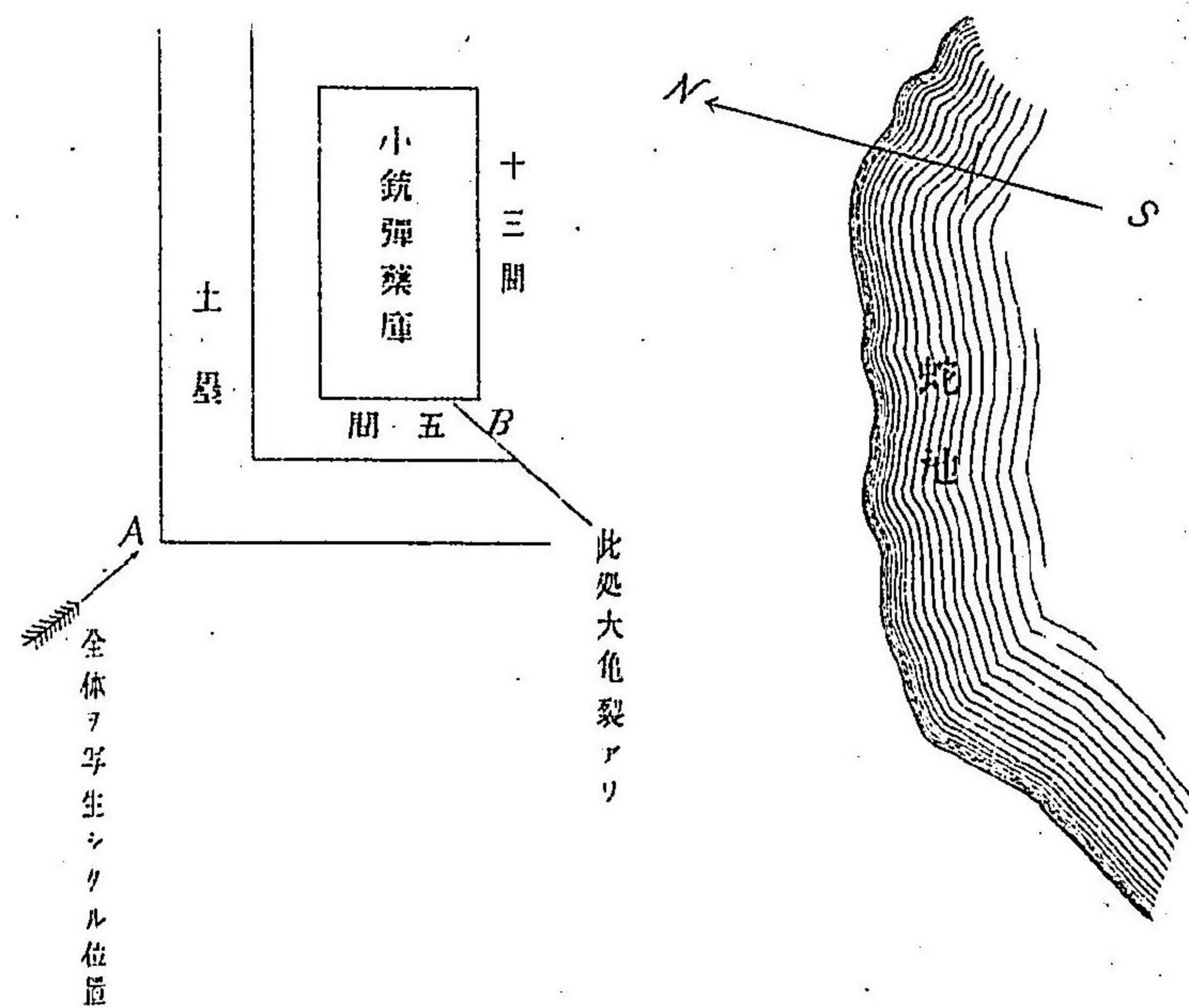
青山第一師團司令部內小銃彈藥庫

第四圖

圖五第

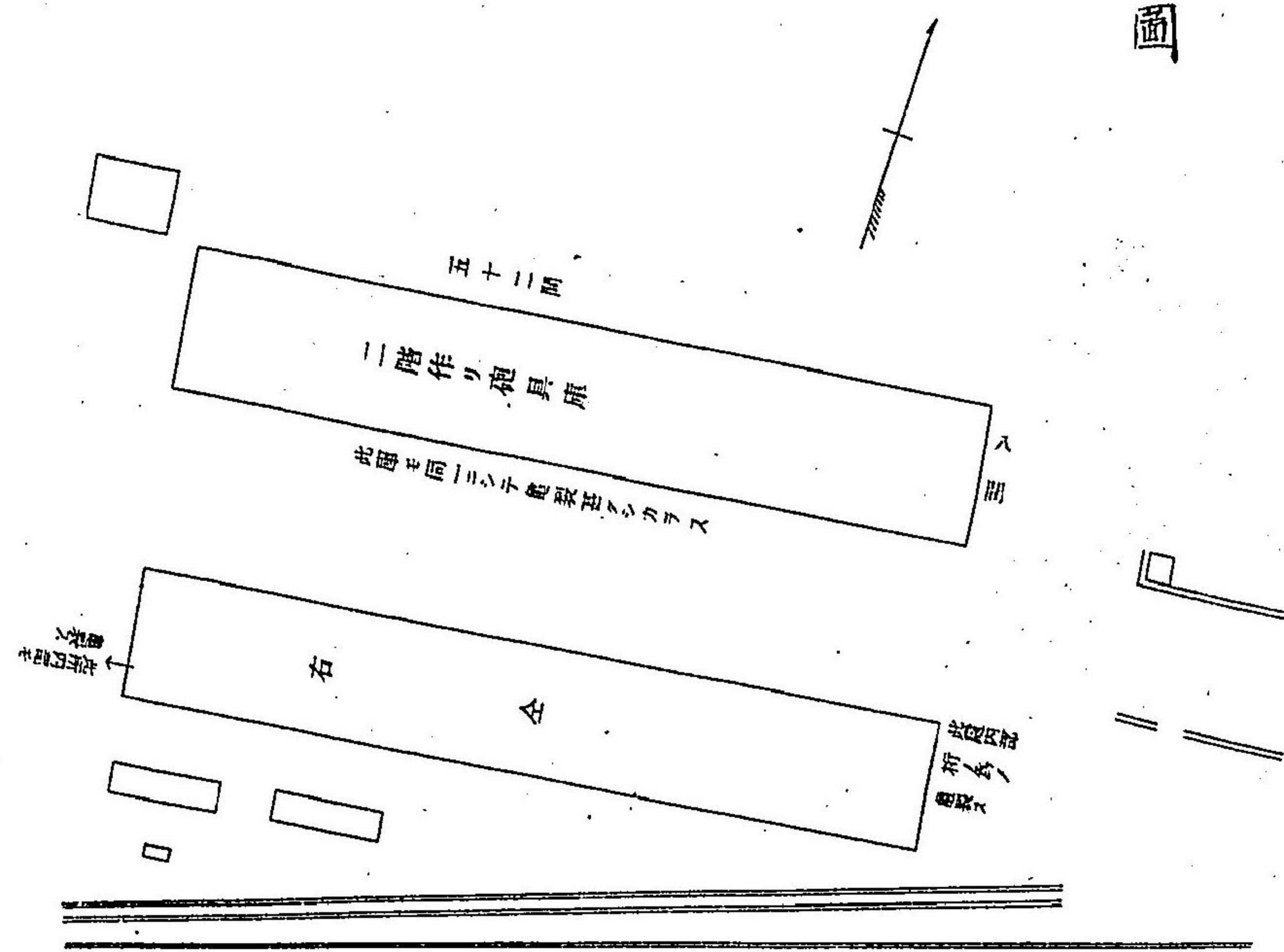
圖之置配庫藥彈銃小園師一第

此倉庫ハ赤坂區青山第一師團司令部ノ南隅ニ在リテ名ニシテ負フ蛇池ニ
 臨ミ全ク盛立地ナレバ抗打地形ヲ爲シ六尺以上割栗石ヲ突入レ其上ニ
 側石ヲ据ヘタルモノニシテ同一大サノ倉庫三箇アレ他ハ無害ニシテ
 其中ノ一箇此度ノ震災ニテ地盤ヨリ圖ノ如キ亀裂ヲ生シタリ

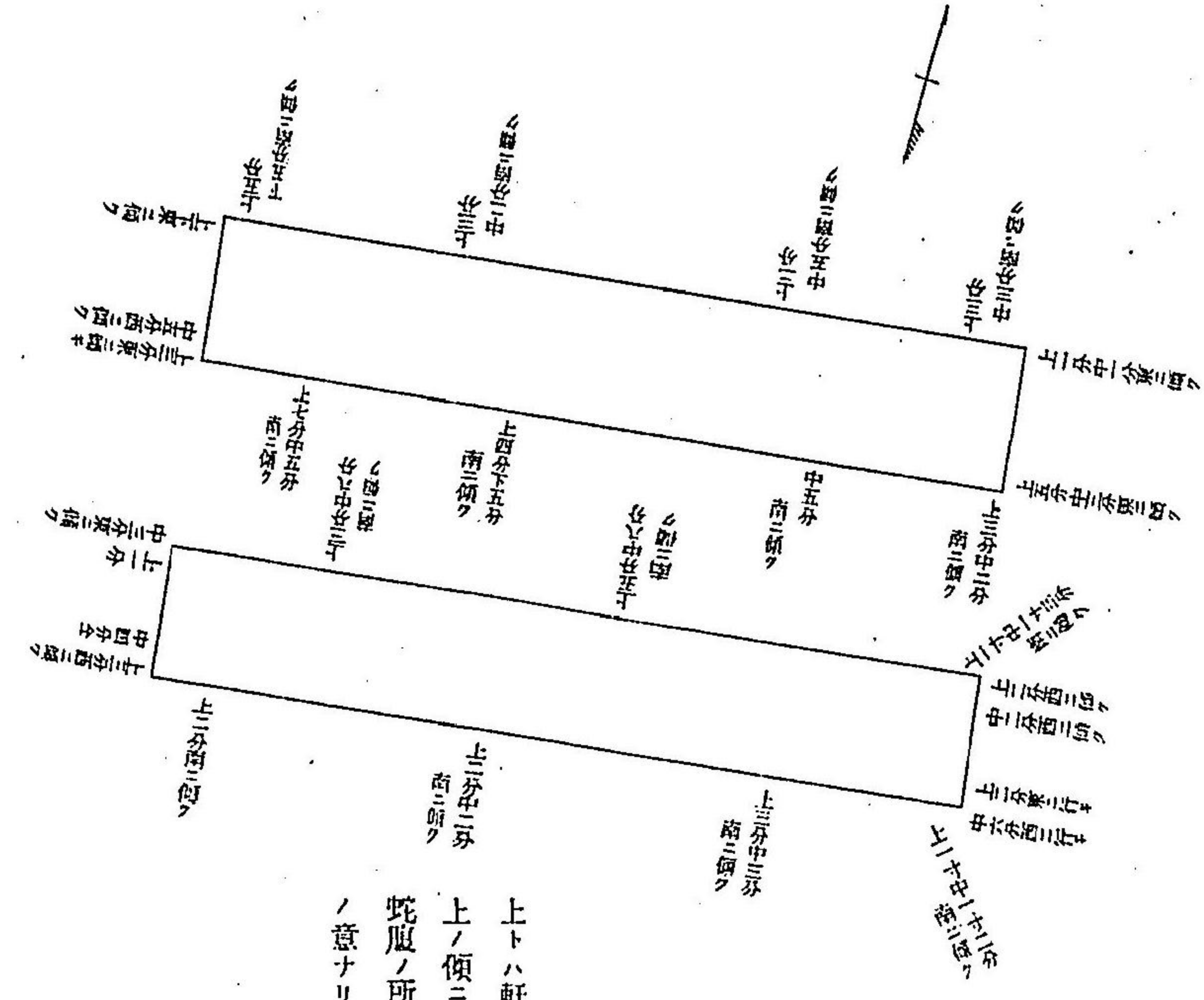


第六圖

砲具庫配置圖
縮尺 十分之二



砲具庫全體傾斜度



砲兵工廠ノ地ハ古關ヲ築スルニ神田河底ニ當ルヲ以テ地質ノ粗悪ナル殊ニ甚クシク二十間以下ニ掘下クルモ尚ホ堅地盤ニ達セスト云フ
 (傳ヘ云フ此砲具庫ハ三間杭ニ承テ打込ミタリト云フ)
 此ノ砲具庫ハ明治ノ初年最モ注意シ費用ヲ節セズ(或ハ外人ノ關係スルモノアリシト云フ)構造セラレタルモノナレバ張間ノ廣大ナルト壁中ニ柱ヲ積込ミシト全ク地質ノ粗悪ナルト
 三元因シ斯ル結果ヲ生ゼシモノナランカ

上トハ軒下ニ階脚ノ處
 上ノ傾ニシテ中トハ脚
 ノ處ノ所下トハ個右
 ノ意ナリ

(二) 崖際ニ在ル建物

一 東京府尋常師範學校(同校)

本校ニ於テハ別ニ大ナル影響ヲ被ラズ唯處々ノ壁ノ破損ヲ生シタルニ過ギズ

本校ハ府下小石川區竹早町八番地ニ在リ南及西ノ二面ハ所謂小石川高臺ノ一部ニ相當セル街衢ニシテ東ト北ノ二面ハ本校敷地ヲ限トシ次第ニ傾斜ヲ爲シテ低下セリ

校舍ハ明治二十二年ノ建築ニ係リ洋風木造ノ瓦葺ニシテ大跡六棟ニ分カレ附屬ノ小建物數個アリ各建物トモ礎石ハ甚々深カラズ地上ニ露出スル所ハ大約貳尺ニシテ二層ヨリ成ル

破損箇所ハ本校敷地ノ東及北ノ部ニ多クシテ多クハ傾斜ノ崖際ニ近キ部分ナリトス而シテ西南部ニアリテハ殆ソド破損ヲ認メズ(第七圖參照)

一 第一聯隊火藥庫

麻布第一聯隊火藥庫ハ麻布第一聯隊營北隅ニ在リテ東北西北ニ方ハ絶崖ヲ以テ廻ラスヲ以テ震動甚シカリシナルベク圖ニ示スカ如ク兩妻ニ於ケル煉瓦ヲ剝脱シ四面ノセメント塗壁ニ及ボス龜裂モ亦甚シ(第八圖參照)

一 行政裁判所

同建物ハ今回ノ震災ニ損害ヲ被フリシト頗ル多シ其原因ノ一ハ基礎ナラン元來同所ハ崖際ニ臨ミ居ル故隨テ震動モ激烈ナリシナランカ

一 陸軍々醫學校

同校ニ於テハ壁ニ水平罅裂ヲ生セシモノ頗ル多ク其他追持上、天井蛇腹等ニモ龜裂ヲ生セリ但シ本校ハ傾斜地ニ在ルヲ以テ損害ノ一原因ハ基礎ナラン

調査の結果、被災建物の被害状況は、概して、

（一）木造建築物は、柱の折損、梁の脱落、屋根の崩壊等、

（二）煉瓦造建築物は、壁の崩壊、窓枠の脱落等、

（三）鉄骨造建築物は、柱の折損、梁の脱落等、

（四）洋式建築物は、柱の折損、梁の脱落等、

（五）土蔵等は、壁の崩壊、屋根の崩壊等、

（六）その他、

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

（十五）

（十六）

（十七）

（十八）

（十九）

（二十）

第七圖

東京府尋常師範學校

小石川區守町八番地
二十二年建築

破損ハ敷地ノ東及北ノ部ニ多クシテ多クハ傾斜ノ際産ニ近キ部分ナリトス

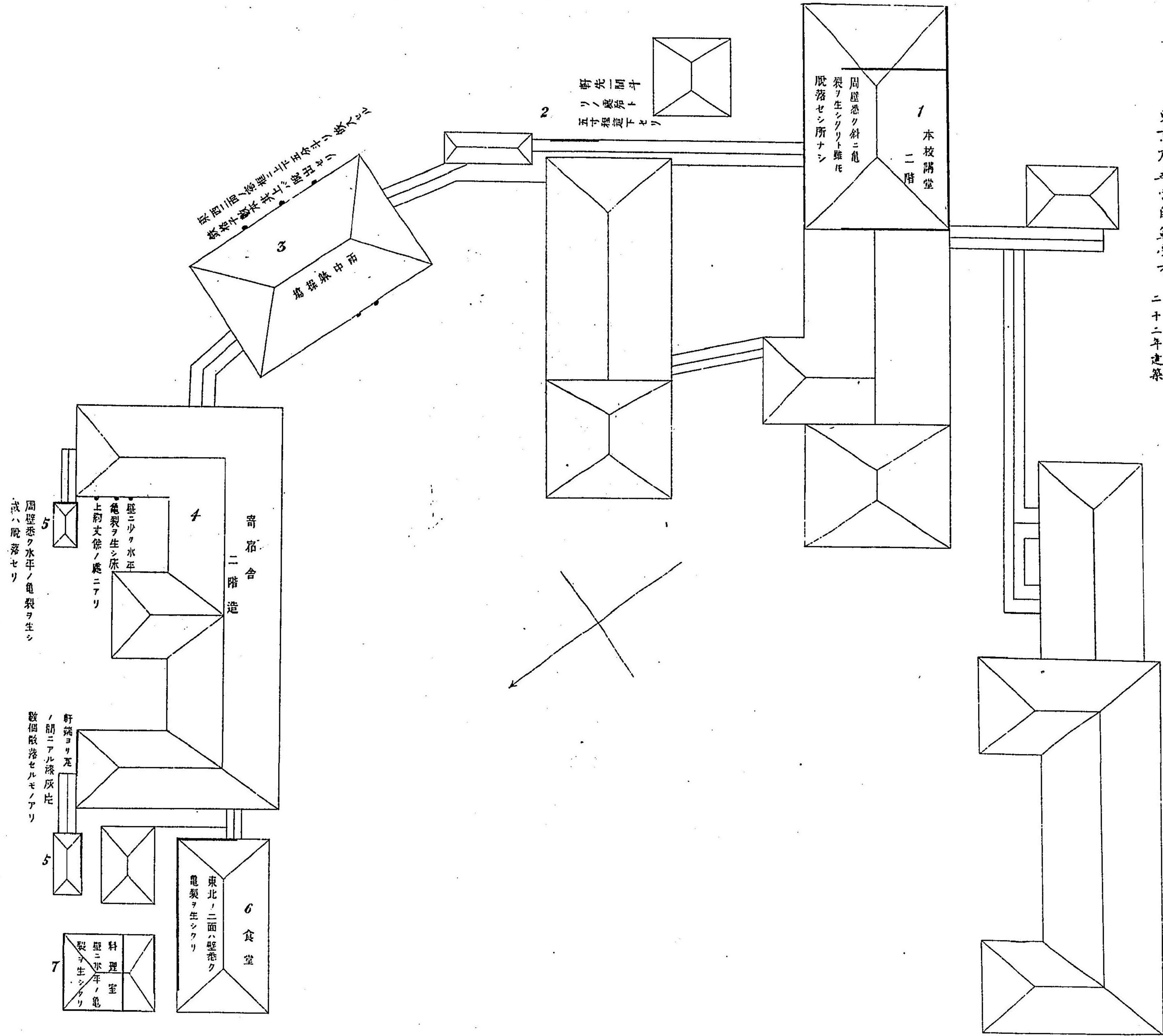
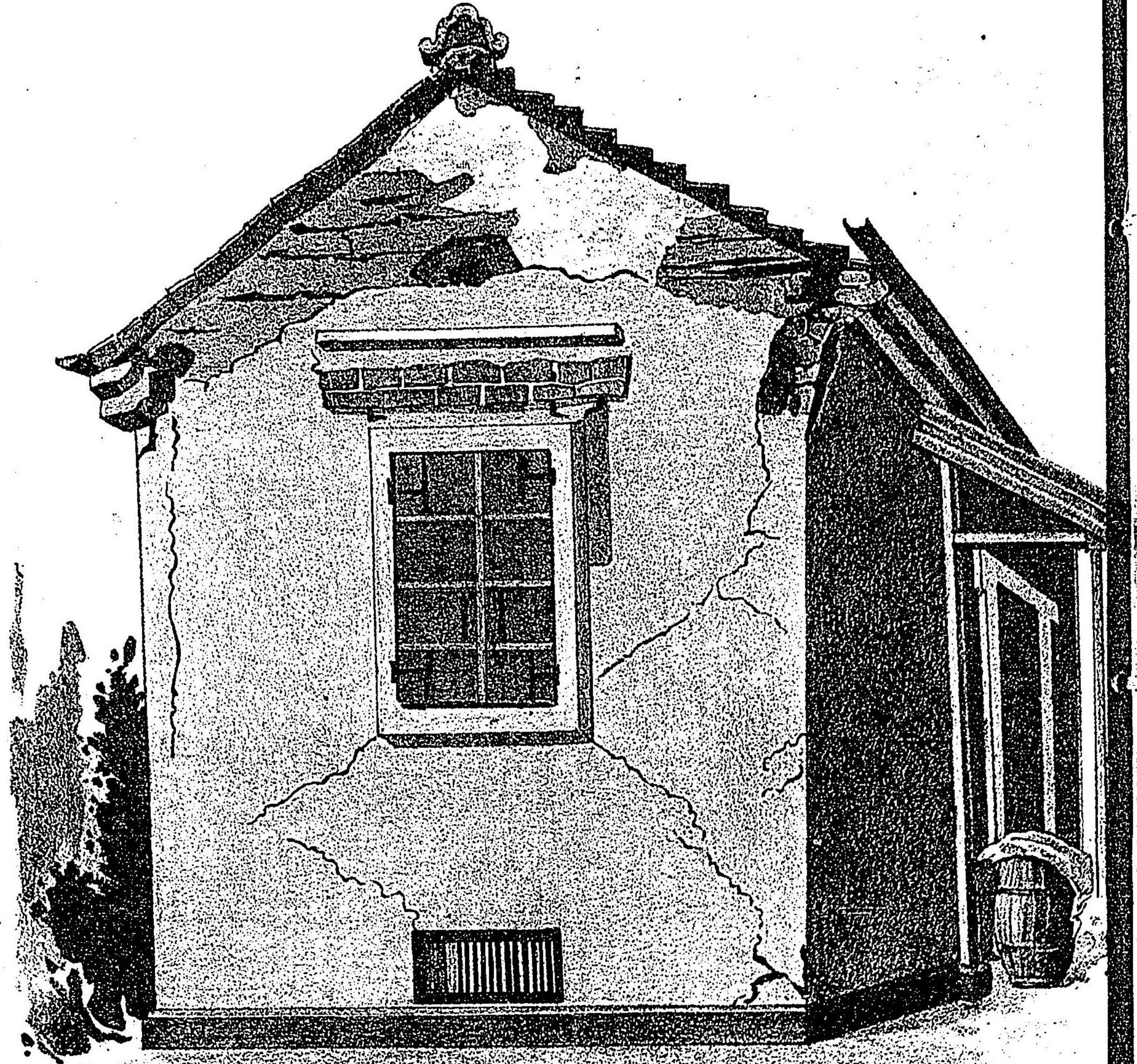


圖 八 第

落剝裂龜壁庫藥火隊聯一第布麻

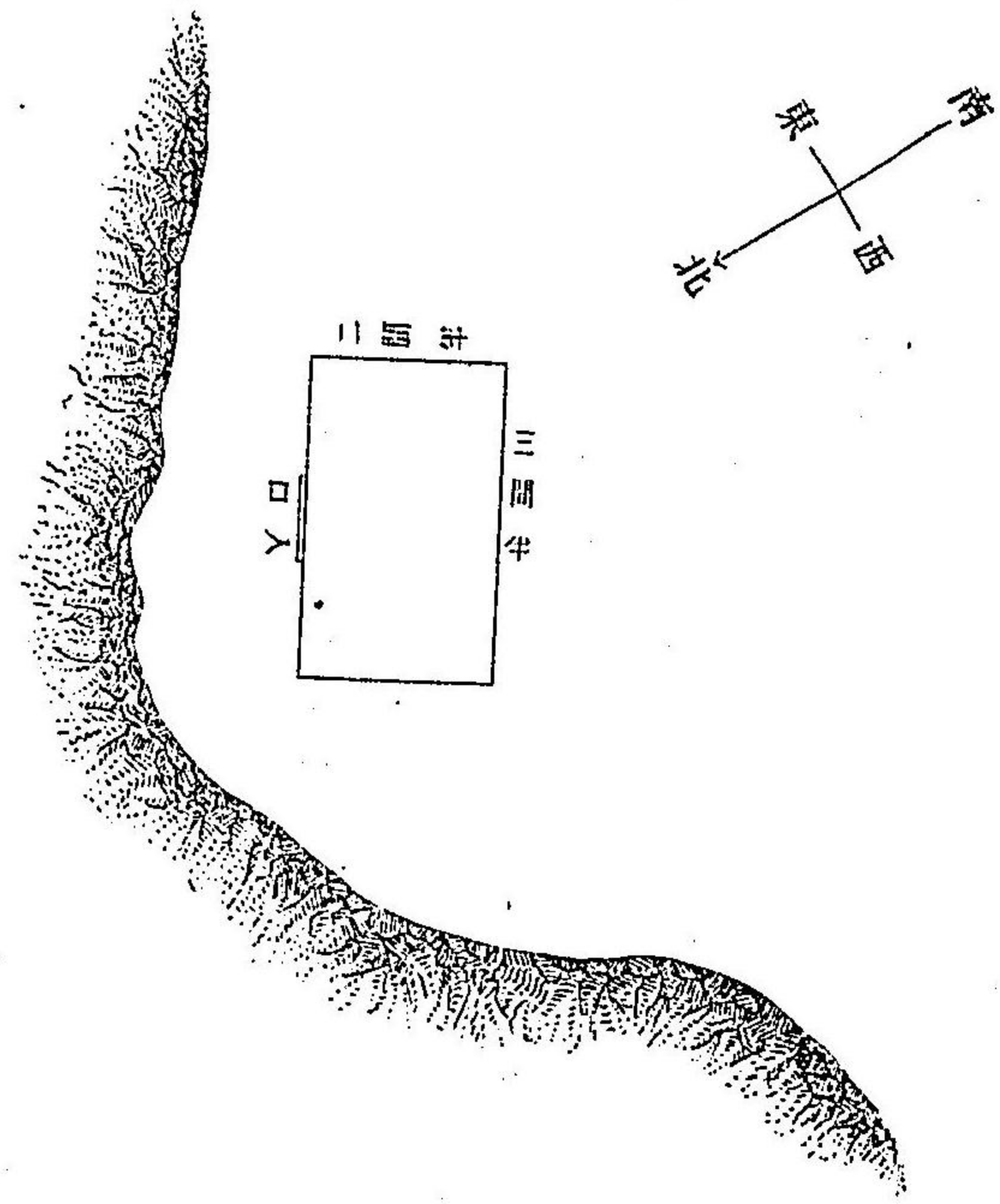
(造瓦椽骨木)



麻布第一聯隊火藥庫平面配置圖

此建物ハ麻布歩兵第一聯隊管北隅ニ在リテ東北西北二方ハ絶崖ヲ以テ廻ラスヲ以テ震動甚シカリシナルメク圖ニ示
スカ如ク兩妻ハ木骨ノ震動煉瓦ヲ剥落シセント塗壁ニ及ボス亀裂モ亦甚シ

第九圖



元來第一聯隊ハ般モ高城ノ地ニ在リテ二方ハ險坂ヲ以テ廻ラセテ多クハ木造建築ナルヲ以テ震害隨テ少シ水部煉瓦
造ハ四隅蛇腹ニ亀裂アリ烟筒或本落下ノ一方ハ幸ニ軒壁上ニアルヲ以テ屋根ニ當ルナク南側壁ノ下ニ落ツ一方ハ
北側ノ屋根ニ南方ヲ向キテ落タレモ甚シク家根ヲ害サス其他拾四水ノ煙突多クハ附根ヨリ二段上リシ所ニ亀裂アリ
リ又々窓ハ皆閉ニ多少ノ亀裂アリ

(三) 外側壁ノ張出し

一印刷局(委員中村達太郎報告)

同印刷版部ハ東京市中最モ古キ煉瓦家ノ一ナリ即チ正面ニ
鳳凰ノ飾アル建物ニシテ階上ニハ梁間十間程ノ廣大ナル間
ヲ有ス其南方ノ外側壁ハ小屋梁下ニ於テ二寸程張出シタリ
コレ全ク小屋ノ推力ニ歸因スルコトナラン
是建物ハ壁厚上下貳枚半積ニシテ軒高ハ地上四拾壹尺餘ナ
リト云フ

一砲兵工廠(全上)

同廠構内小銃製造所ハ階上ニ於テ梁間十間程ノ廣大ナル間
ヲ有ス其壁厚ハ階下三枚積階上貳枚積ニシテ當時屋根ハ亞
鉛板葺ナリ其外側壁ハ軒近クニ於テ三寸四分程南方ニ推シ
出サレタリコレモ亦小屋組推力ノ致ス所ナラント思考ス

一東京工業學校(全上)

同校木工場左右ノ壁ハ一軌ニ張り出シタリ

一農商務大臣官舎(全上)

官舎ノ南部某室ニ於テハ外方ニ面スル壁ノ長ハ十七尺程ニ
シテ幅四尺八寸ノ窓貳個ヲ有ス窓皿板ハ床ヨリ二尺七寸上
ニ在リ且其外部ニ於テハ下家アリテ其棟ハ窓下九寸ノ處ニ

アリ
右ノ壁ハ小屋ノ推力ニヨリ外へ少シク張り出シタル様見受
ケタリ

一學習院(全上)

廊下ノ壁ノ張り出シタルモノ三ヶ所程見タリ

一 川崎驛(委員原口要報告)
驛長官舎ノ一部分線路ノ方へ三吋傾斜ス即チ第十圖ノ如シ

一本所區裁判所(司法省報告)
本館ハ木造平家ニシテ明治十一年ノ建築ナリ腐朽ノ爲メ其
震動一層甚ク随テ家屋ニ被害多シ傾斜セシヨ三寸ニシテ其
他屋根瓦壁等破損セリ

一 内閣(委員中村達太郎報告)
木造二階建ナル内閣ノ後部ハ少シク轉置セシヨ第十一圖上
點線ノ如シ

(四) 傾斜及轉置

一 川崎驛(委員原口要報告)
驛長官舎ノ一部分線路ノ方へ三吋傾斜ス即チ第十圖ノ如シ

一本所區裁判所(司法省報告)
本館ハ木造平家ニシテ明治十一年ノ建築ナリ腐朽ノ爲メ其
震動一層甚ク随テ家屋ニ被害多シ傾斜セシヨ三寸ニシテ其
他屋根瓦壁等破損セリ

一 内閣(委員中村達太郎報告)
木造二階建ナル内閣ノ後部ハ少シク轉置セシヨ第十一圖上
點線ノ如シ

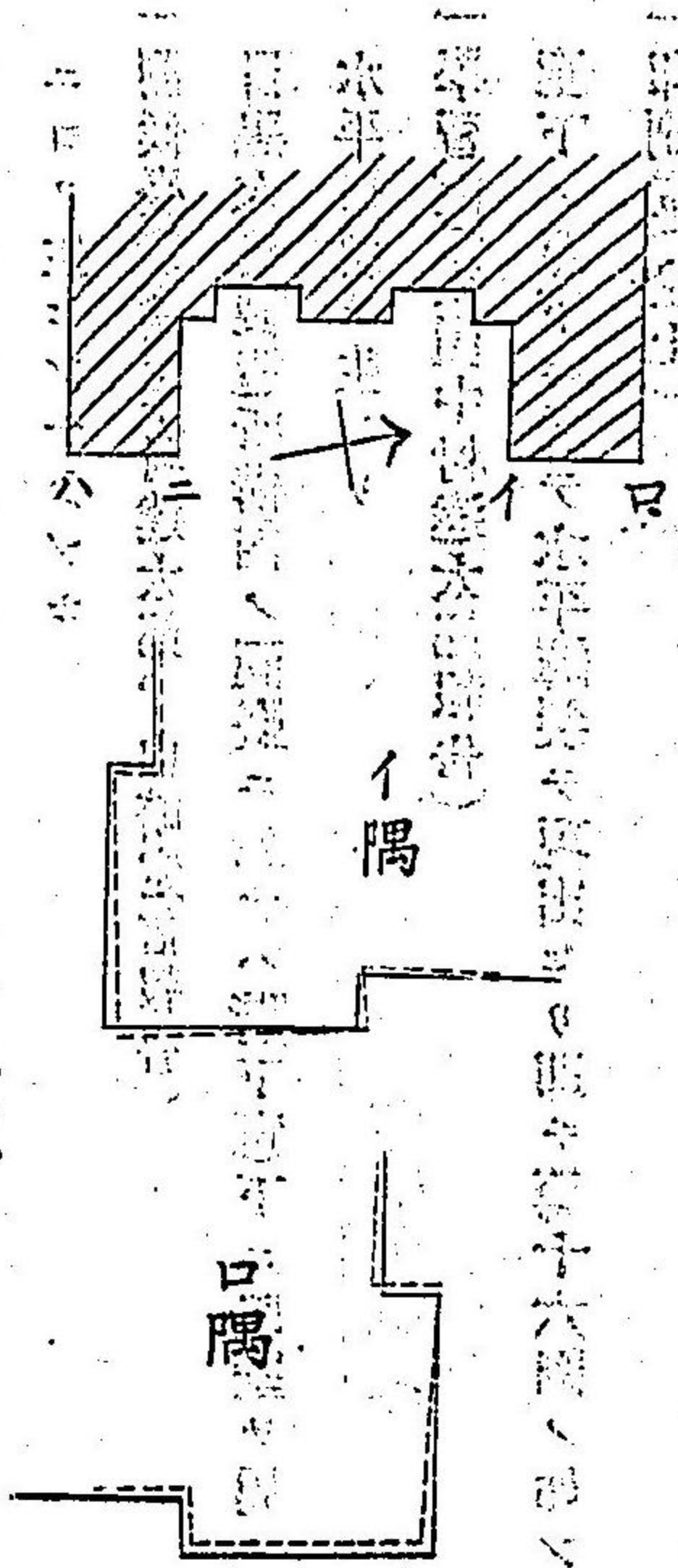
一 川崎驛(委員原口要報告)
驛長官舎ノ一部分線路ノ方へ三吋傾斜ス即チ第十圖ノ如シ

一本所區裁判所(司法省報告)
本館ハ木造平家ニシテ明治十一年ノ建築ナリ腐朽ノ爲メ其
震動一層甚ク随テ家屋ニ被害多シ傾斜セシヨ三寸ニシテ其
他屋根瓦壁等破損セリ

一 内閣(委員中村達太郎報告)
木造二階建ナル内閣ノ後部ハ少シク轉置セシヨ第十一圖上
點線ノ如シ

内閣

第十七圖



(五) 水平罅裂

一 横濱市航路標識管理所燈明機械試驗所 (大學院學生塚本靖報告)

本試験所ハ管理所ノ西北隅ニアリ其被害ノ實況ヲ視察スルニ實ニ奇異ニシテ他ニ多ク其類ヲ見ス即チ數多ノ水平罅裂四壁ヲ廻ルニ是ナリ蓋シ是レ煉瓦積ノ時日々工ヲ繼クノ際前後モルタルノ粘着其宜キヲ得サリシノ結果ニハ非ルカ尙建物ノ來歴ヨリ考フレバ這般災害ノ二因ハ確ニ地形ノ不完

全ニアルヤ明ナリ(第一圖參照)

一 陸軍々醫學校(委員中村達太郎報告)

凡 罅裂ハ建物ノ最弱部ヲ沿フテ生スルハ論ヲ俟タズ水平罅裂ノ如キモ窓間ノ如キ弱部ニ生スルモノヲ多シトス而シテ窓間ノ下部ハ其上部ニ比スレバ水平罅裂ノ實況ヲ呈スルモノ更ニ多キヲ見ル本學校内ノ左右平家ハ二階造ノ間ニ挟マレリ其壁厚ハ煉瓦二枚其長三十六尺ニシテ巾三尺七寸ノ窓四個アリ而シテ左右平家共兩壁ニ於テ窓間ノ下部ニ水平罅裂ヲ生セリコレ地震ニ因テ生セシカ或ハ地形ニ歸因スルカ敢テ斷言ヲ下スコト能ハズ又本校南翼ノ階上ニ於テハ窓皿板ヨリ下ニ於テ水平罅裂ヲ表出セリ而シテ陸軍省調製ノ見取圖ニ依レバ本校北翼ノ階上ニ於テハ窓間ノ下部ハ勿論、上部ニモ水平罅裂ヲ生シタル壁アリ

本校ハ傾斜地ニ在ルヲ以テ被害頗ル甚シカリシナラント信ス(第十二圖)

一 淺野セメント製造所(山崎定信報告)

同所構内ニアル煉瓦造平家建物置ノ側壁ハ側石ヨリ煉瓦八段ノ所ニ於テ水平罅裂ヲ生シ長サ拾間餘ニシテ傾斜シ軒ニ達セリ其間ニアル壁ハ悉ク顛倒シタリ

一 愛宕館高塔(工學士遠藤於菟報告)



第十三圖 芝區愛宕館最上層內部之圖

圖 四 十 第

上階院啜訓旧地築

間 廣

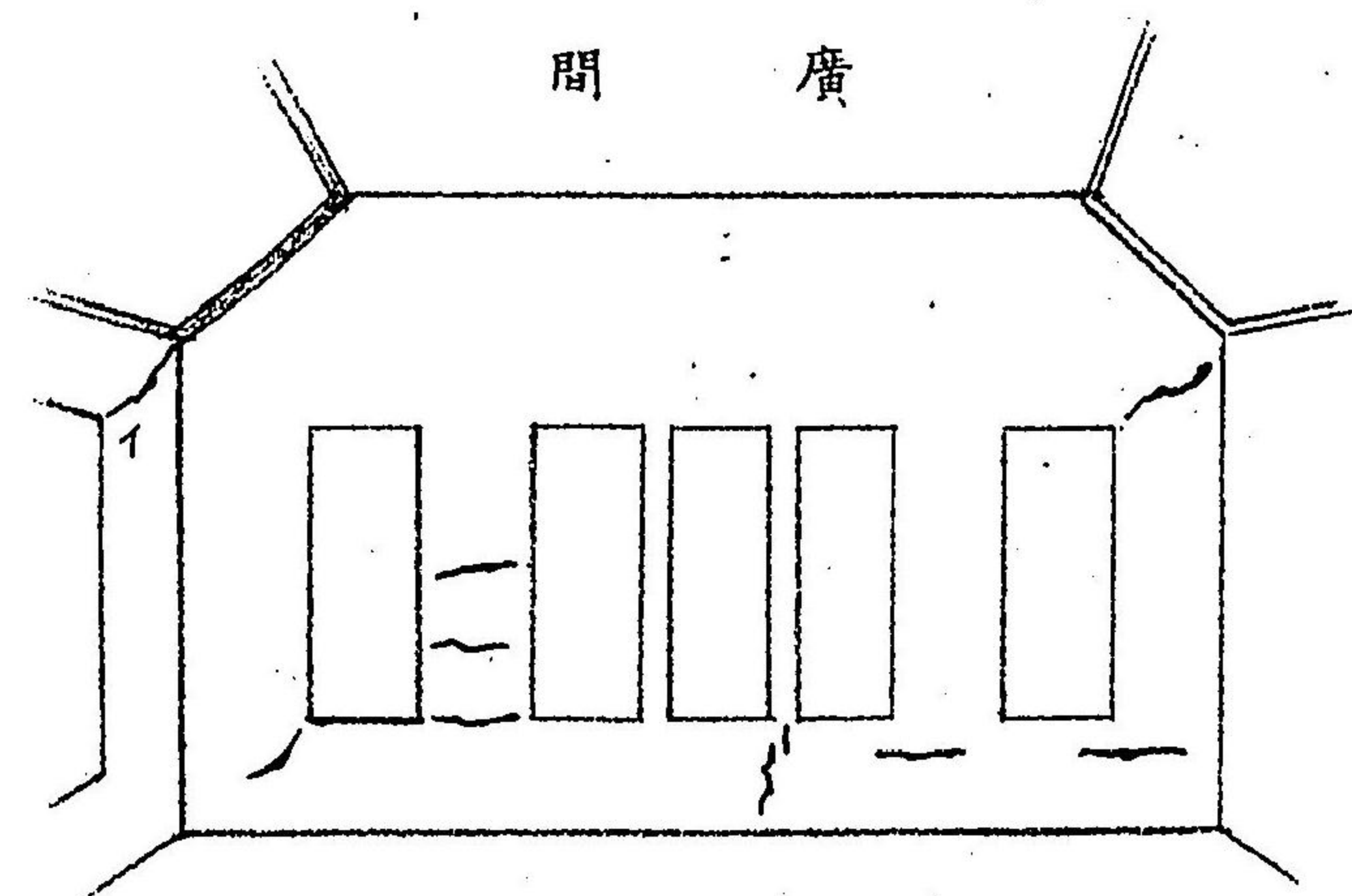
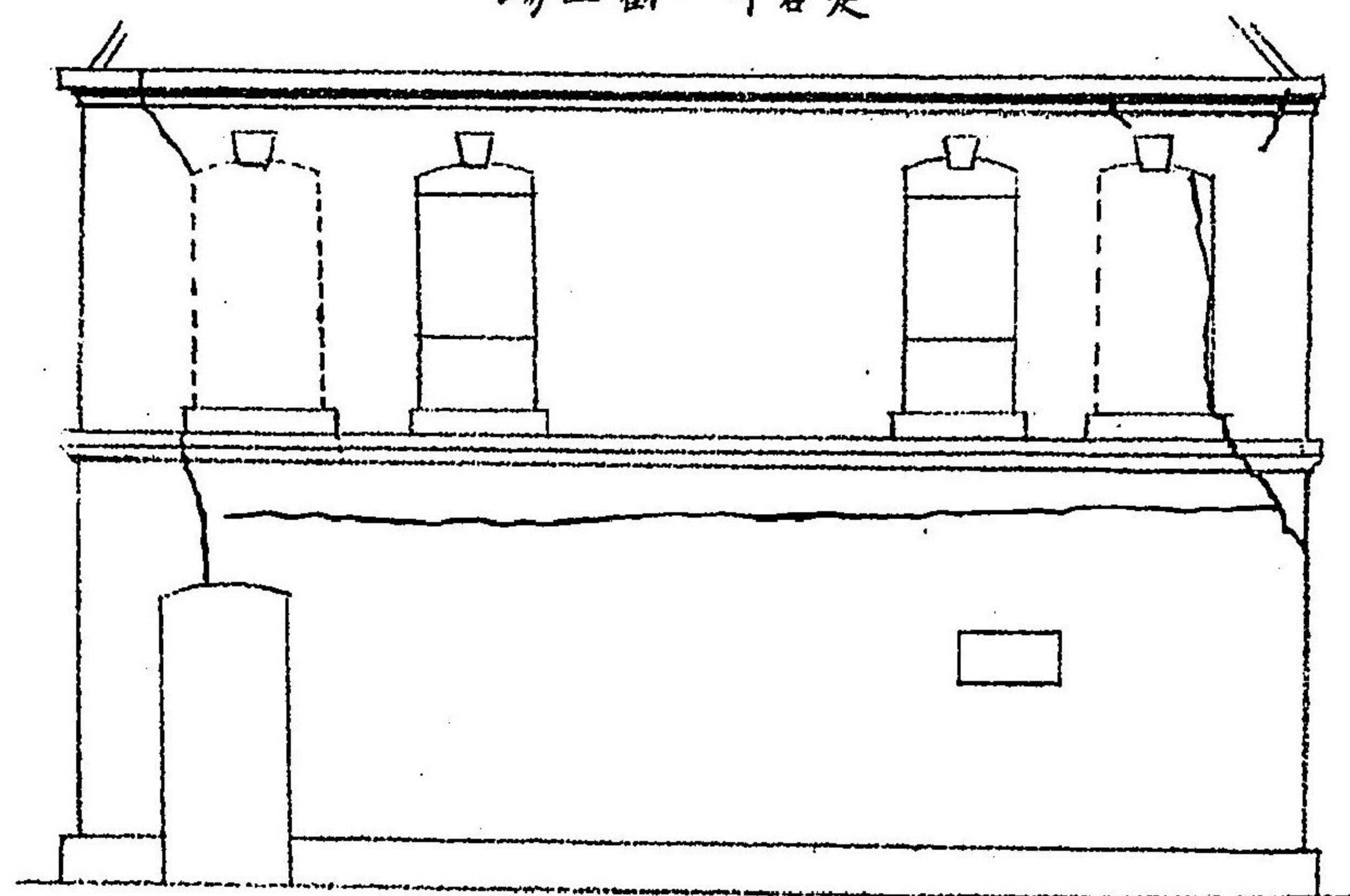
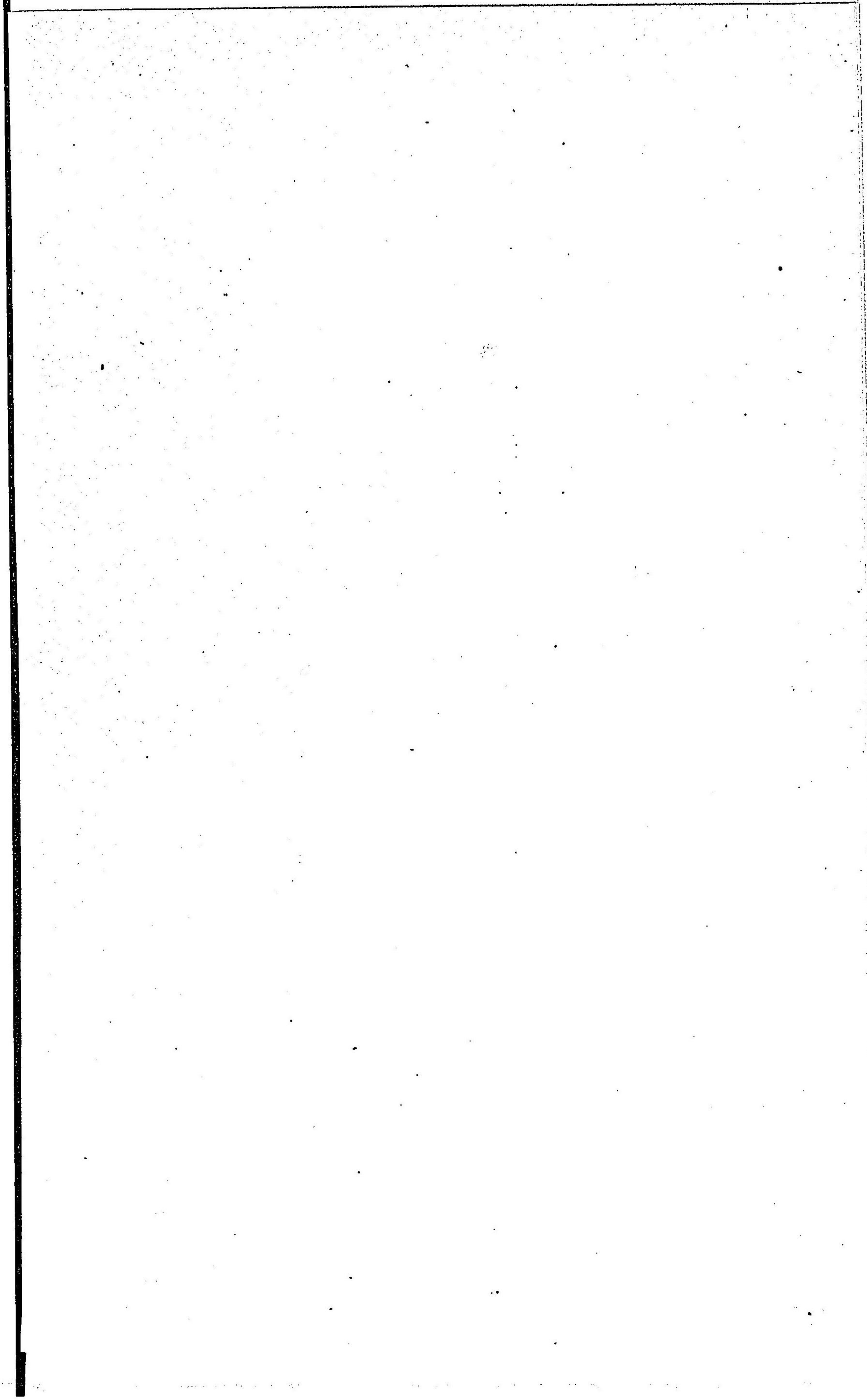


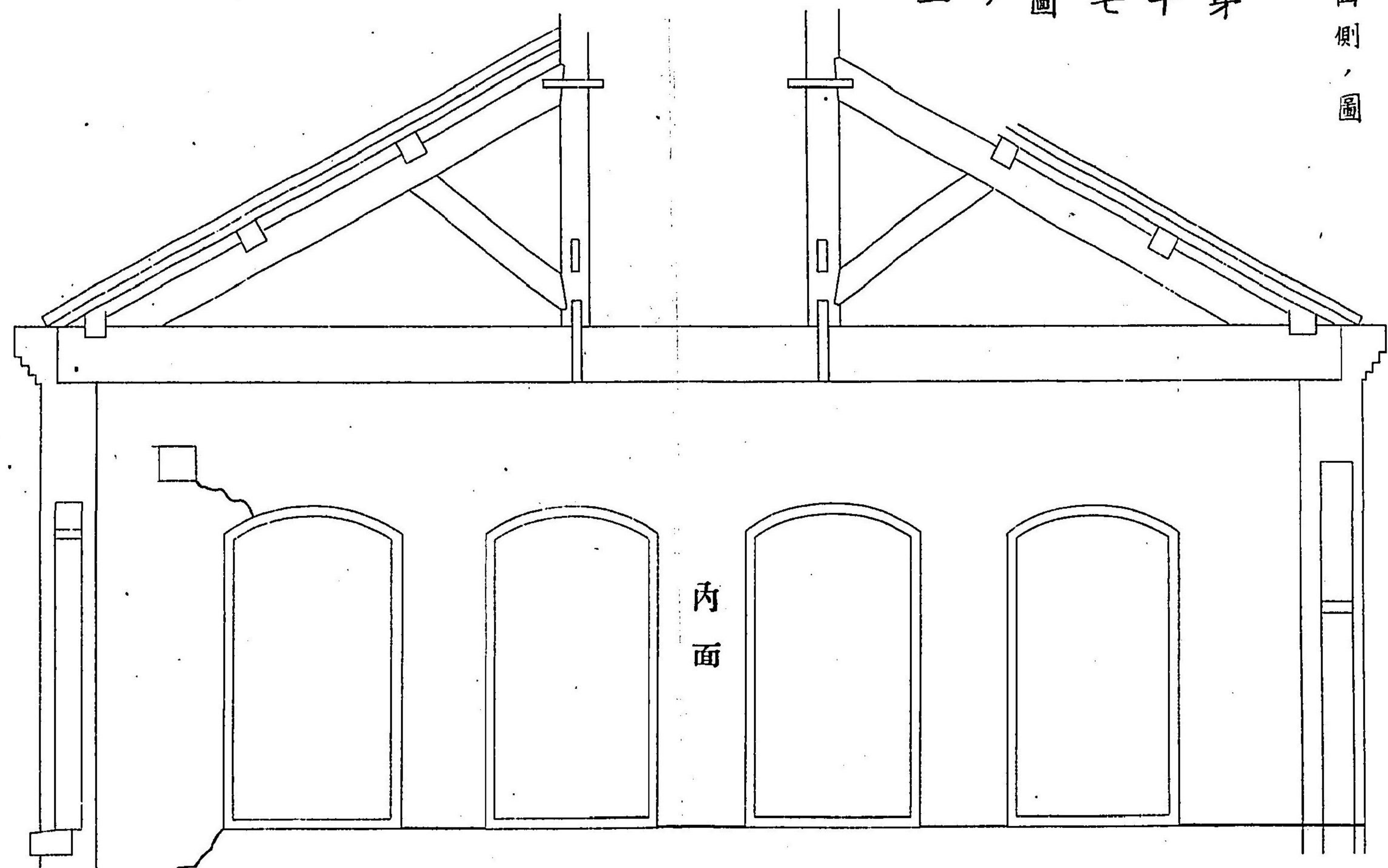
圖 五 十 第

場工勸，町宮突



(附 中)

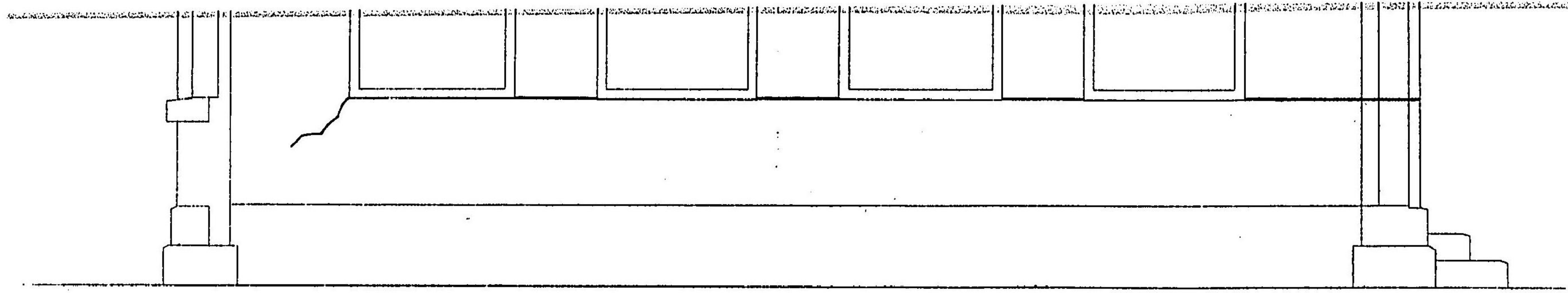




第十七圖

西側圖

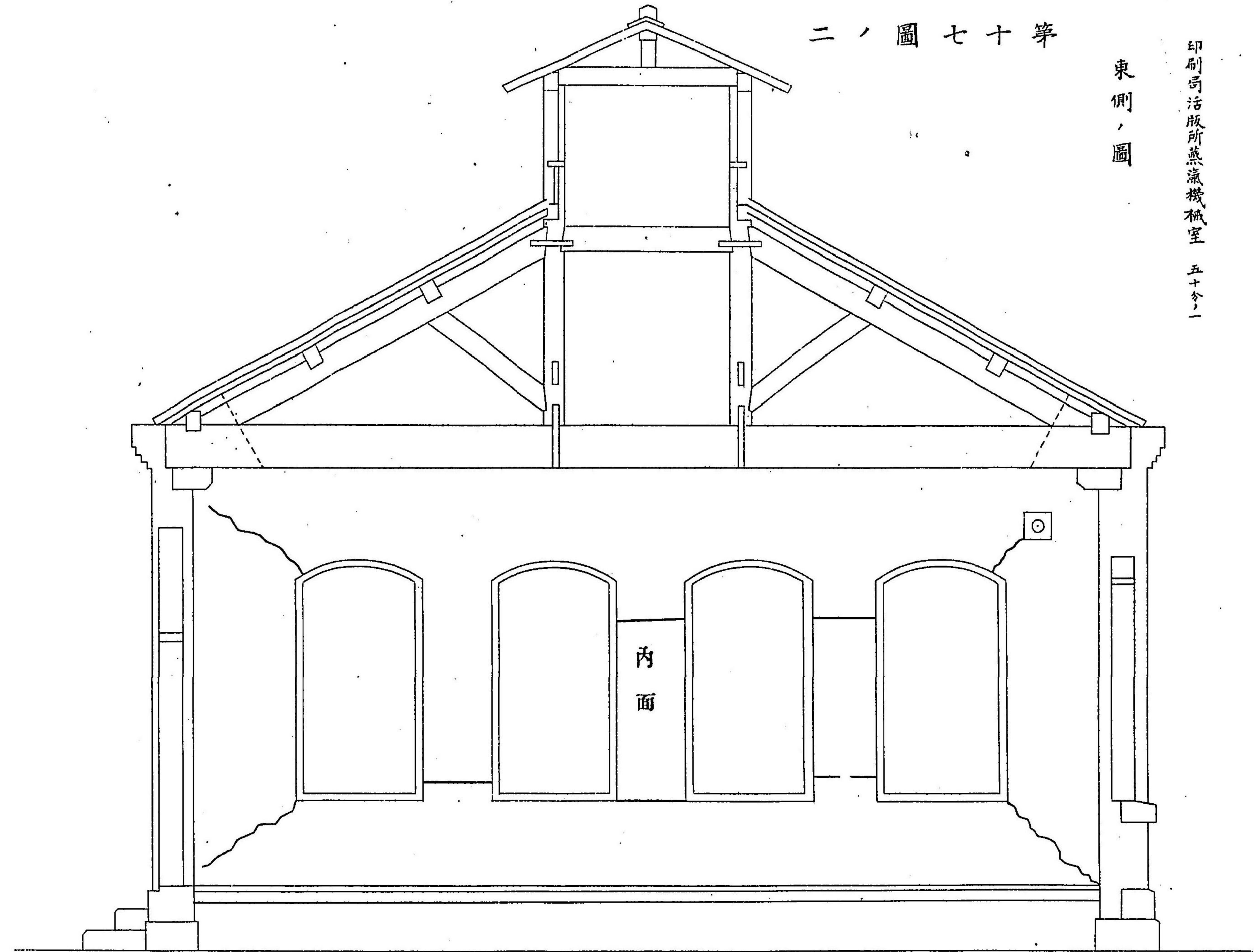
印刷局活版所蒸氣機室 五十一

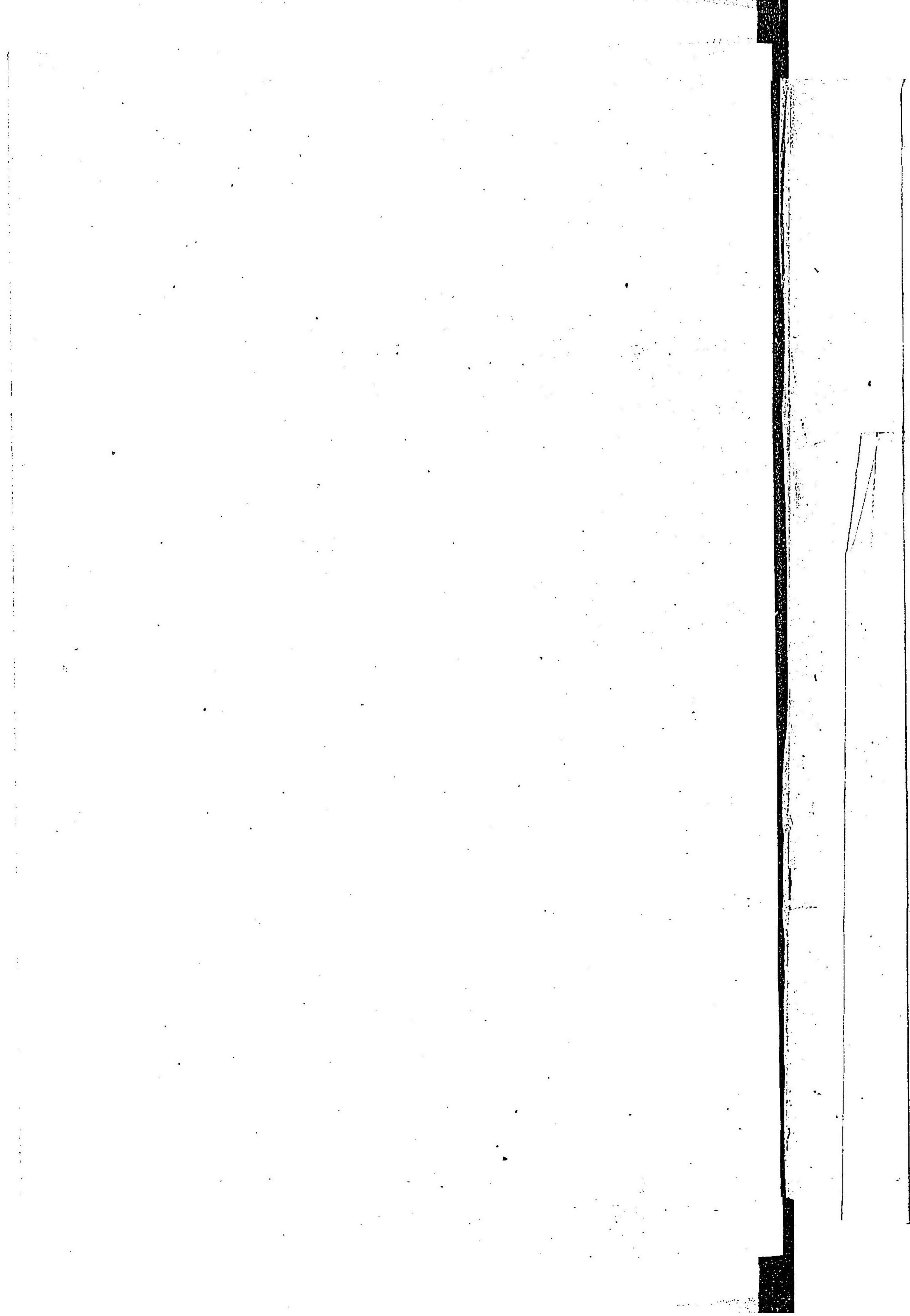


第七十圖

東側圖

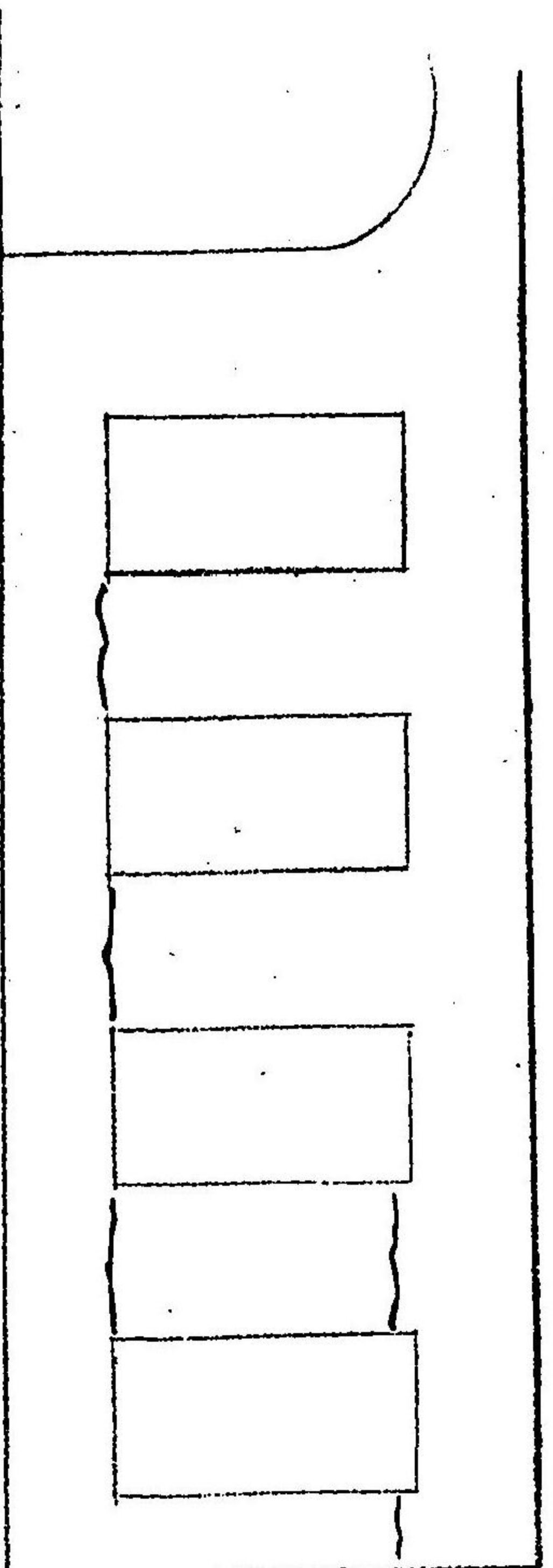
印刷局活版所蒸氣機室 五十分一



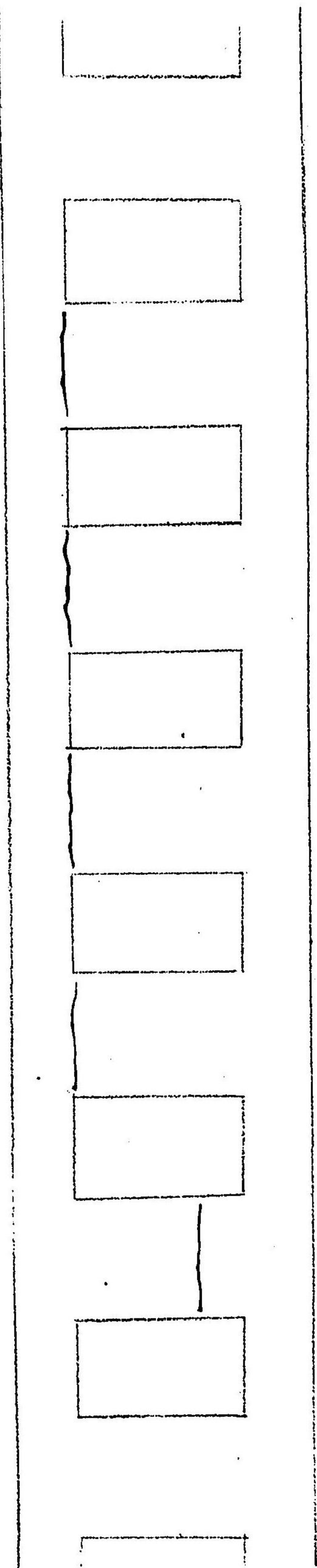


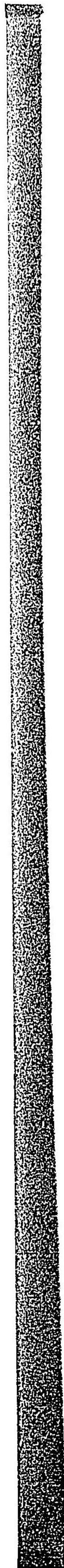


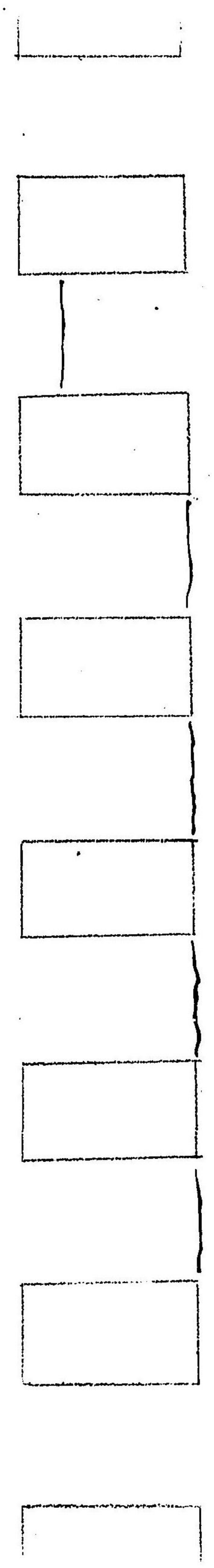
下麻階二院習學



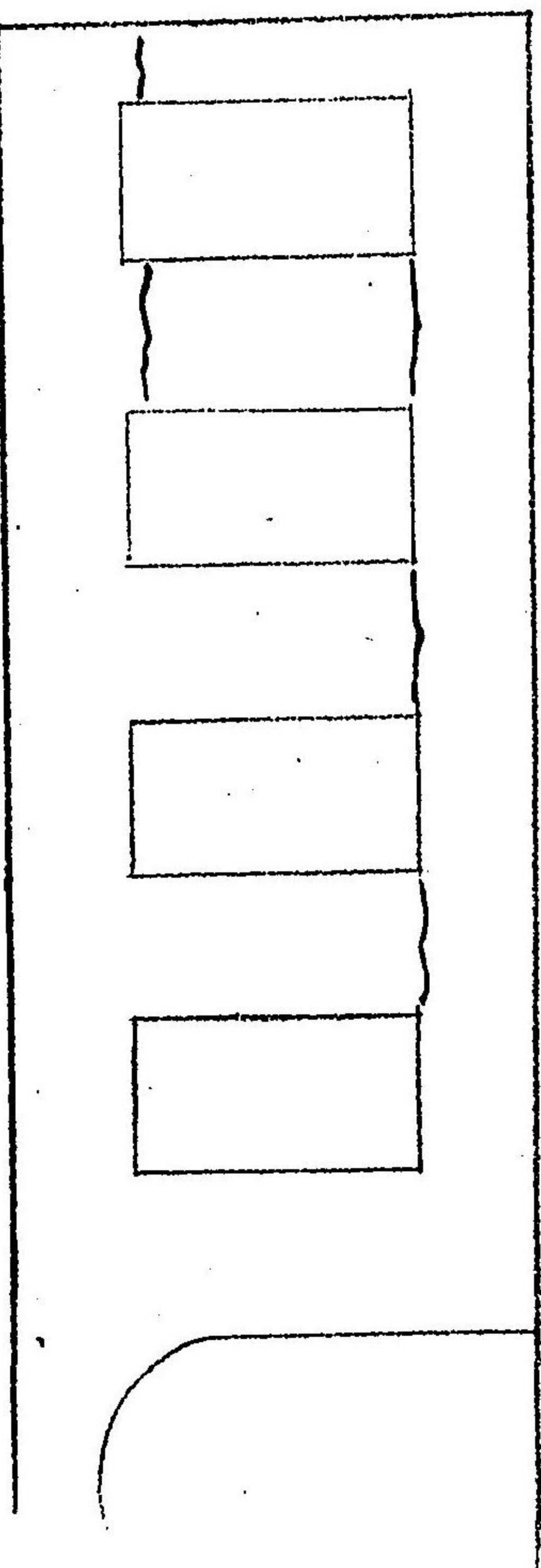
下麻階二院習學







學習院二階庫下



學習院二階庫下

(六) 垂直罅裂

(イ) 二壁接際ノ部

一 青山小銃彈藥庫
第一師團小銃彈藥庫西側ノ壁ハ出隅ノ近傍ニ於テ垂直罅裂ヲ生セリ北側壁モ亦然リ(第十八圖參照)

一 樞密院(委員中村達太郎報告)
階段ノ間外側壁ニ於テ垂直罅裂ヲ生セリ仍テ検査スルニ其壁ニ直角ニ他ノ外側壁アリ罅裂ハ即チ其接際ニ於テ生シタルナリ(第十九圖參照)

一 東京工業學校木工場(工學士石井敬吉報告)
二個ノ外壁ノ接際ニ於テ垂直罅裂ヲ生セリ即チ第二十圖ノ如シ

一 郵便電信局工夫詰所
煉瓦一枚半積平家造ナリ圖ノ如ク河岸ニ面スル壁ニ於テ垂直罅裂ヲ生セリ(第二十一圖參照)

一 學習院(委員中村達太郎報告)
大階段上外側壁少シク張り出シアーケードトノ接際ニ於テ罅隙ヲ生シタリ但外側壁ハ東西ニ面シアーケードハ南北ニ面ス

(ロ) 壁面中央部

南翼ノ一室ニ於テハ外側壁ト間仕切ノ接際ニ於テ垂直罅裂ヲ生セリ其間仕切ハ東西ニ面ス
其他同様ノ例ハ本建物ニ於テハ此處彼處ニ散見セリ

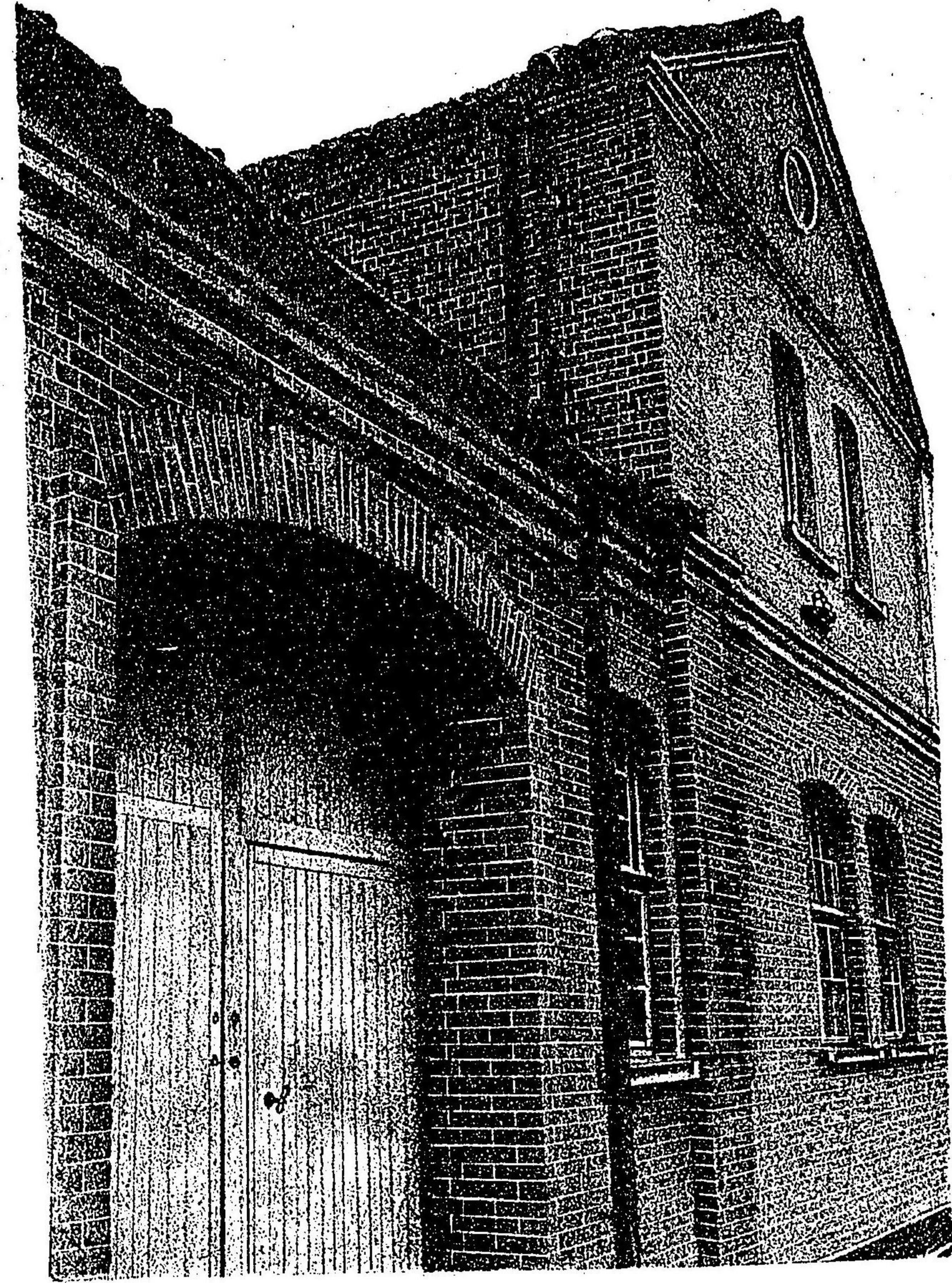
一 遊就館(委員中村達太郎報告)
階段ノ間上ニ煉瓦半枚積ノ間仕切アリ其面中三條ノ垂直罅裂ヲ生セシ(第二十二圖ノ如シ)

(ハ) 窓 間
上下重ナリ合ヒタル窓ニ於テ窓間ニ垂直罅裂ヲ生セシ例實ニ枚舉ニ遑アラサルナリ

一 銀行集會所(全上)
殆ト無難ナル銀行集會所ニ於テ正方形窓ノ上ニ在ル圓形窓トノ間ニ細微ナル垂直罅裂ヲ生セリ

圖十二第

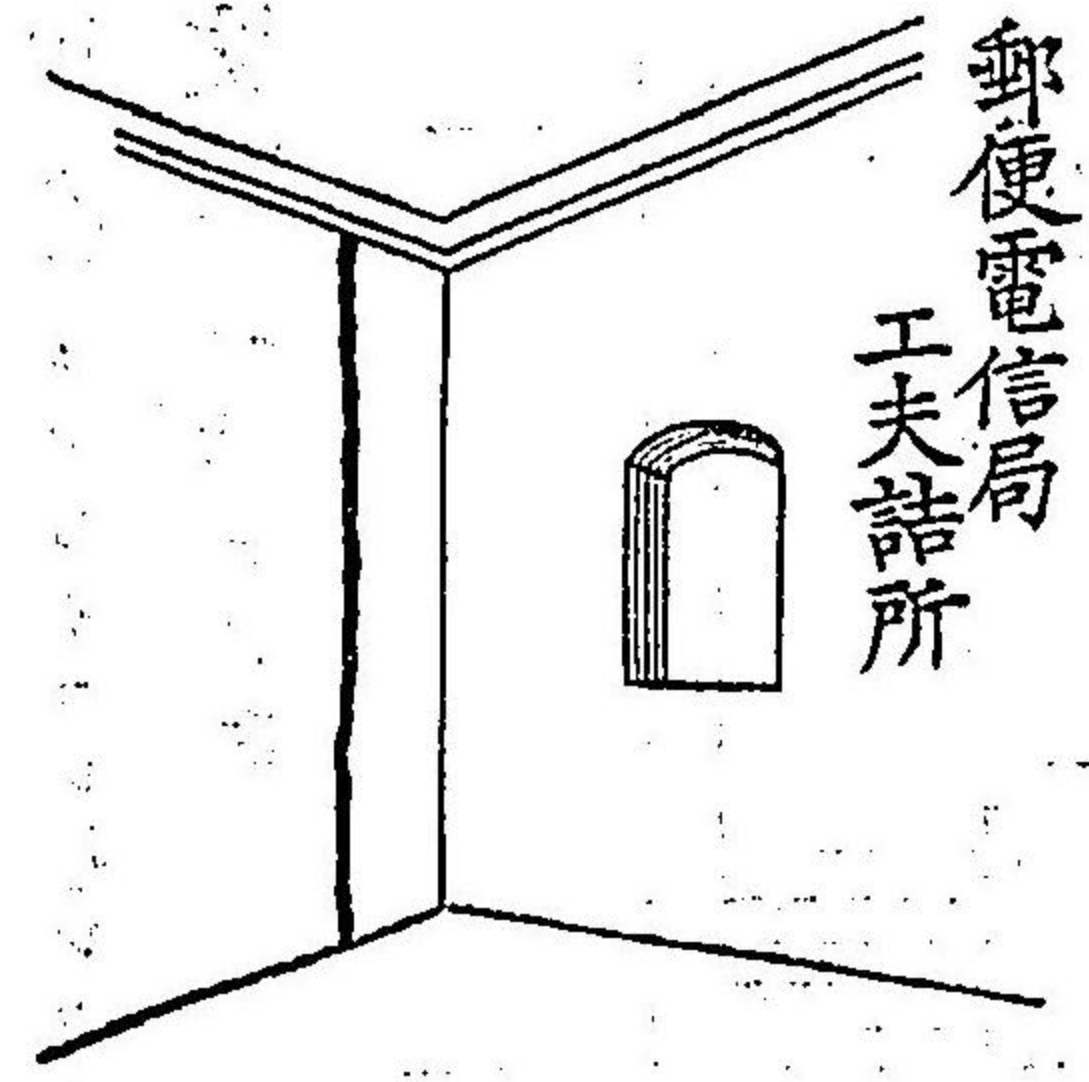
室工木校學業工京東



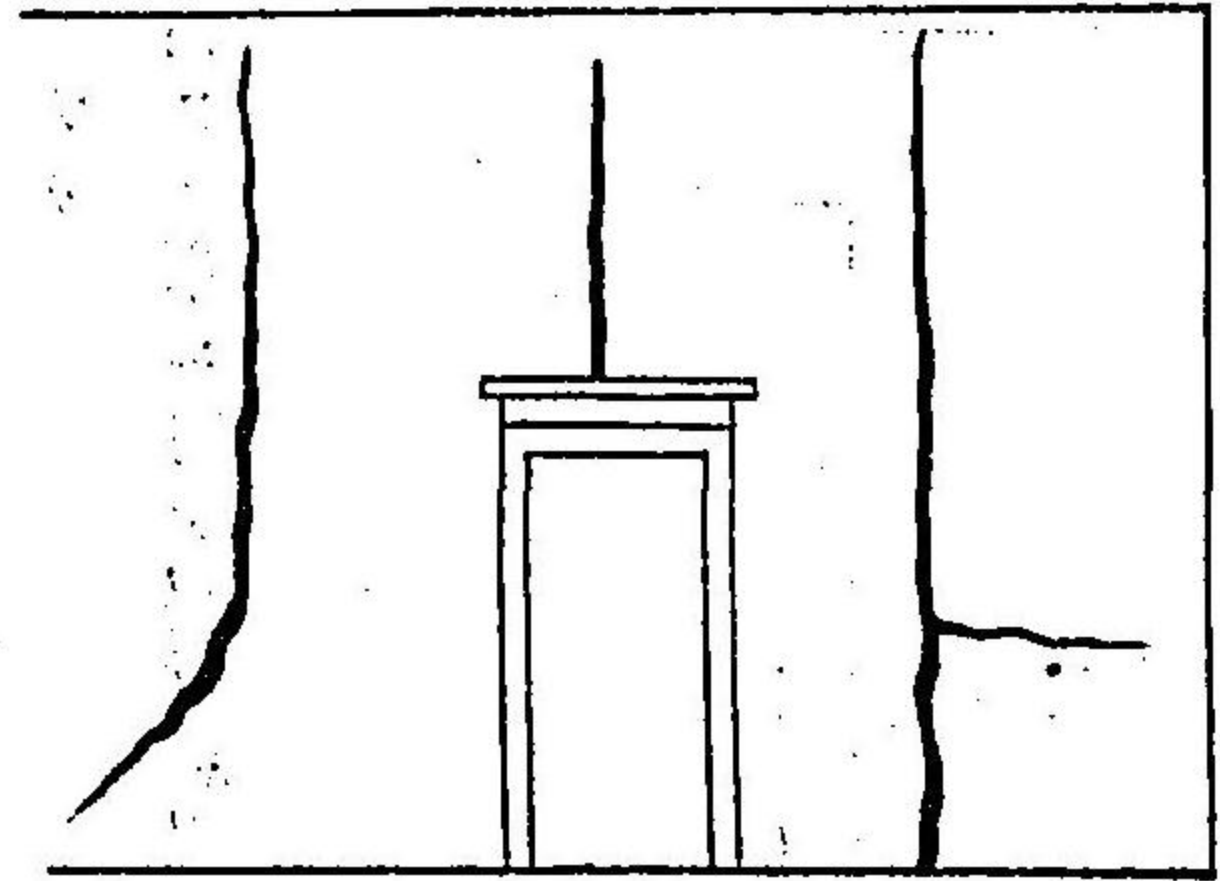
(吉 欽 井 石 士 學 工)

參照第二 東京附近震災被害建築物等調査報告

圖一十二第



圖二十二第

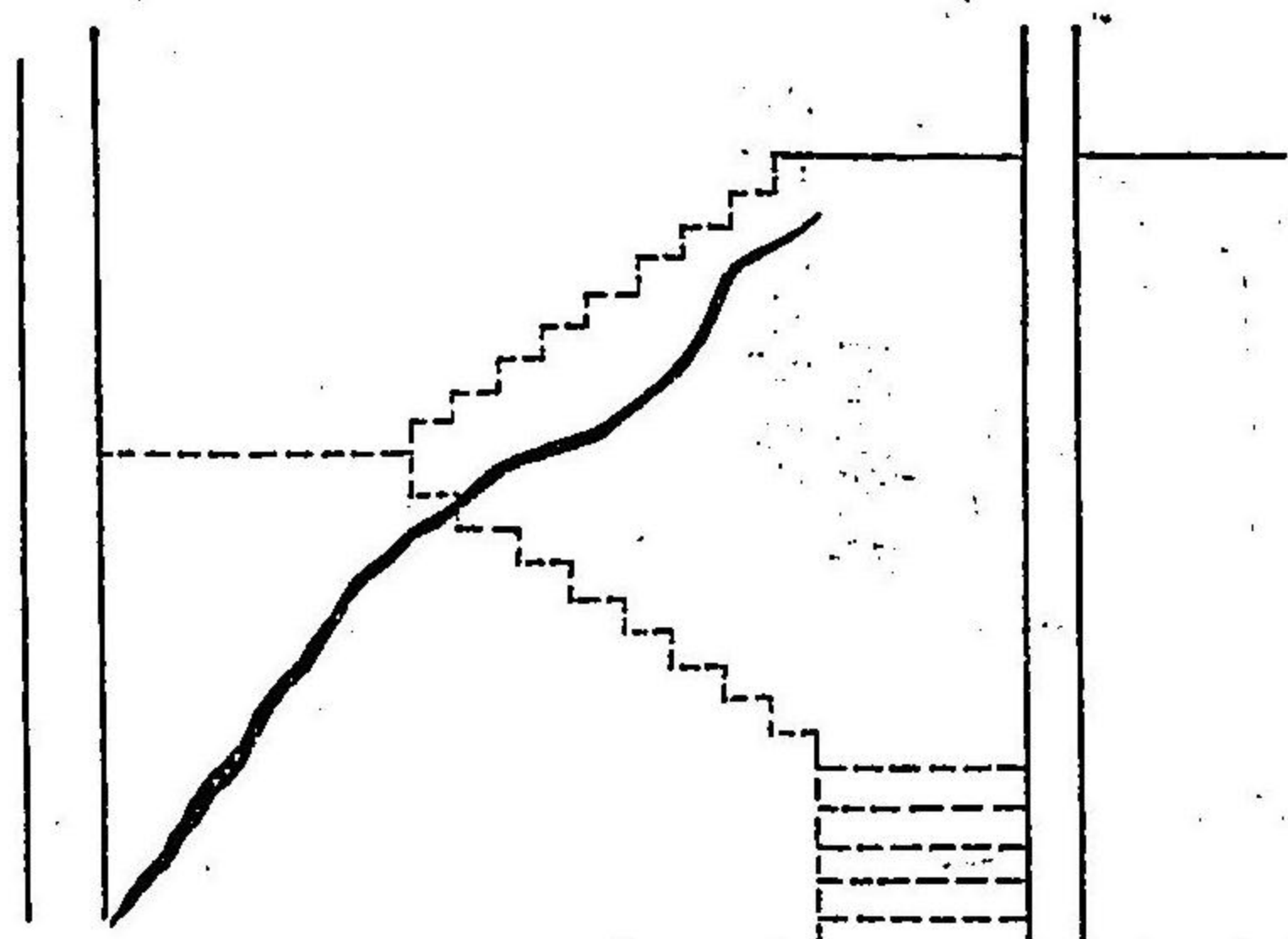


(七) 斜行罅裂

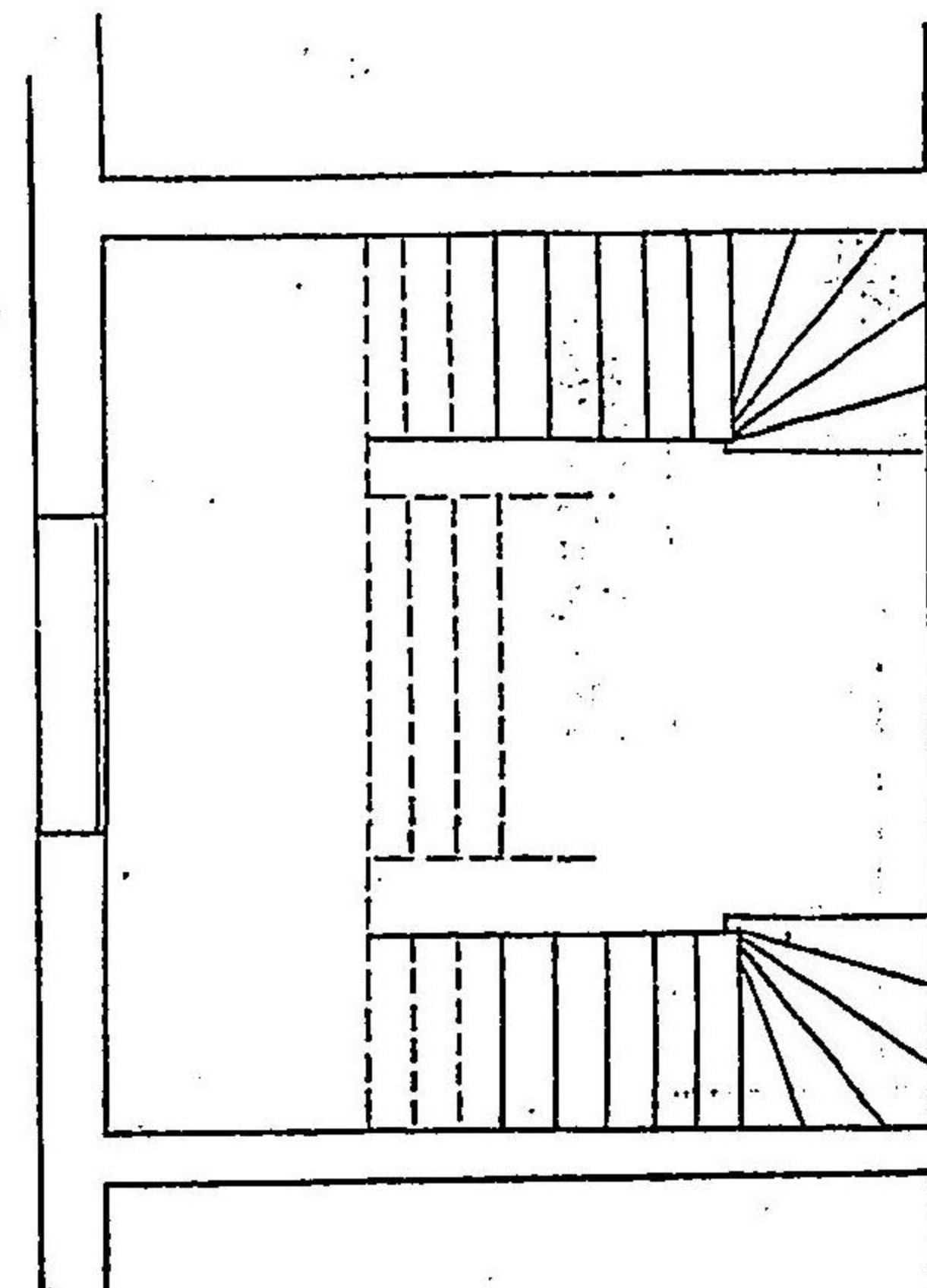
- 一 偕行社(委員中村達太郎報告)
- 階段ノ間左右兩壁ニ於テ長キ斜行罅裂ヲ生セリコト恐クハ基礎ニ歸因スルナラン(第二十三圖參照)
- 一 内匠寮(全上)
- 廊下ニ隣スル壁ニ長キ斜行罅裂ヲ生セリコト隠レタル古瑕

九段坂上偕行舎

圖 三 十 二 第

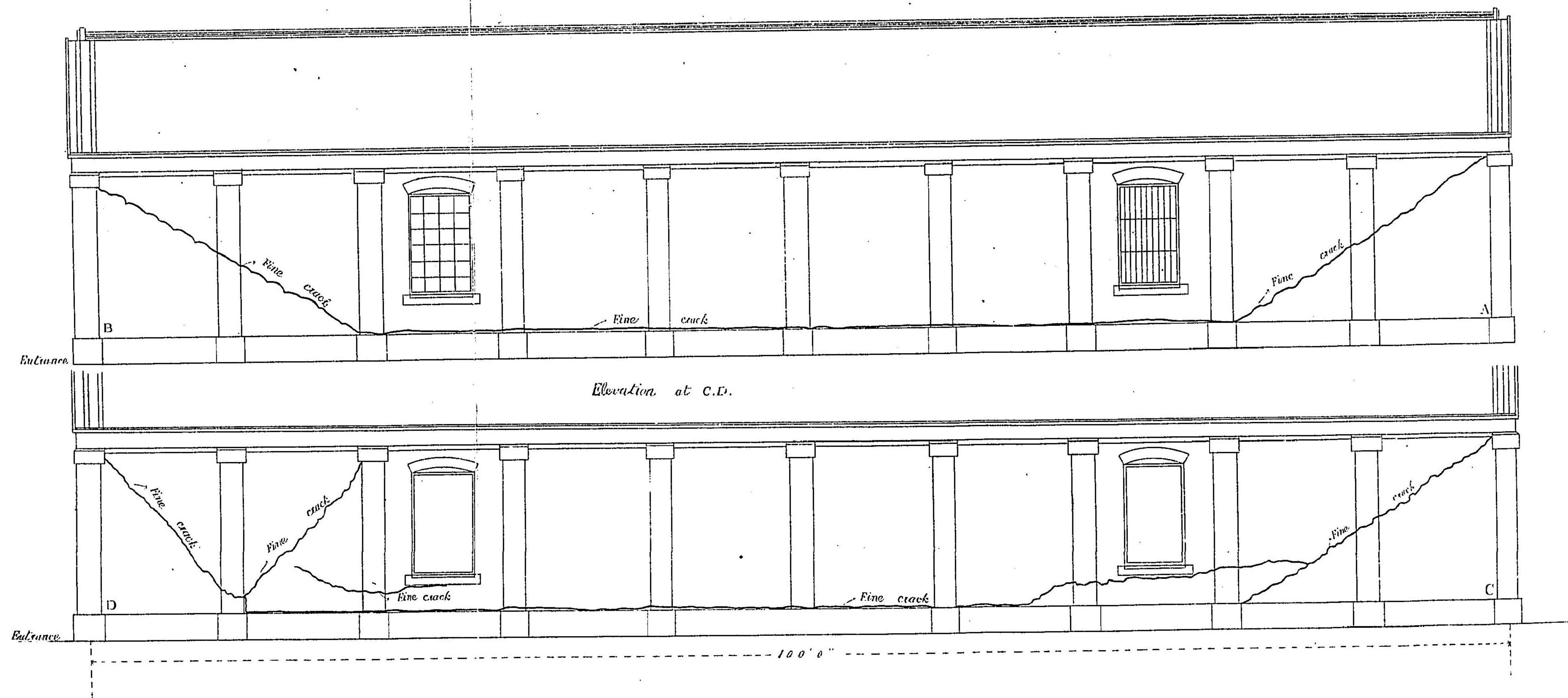


廊下



- ノ地震ノ爲メニ顯レ且増大シタルナリ
- 一 新橋停車場(委員原口要報告)
- 煉瓦石造上等車庫側壁ニ數條ノ罅裂ヲ生セシコト第二十四圖ノ如シ
- 一 右ノ外窓ノ上下左右ノ隅ヨリ斜行罅裂ヲ生セシモノ枚舉ニ違アラザルナリ
- 又軒ノ隅角ヨリ窓ニ向テ斜行罅裂ヲ現出スルモノ甚ク多シ

圖四十二第
 又生ノ裂龜=側兩・庫車客



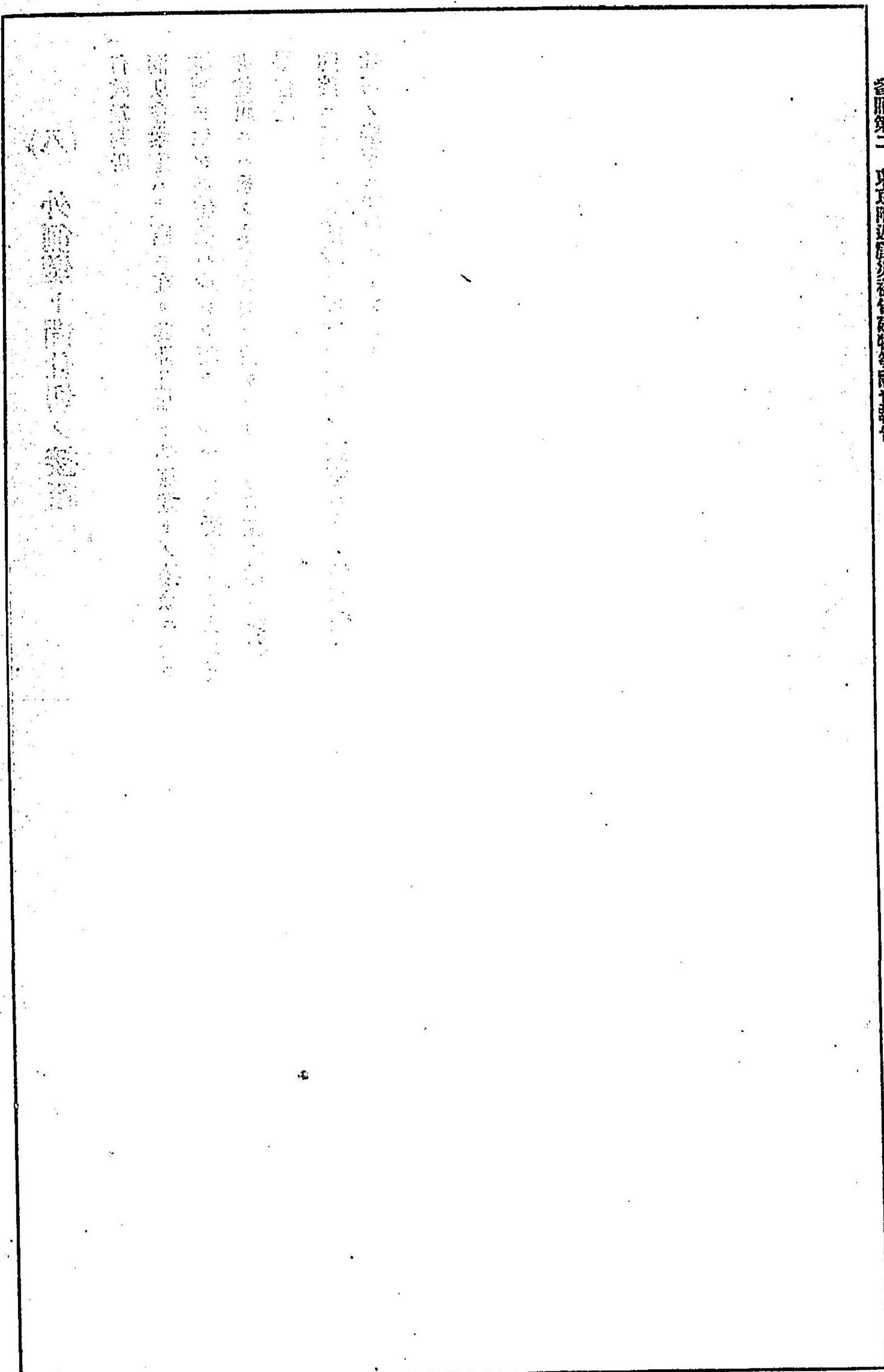
(八) 外側壁ト間仕切ノ接際

一 行政裁判所

同所會議室ハ二階ニ在リ其間仕切ト外側壁トノ接際ニ於テ
罅裂ヲ生シ外側壁ハ少シク開ケタルヤニ見受ケタリ且ツ天
井蛇腹ニハ悉ク水平罅裂ヲ生シタリ (第二十五圖參看)

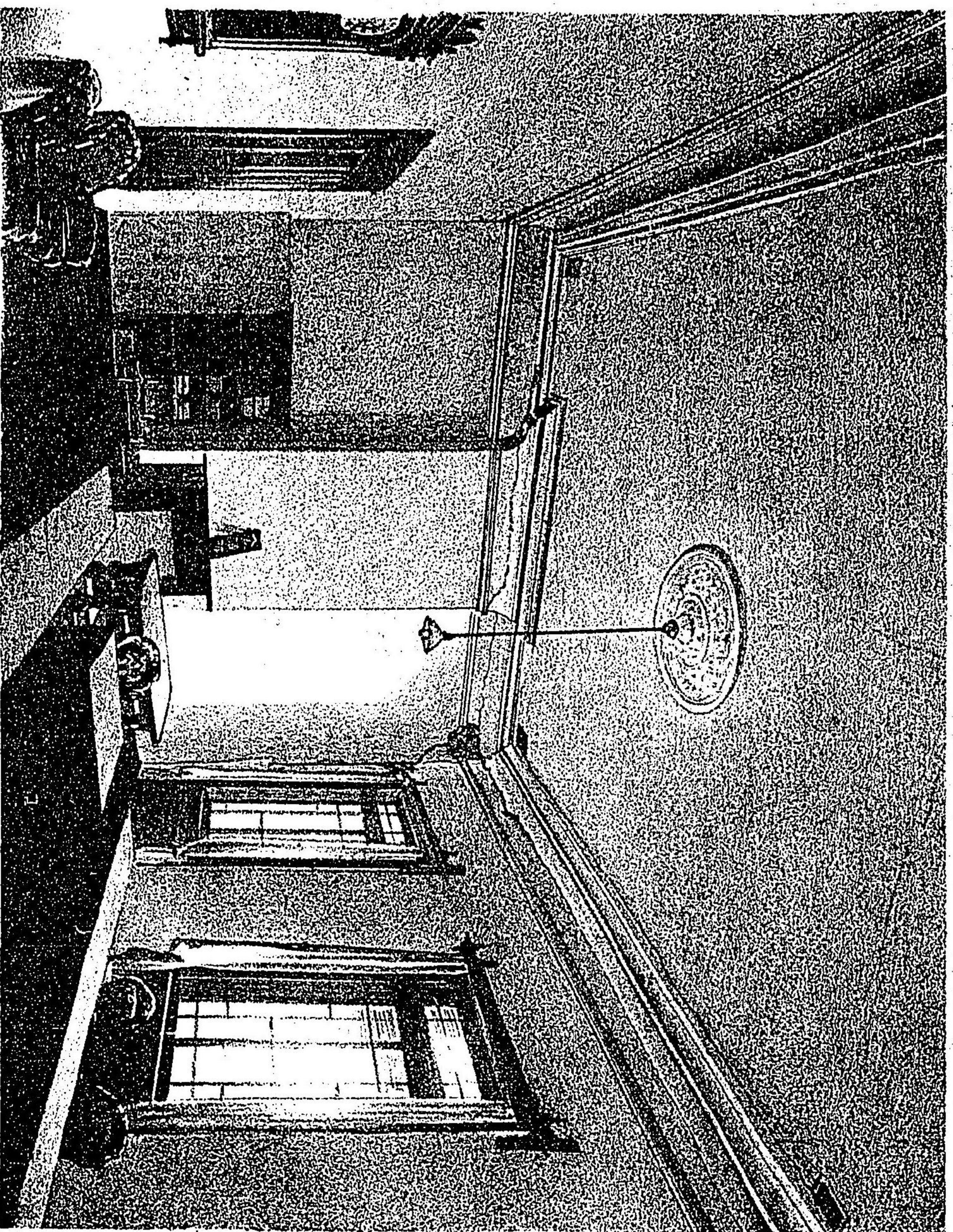
一 學習院

同院ニ於テモ大階段ノ間其他南翼ノ某室ニ在テ外側壁ト間
仕切ノ接際ニ罅裂ヲ生シタリ



八 本館第一層の内部

圖 五十二 事務所議會所判裁政行



(九) 迫持

迫持ハ損害ヲ被リシモノ頗ル多シ今其實例ヲ舉クルト左ノ如シ

(イ) 半圓形迫持

半圓形迫持ニ於テハ頂部ニ罅裂ヲ生ゼンモノ最多ク腰部ノ罅裂之ニ亞キ起點附近ノモノ最少ナキカ如シ

一品川製蠶會社ノ半圓形迫持(工學士塚本靖報告)

同社半圓形迫持被害ノ狀況第二十六圖ノ如シ

一陸軍大臣官舎ノ迫持

舎内階上出入口上漆喰塗半圓形迫持及ヒ天井蛇腹被害ノ狀況第二十七圖ノ如シ

一砲兵工廠(山崎定信報告)

小石川砲兵工廠構内大棟工場ノ外部入隅ニアル階上窓圓形迫持ノ煉瓦四個墜落シ罅裂ハ上部軒ニ達シ下部ハ階下窓迫持ニ至ルアリテ其内部モ全棟罅裂ヲ生ゼリ(第二十八圖)

一郵便電信局(委員中村達太郎報告)

最階下ニ在ルアーケード上ノ半圓形迫持ハ中央及ヒ其附近ニ於テ細微ナル罅裂ヲ生ゼシモノ多シ

(ロ) 橢圓形迫持

橢圓形及ヒ橢圓形ニ類似ノ迫持ニ於テハ頂部及ヒ腰部ニ罅裂ヲ呈ゼシモノ多シ

一行政裁判所橢圓形迫持(工學士大澤三之助報告)

一室内廊下ノ迫持ハ多ク第二十九圖ノ如キ罅裂ヲ生ゼリ

(ハ) 橢圓形迫持

橢圓形迫持ニ在テハ起點腰部及ヒ頂部ノ何レヲ問ハス損害頗ル多シ

一品川製蠶會社ノ橢圓形迫持(工學士塚本靖報告)

同社橢圓形迫持被害ノ狀況ハ第三十圖ノ如シ

一第三聯隊第一大隊厠ノ迫持(陸軍省)
一第三聯隊第一大隊厠入口上ノ橢圓形迫持被害ノ狀況ハ第三十二圖ノ如シ

一東京築地活版製造所(山崎定信報告)
事務所ハ凡ソ六間角位ノ二階建煉瓦造ナリ其西北面ノ階上窓橢圓形迫持ノ西端煉瓦三枚壹寸許垂下セリ

(ニ) 陸迫持

一第三聯隊銃工室ノ陸迫持
青山第三聯隊銃工室東南向壁ハ第三十三圖ノ如ク軒近クニ於テ罅裂シ其陸迫持モ亦損害ヲ受ケリ

尖形迫持

尖形迫持ノ被害ハ頂部及ヒ腰部ニ最モ多キカ如シ
一元工部大學校構内化學及機械實驗室迫持(工學士塚本靖報
告)

同實驗室迫持被害ノ狀況ハ第三十四圖ノ如シ
一北白川宮御殿

濡椽上ノ迫持ハ石造ニシテ尖形ナリ其内、中央ニ於テ少シ
ク罅裂ヲ生ゼシモノアリ(第三十五圖參照)

兩壁間ノ迫持

廊下上ニ架シアル迫持等ノ如ク兩壁ニ挟マレタル迫持ハ罅
裂ヲ生ゼシモノ多シ

一代官町近衛歩兵第二聯隊營

階上廊下ノ上半圓形迫持ハ頂部及ヒ腰部ニ於テ罅裂ヲ生ゼ
リ(第三十六圖)

一監軍部

麹町區隼町監軍部ノ北部階上中央廊下上ノ迫持ハ橢圓形ナリ
其龜裂シテ危險ナルヲ第三十七圖ノ如シ

一築地海軍大學校(委員中村達太郎報告)

海軍大學校ハ無難ト稱シ得ベキ程ノ建物ナリ此ノ如キ建物
ニシテ尙廊下迫持ニ罅裂ヲ生ゼリ即チ第三十八圖ノ如シ但

南北向迫持ハ異狀ナシ

一行政裁判所(工學士大澤三之助報告)

廊下ノ橢圓形迫持ハ大概罅裂ヲ生ゼリ(橢圓形迫持ノ部參照)

一陸軍大臣官舎

大階段際廊下上ノ迫持ハ破毀シテ將ニ落チントセリ

楣石

一舊工部大學校(委員中村達太郎報告)

舊生徒館窓上楣石ノ割レタルモノ無シ罅裂ハ單ニ楣石ト煉
瓦ノ接際ヲ通シ居ルノ場合アルノミ(第三十九圖參照)

一英國公使館構内住宅(全上)

東向ニシテ二階ニアル窓ノ青石楣ハ支點ニ近キ處ニ於テ堅
割ヲ生ゼリ

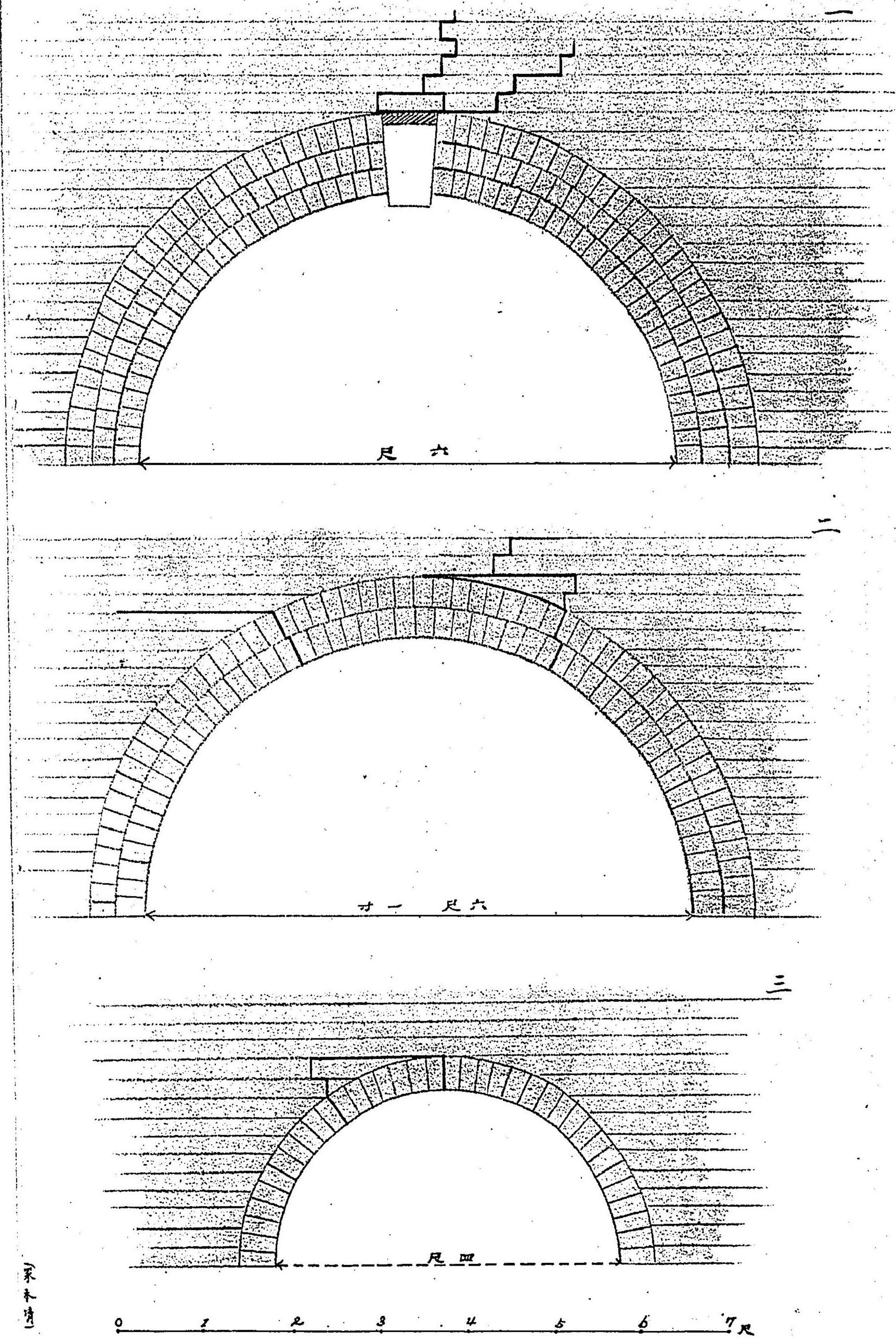
一王子抄紙部(全上)

明治十年ノ落成ニシテ杭打地形ナル抄紙部機關室ニ於テハ
張間八尺五寸ノ處ニせい壹尺壹寸ノ堅石楣アリテ其上三巾
六寸七分ノ梁ヲ架シアリ其楣石ハ梁ノ下端ニ於テ堅割ヲ生
シタリ

一行政裁判所(工學士大澤三之助報告)

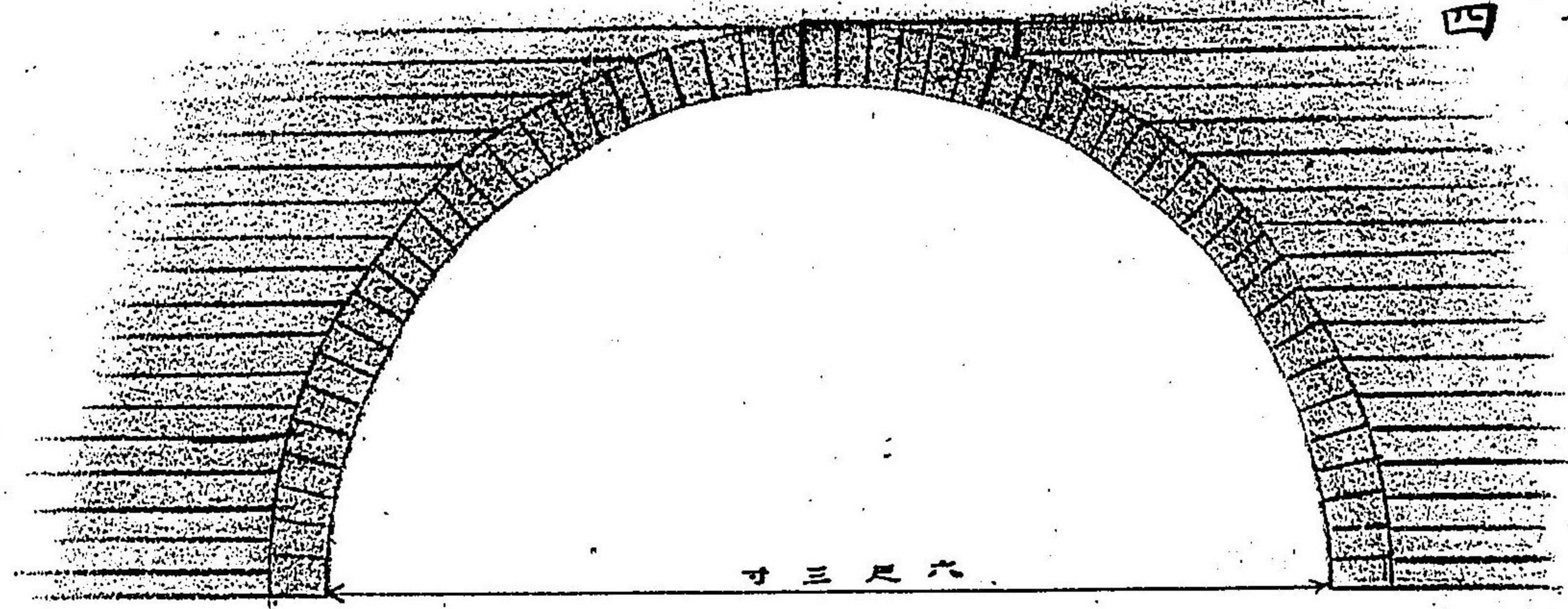
二階窓上ノ楣石ハ罅裂ヲ生シ軒上端マデ波及セリ

第二十六圖ノ品川製鐵會社半圓形迫持

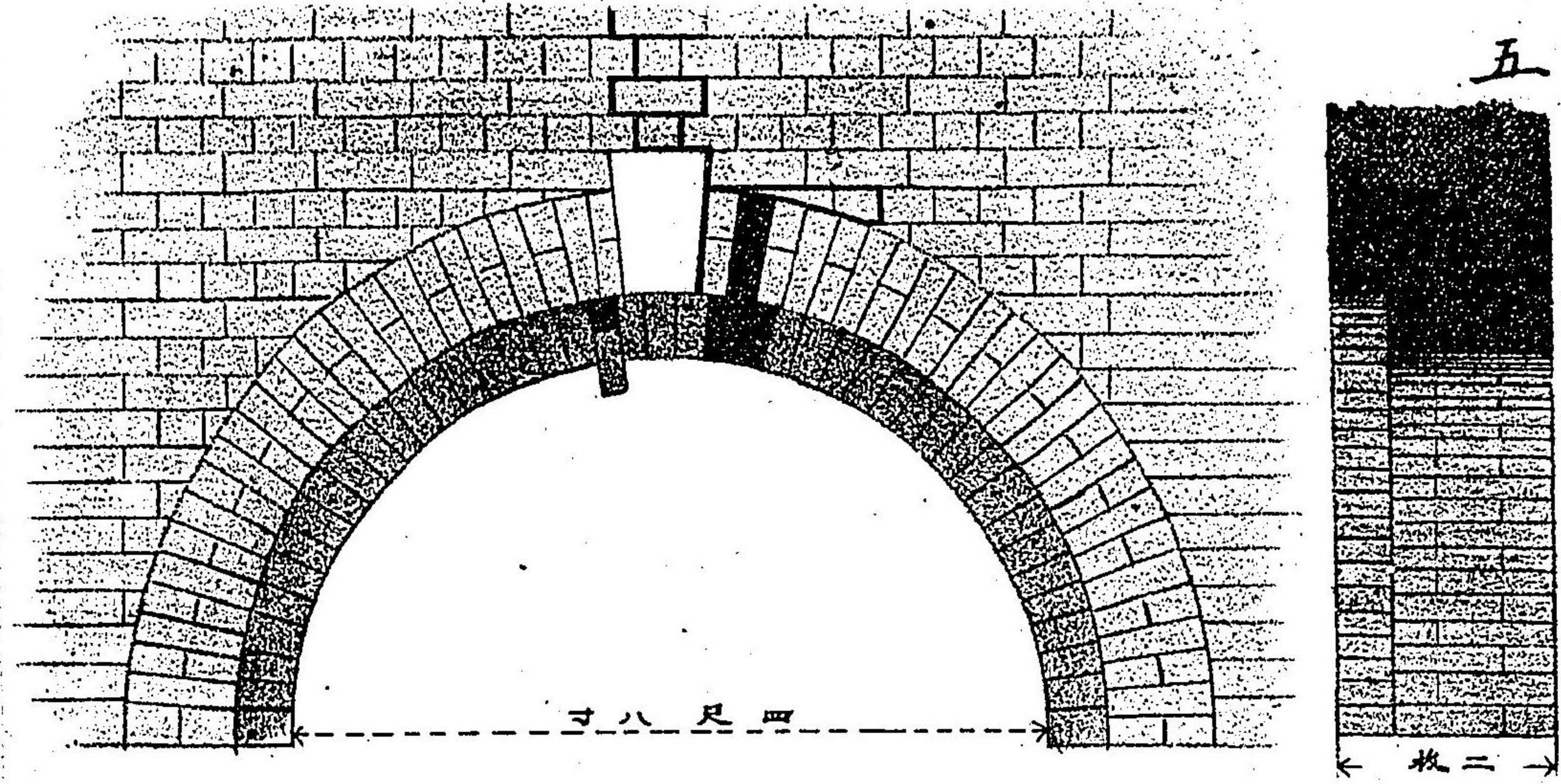


第二十六圖

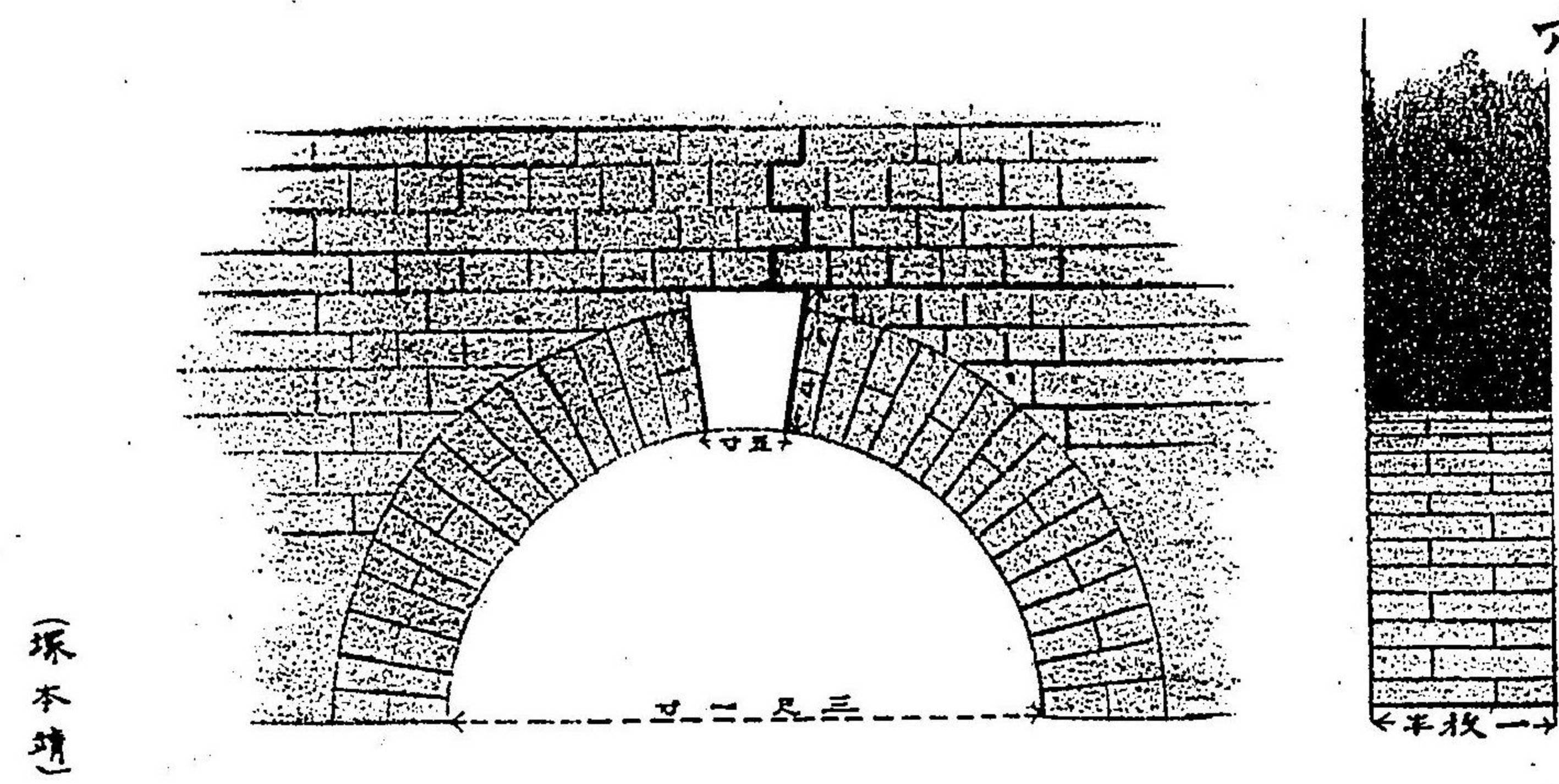
四



五



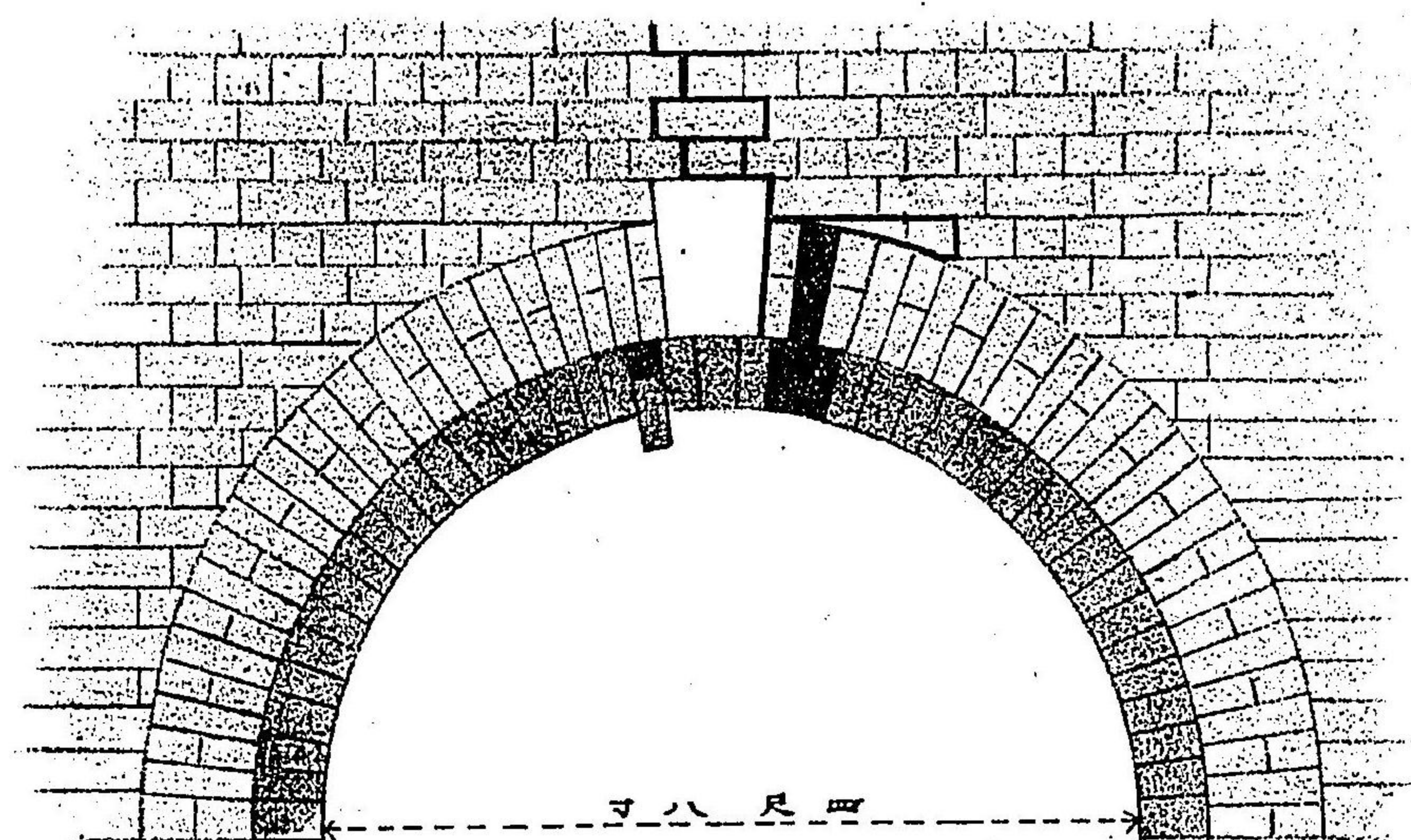
六



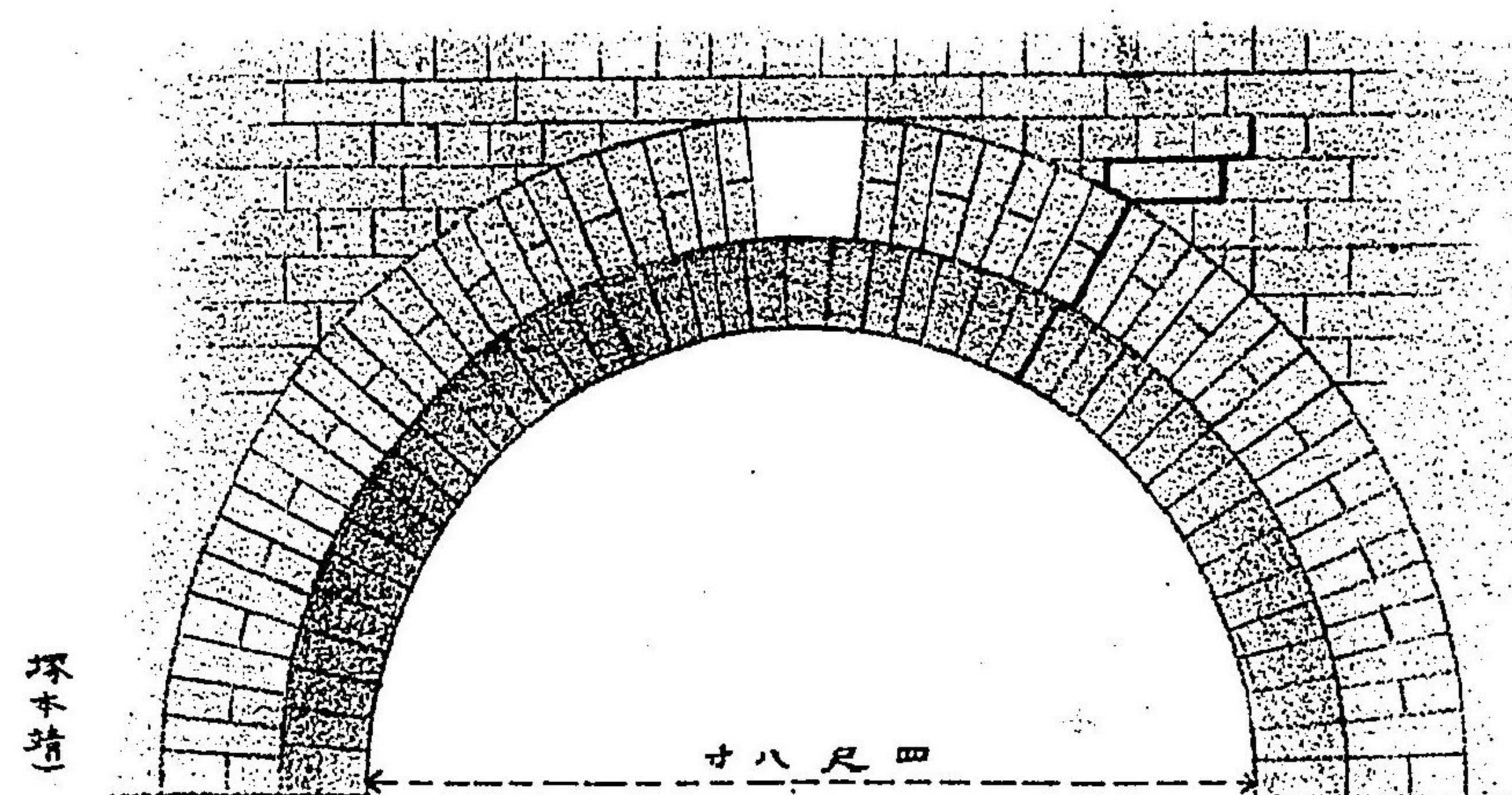
塚本遺

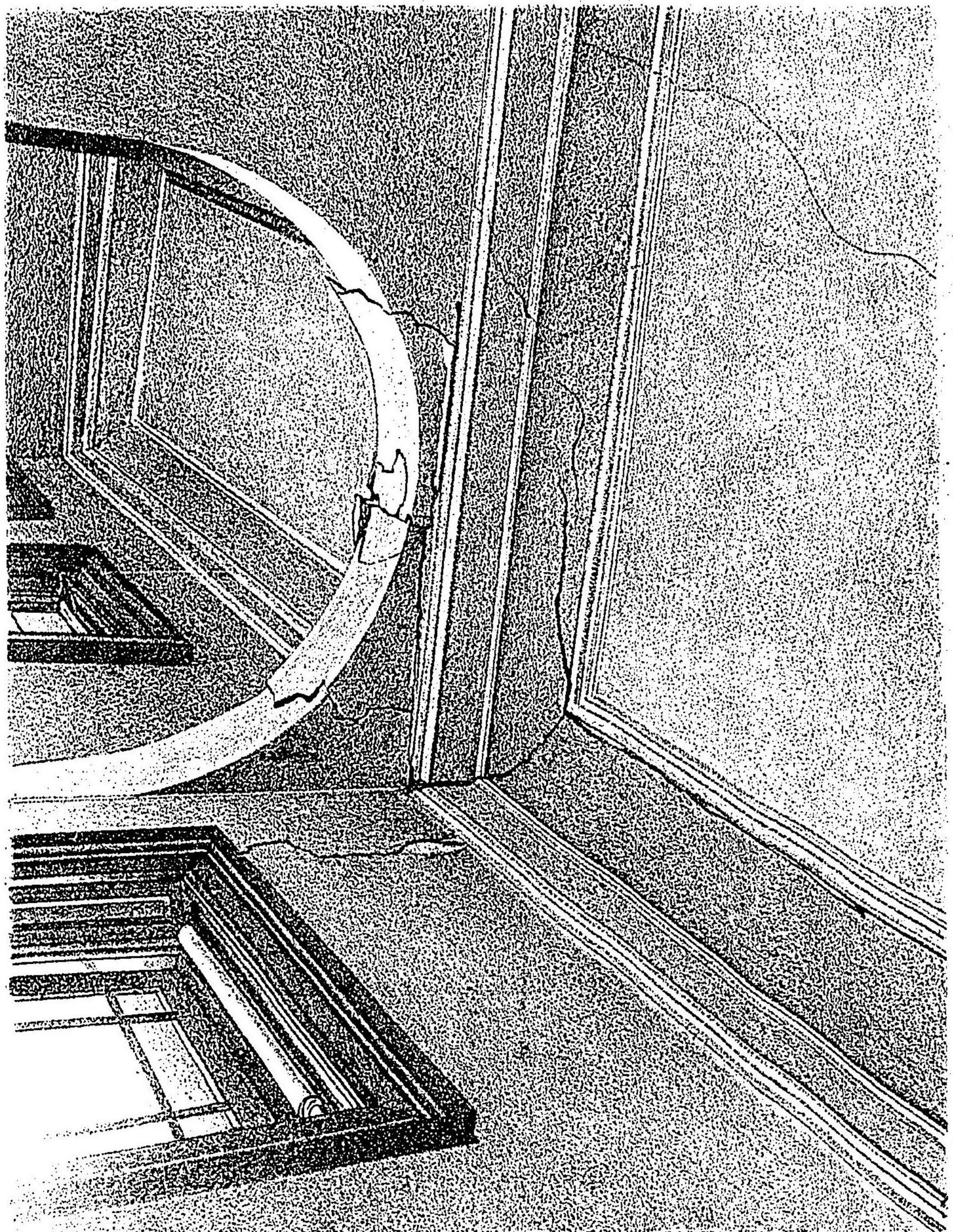
第二十六圖

七



八

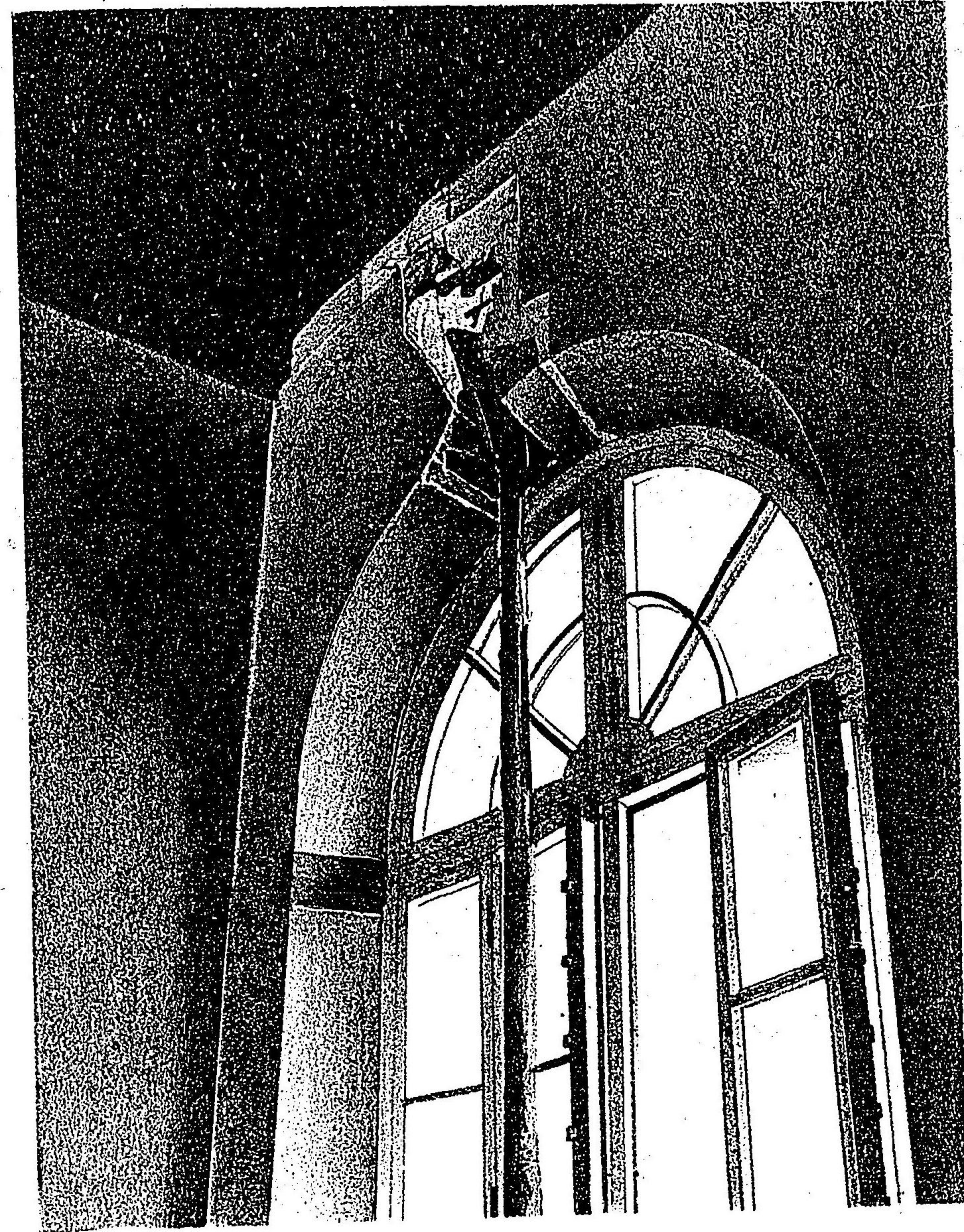




圖七十二第
損破特迫ノ間、下扉ト間廣上階會官臣大軍陸

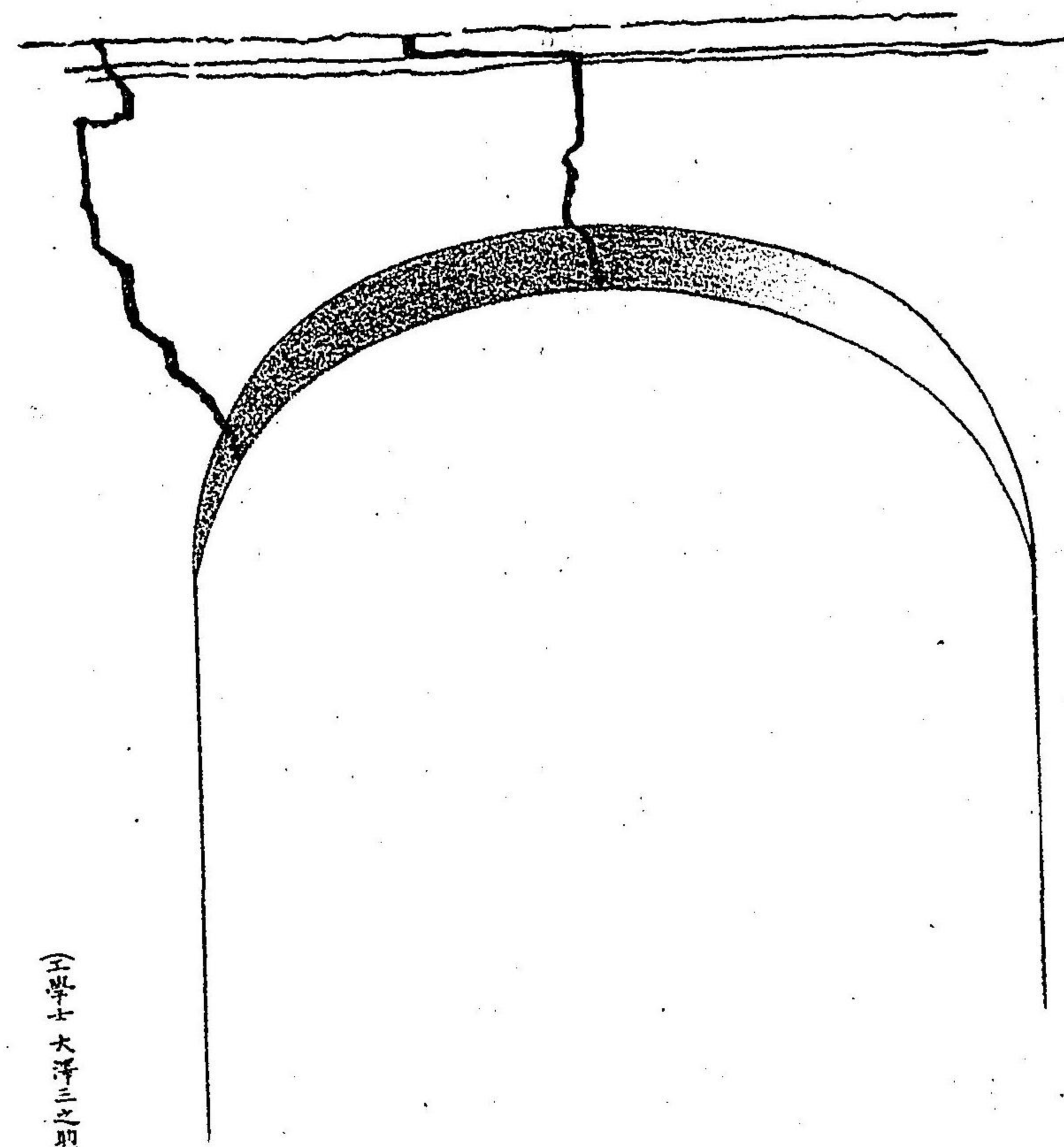
圖 八 十 二 第

損破特迫窓部内棟大所造製銃小廠工兵砲軍陸川石小



圖九十二第

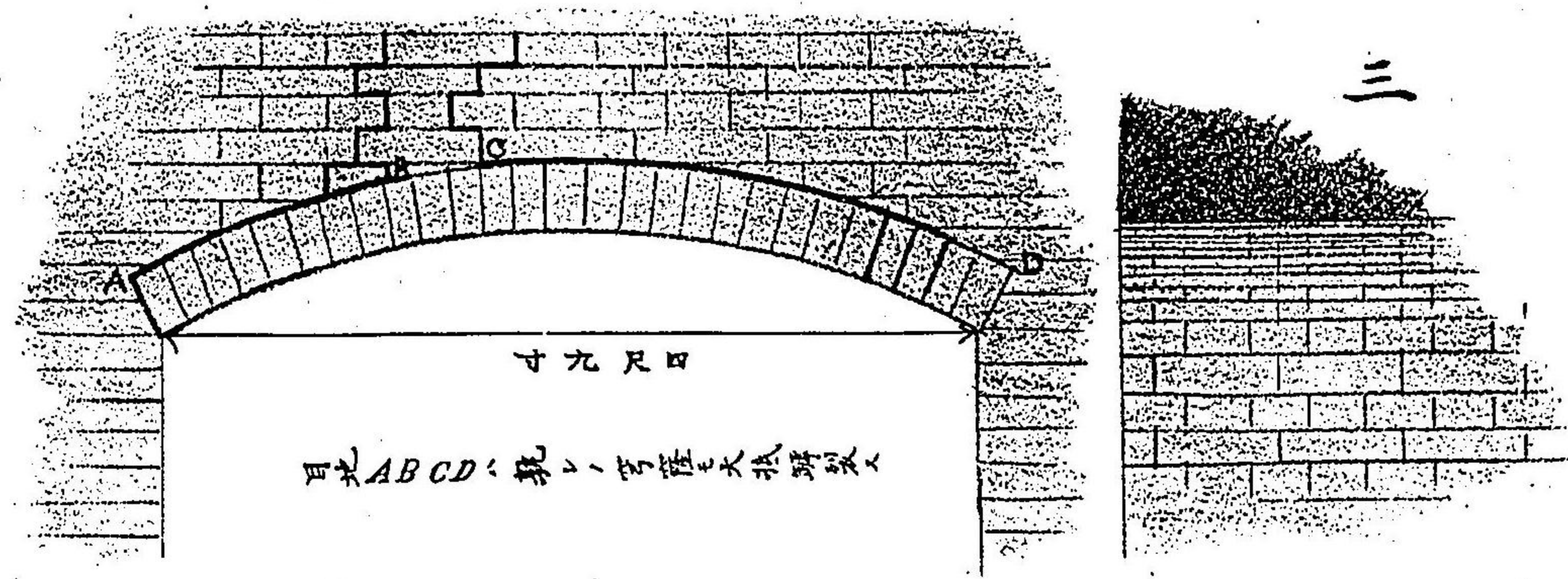
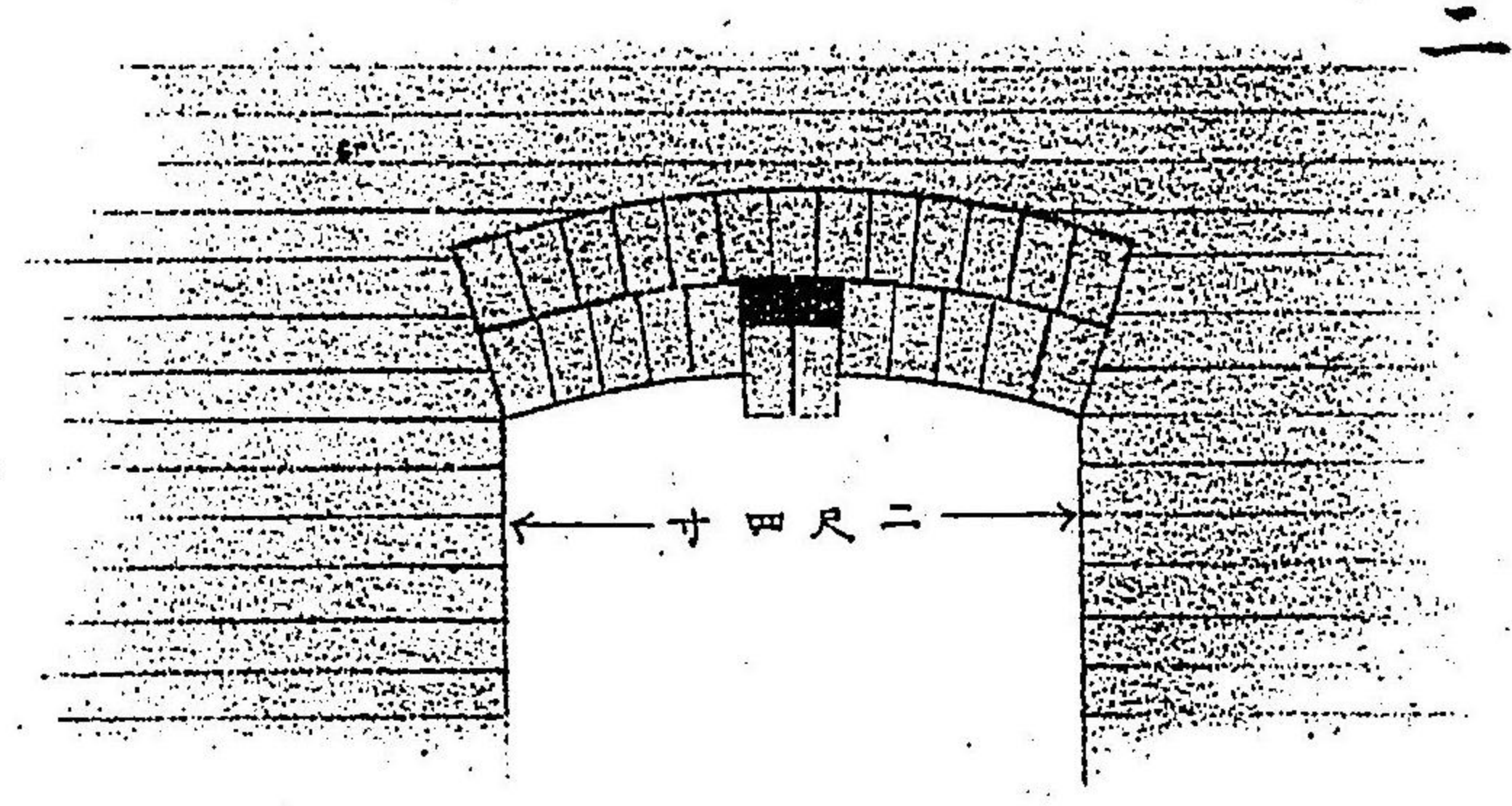
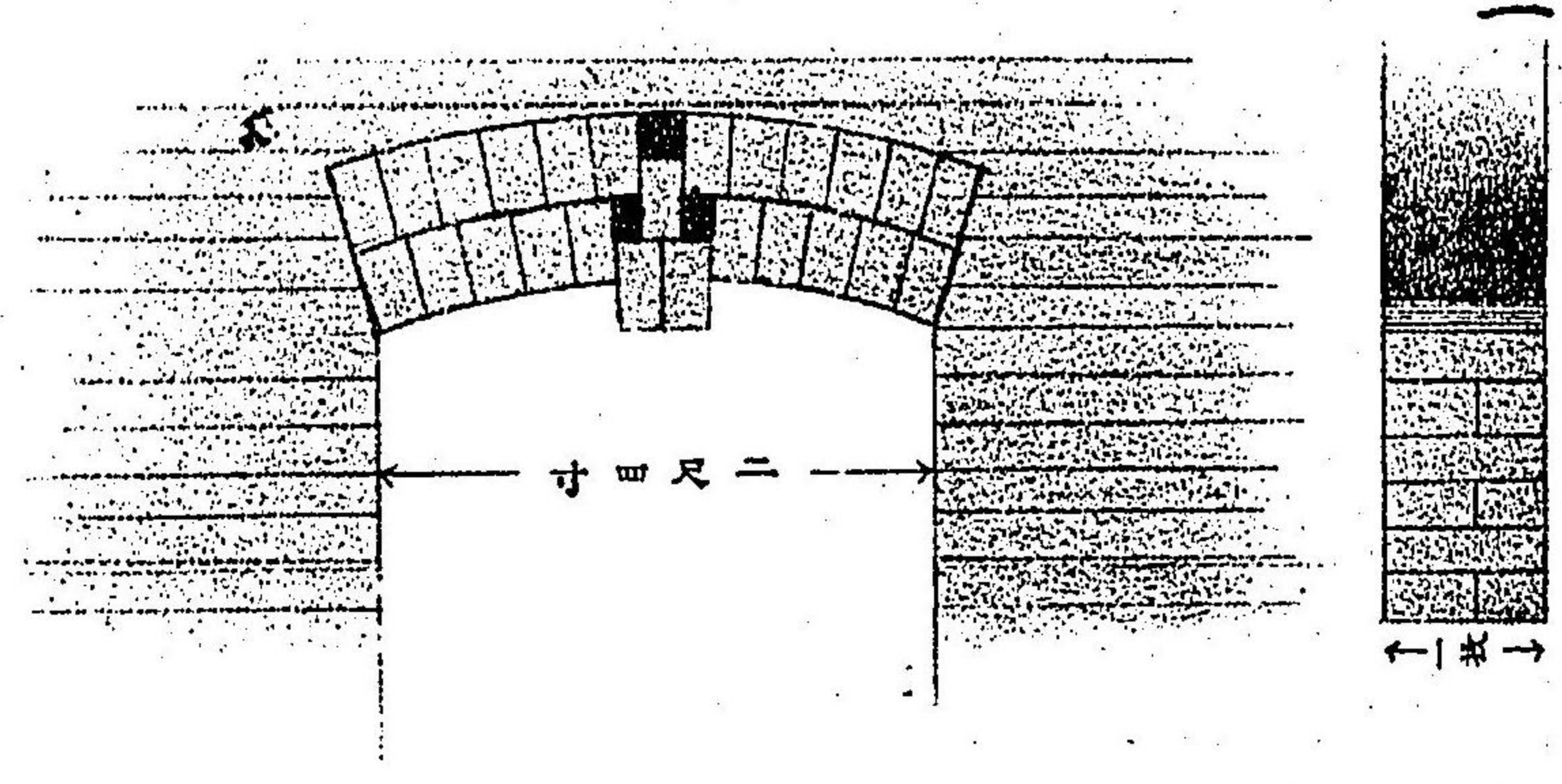
持迫下廊所判裁政行



(大學大澤三之助圖)

第三十圖

品川製鐵會社孤形(楯形トモ)迫持

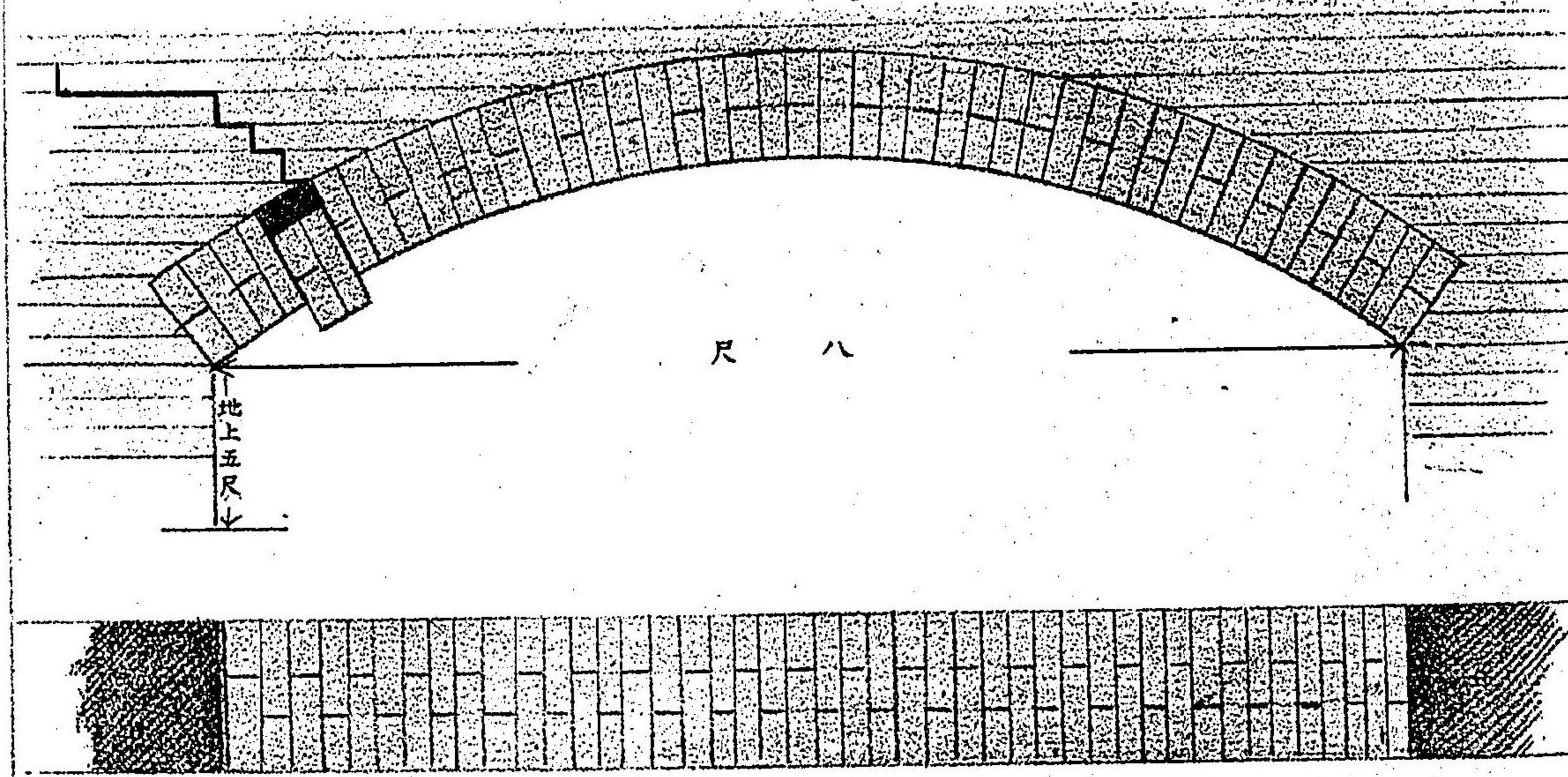


目次 ABCD 規、各徑、大抵詳説、

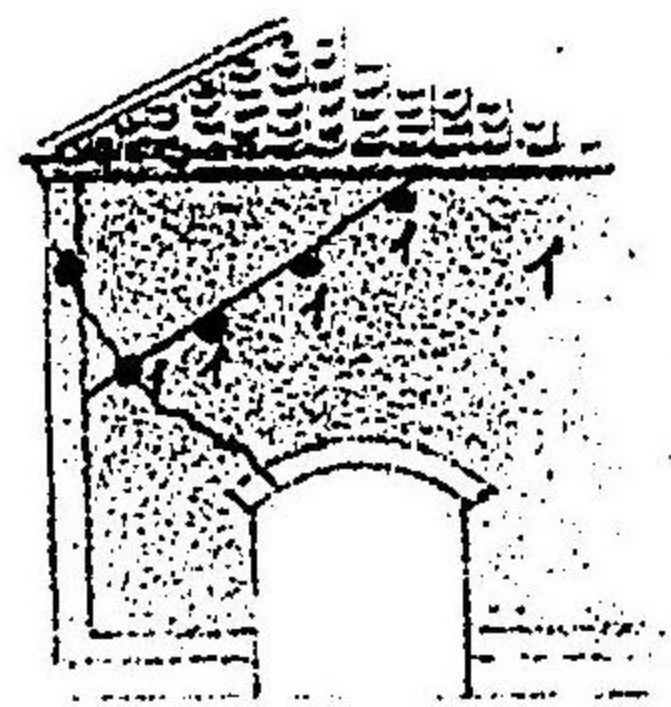
環本端

第三十圖

甲ノ四



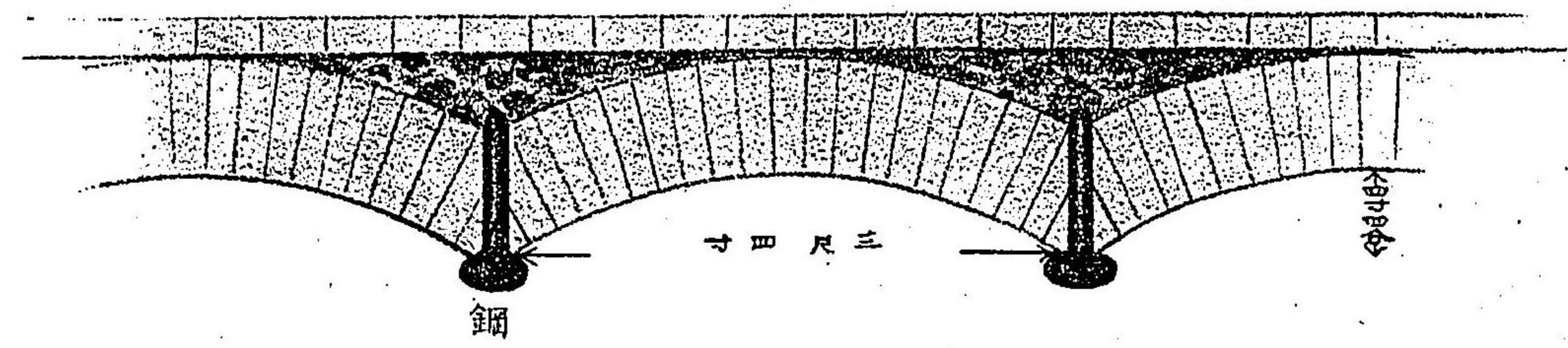
乙ノ四

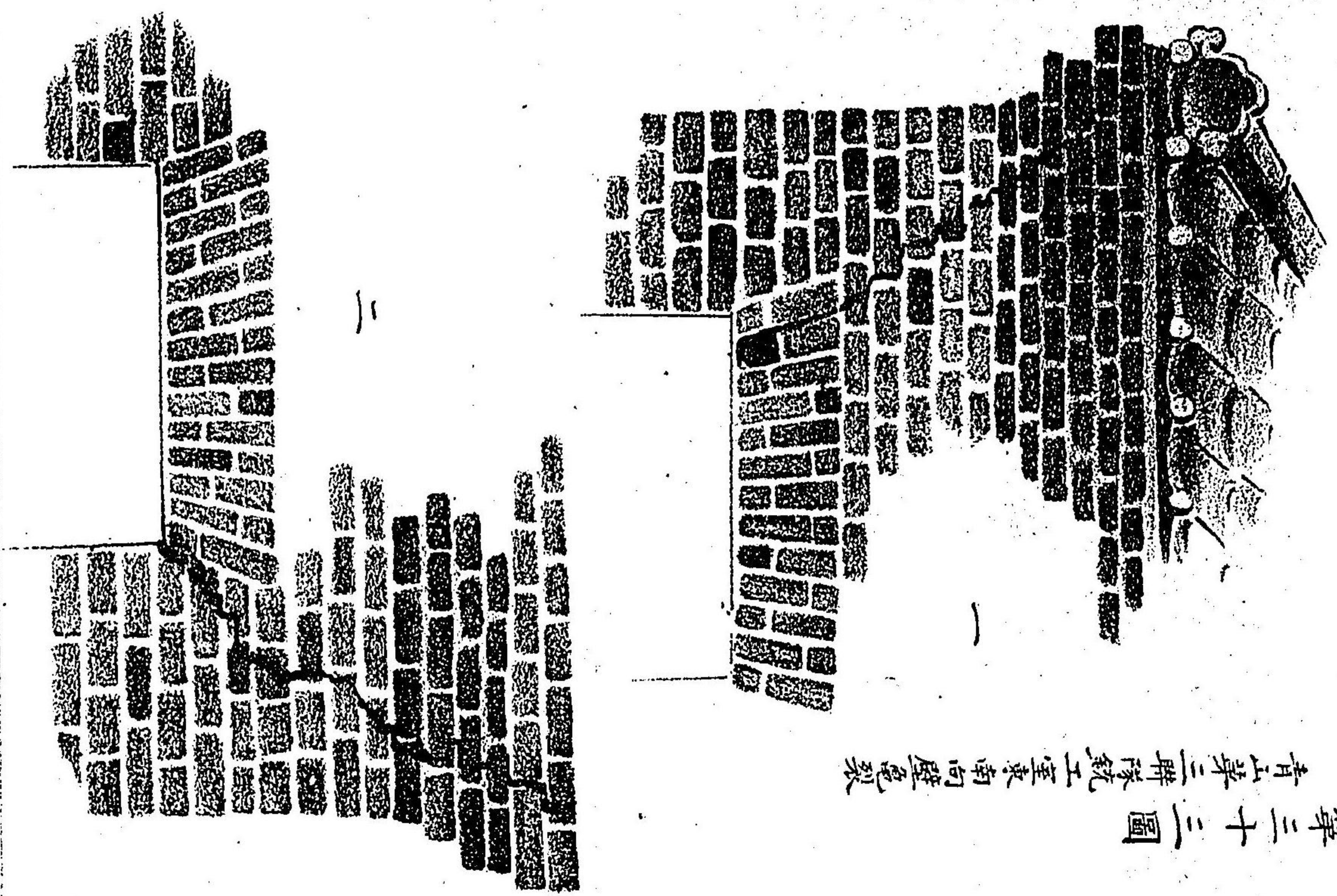


イイ、度、元ト屋根アリシ者トシテ
 一、母屋ノ下アリ此處アリ跡アリ

圖一十三第

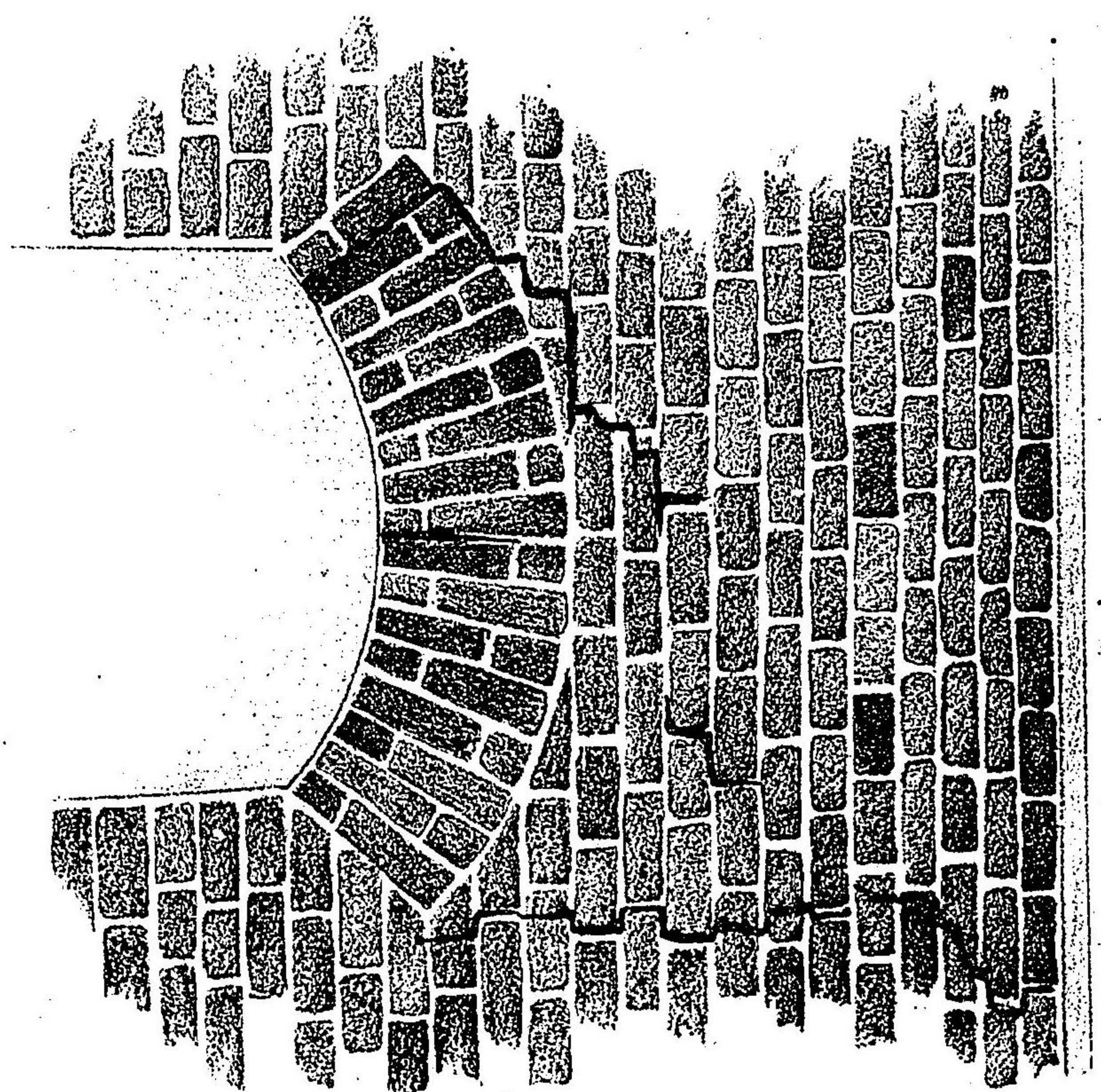
床，社會蠟製川品





青山第三聯隊銃工室東南向壁裂

第三十三圖

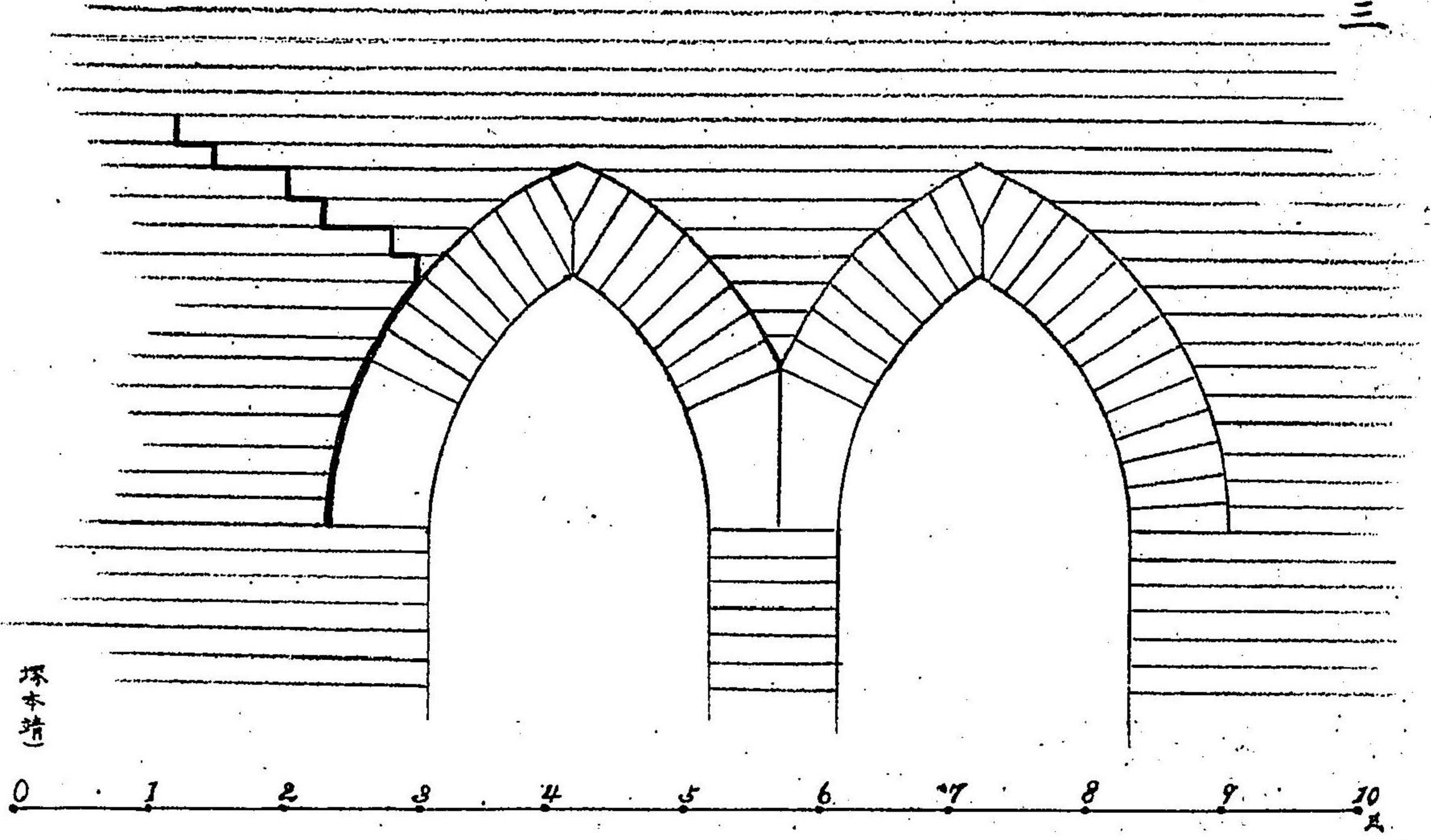
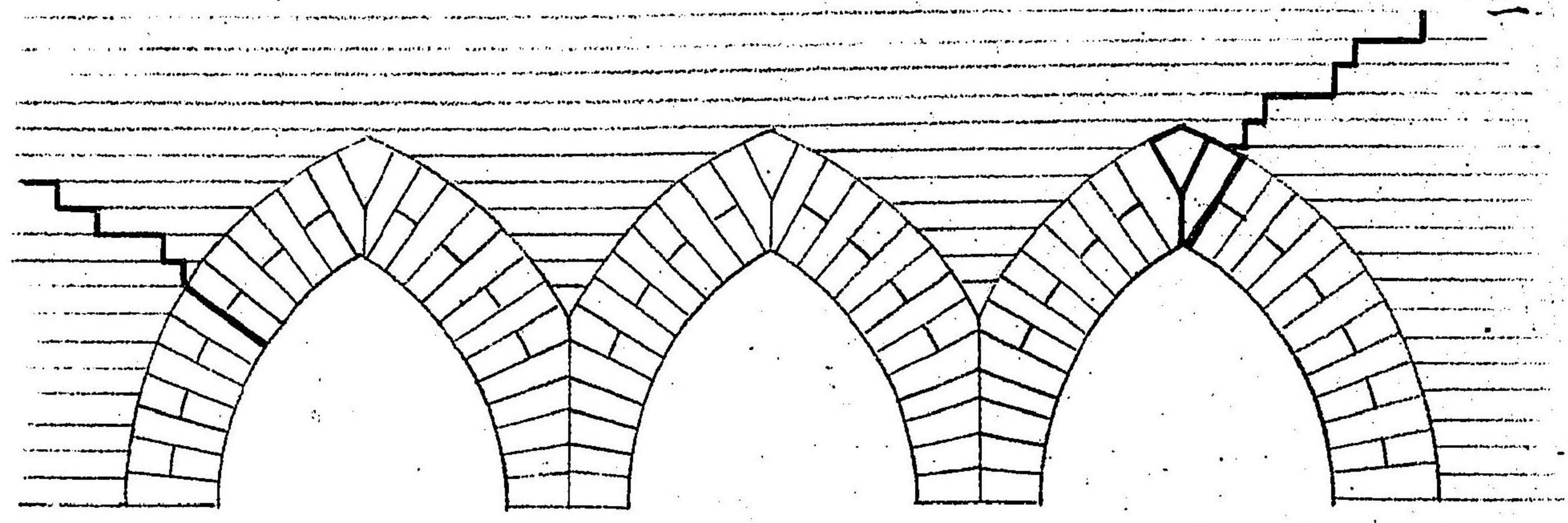
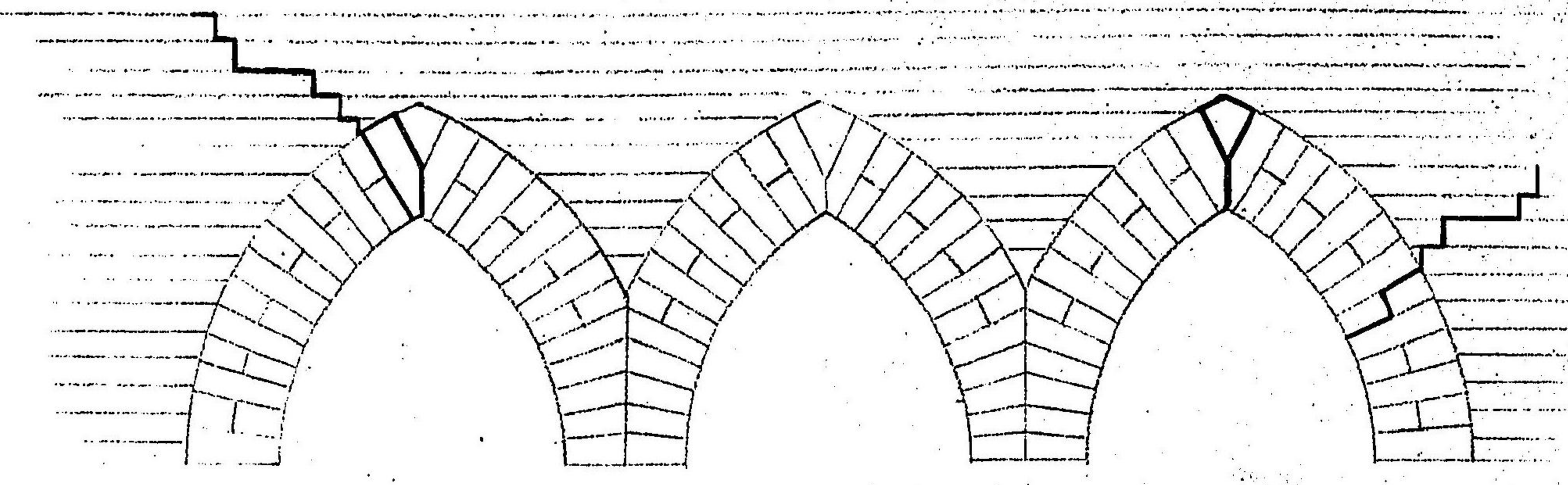


青山第二聯隊第六隊刺入迫撃砲

第三十二圖

第三十四圖

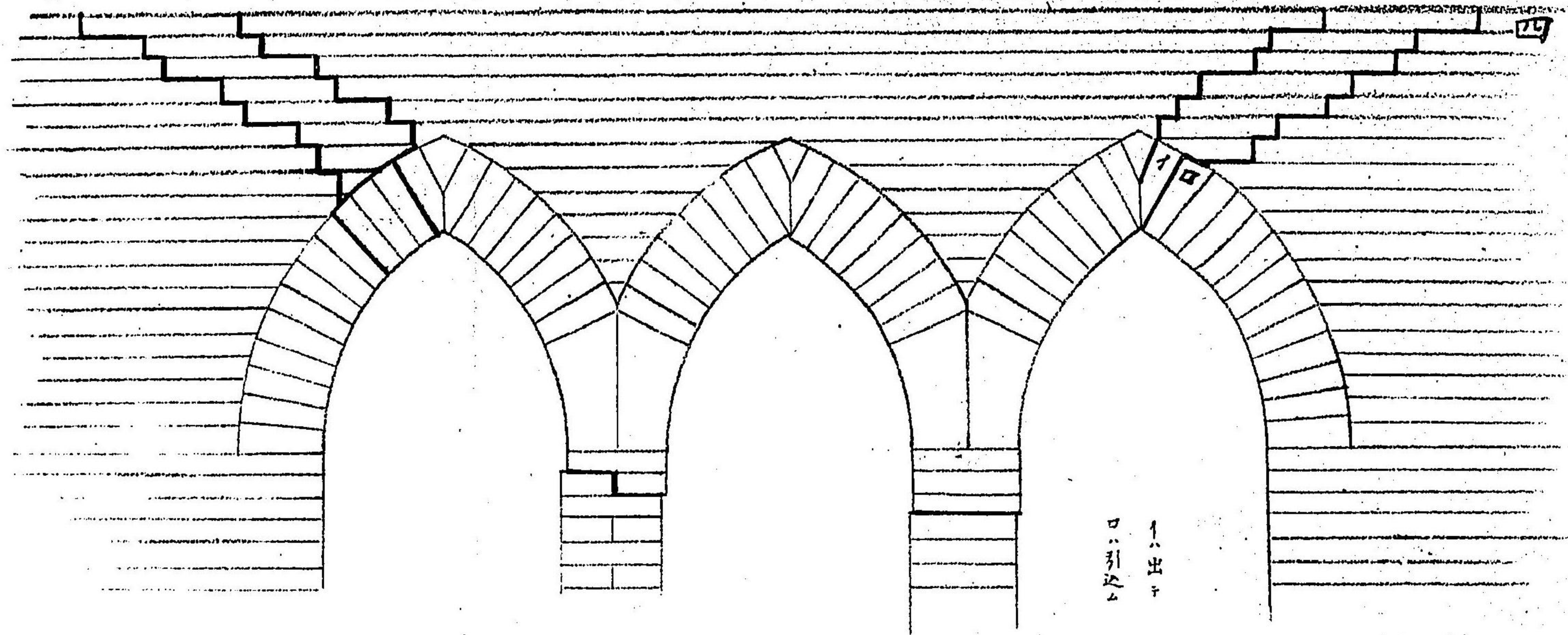
元工部大學校構内化學及機械實驗室迪持龜裂



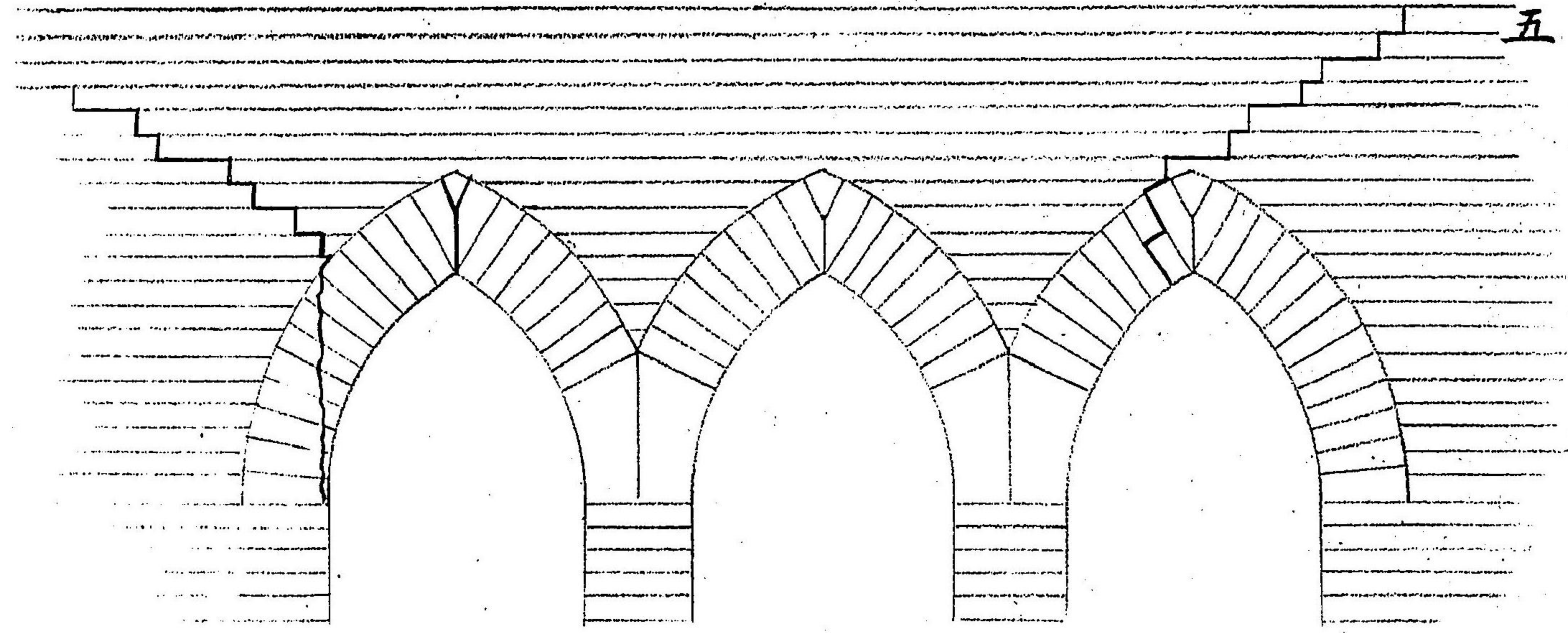
環本道

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20

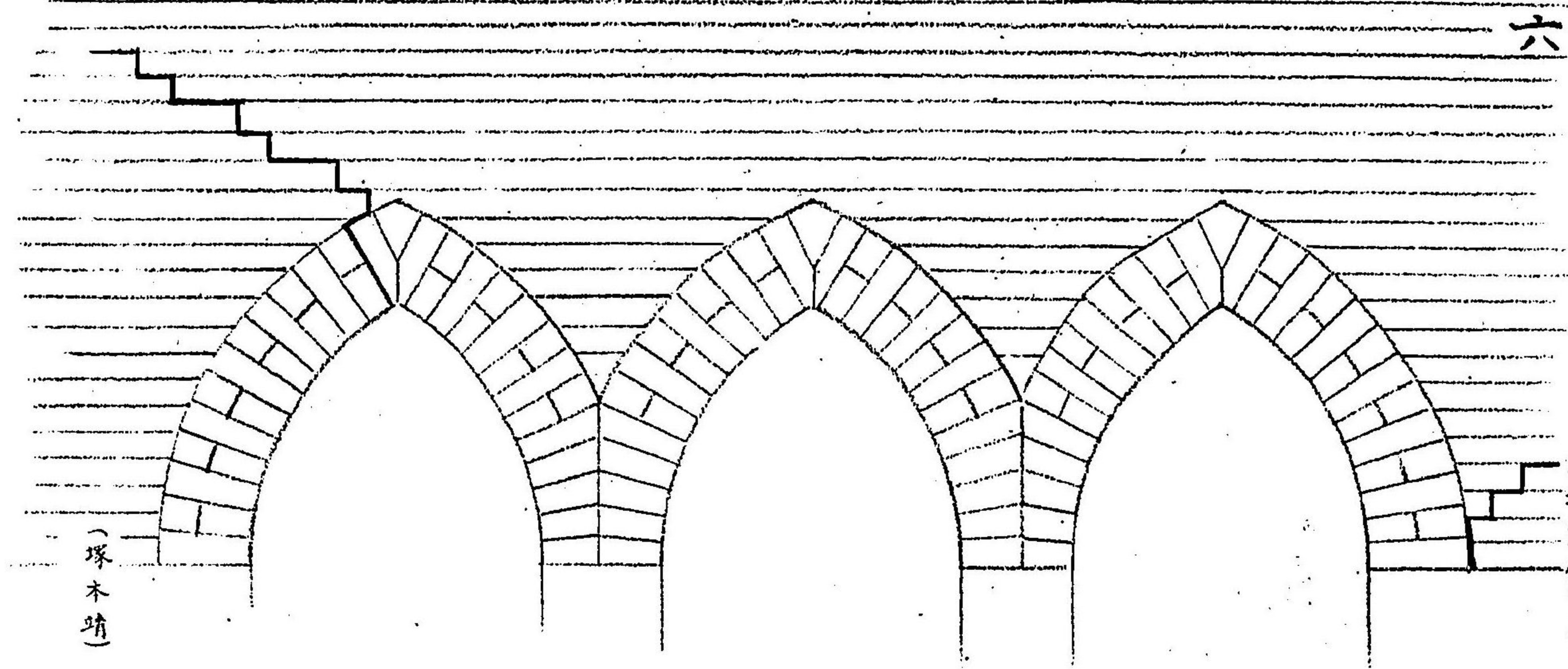
第三十四圖



五



六

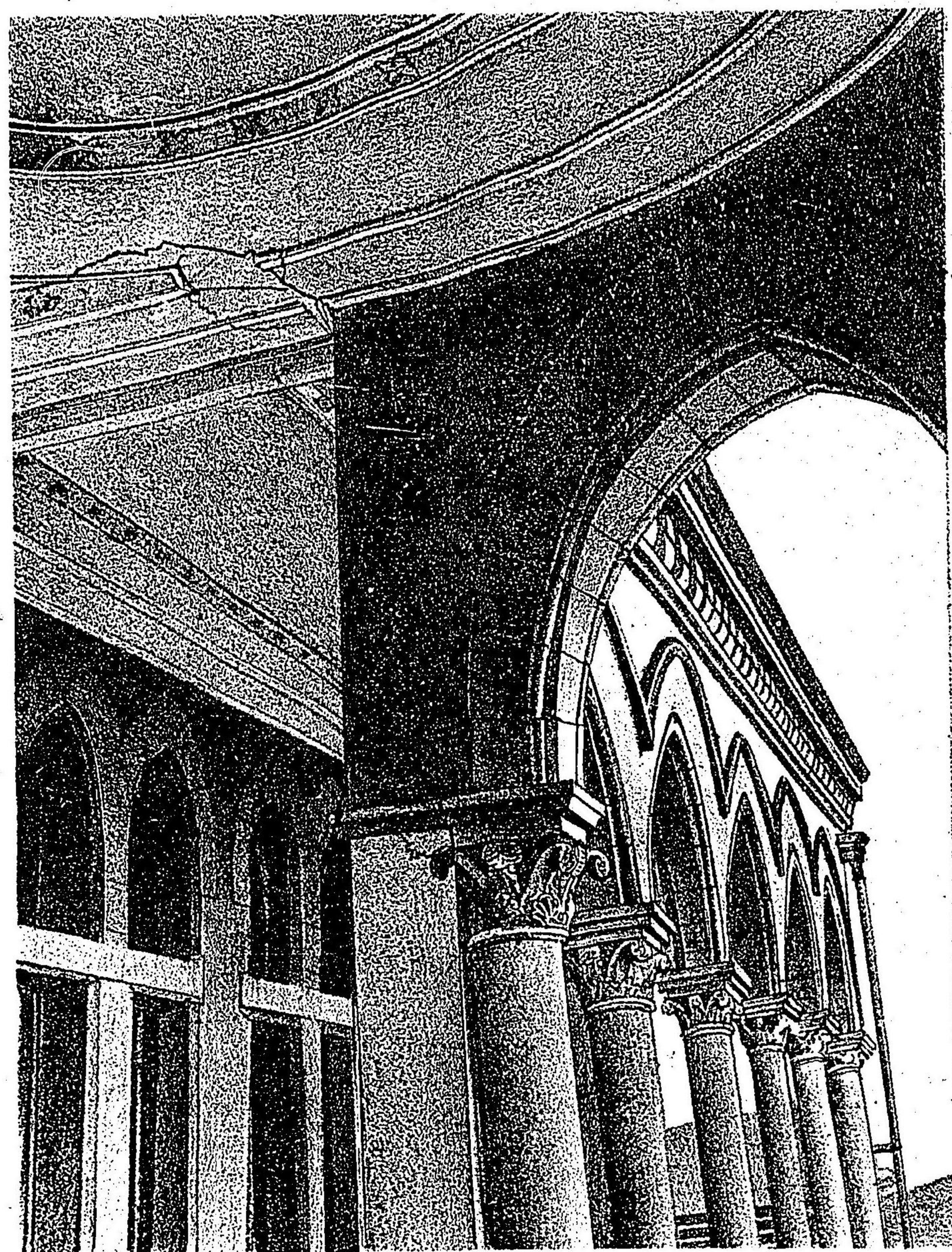


琢木靖

此磚製屋間之足

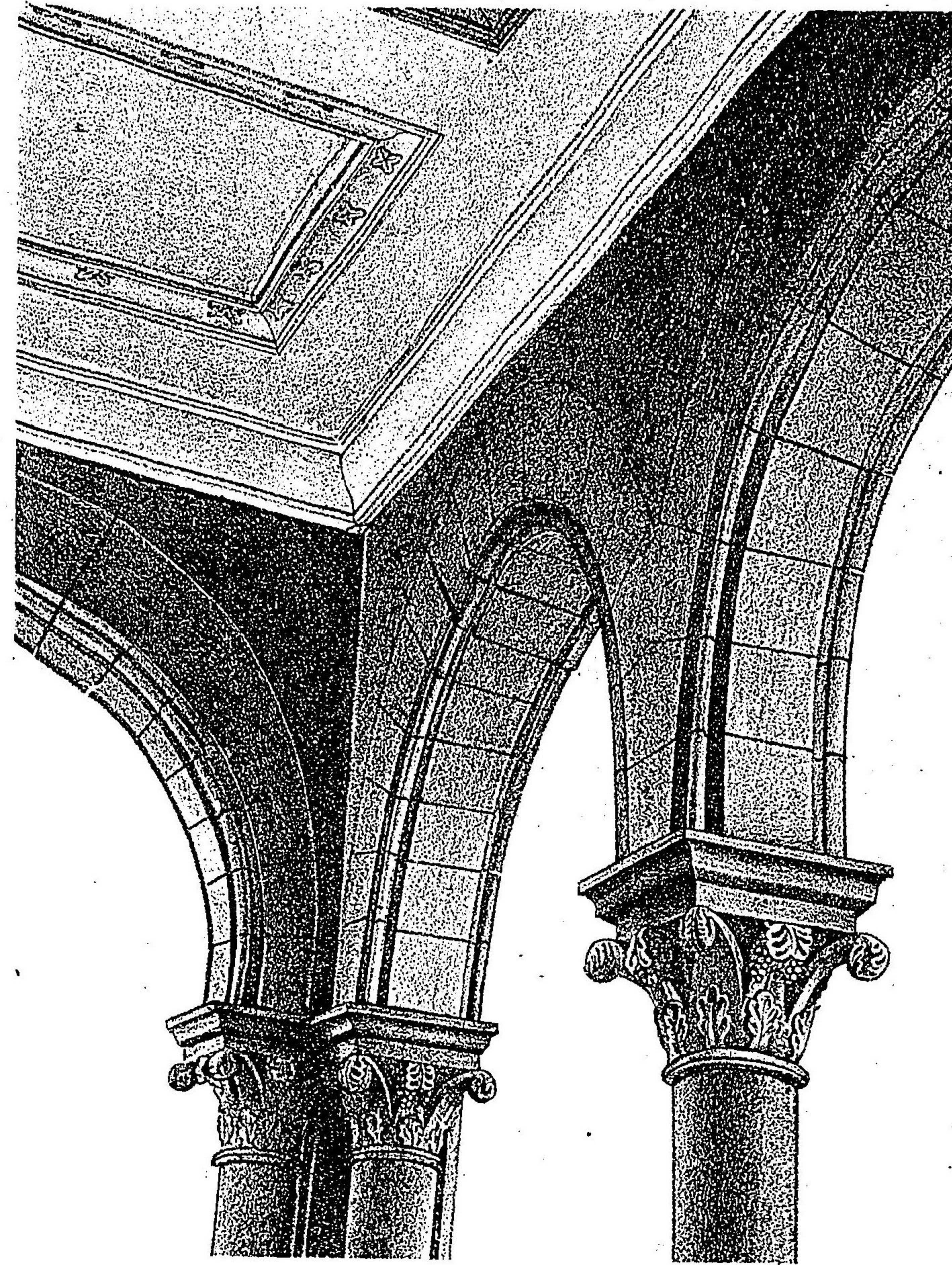
一、圖五十三第

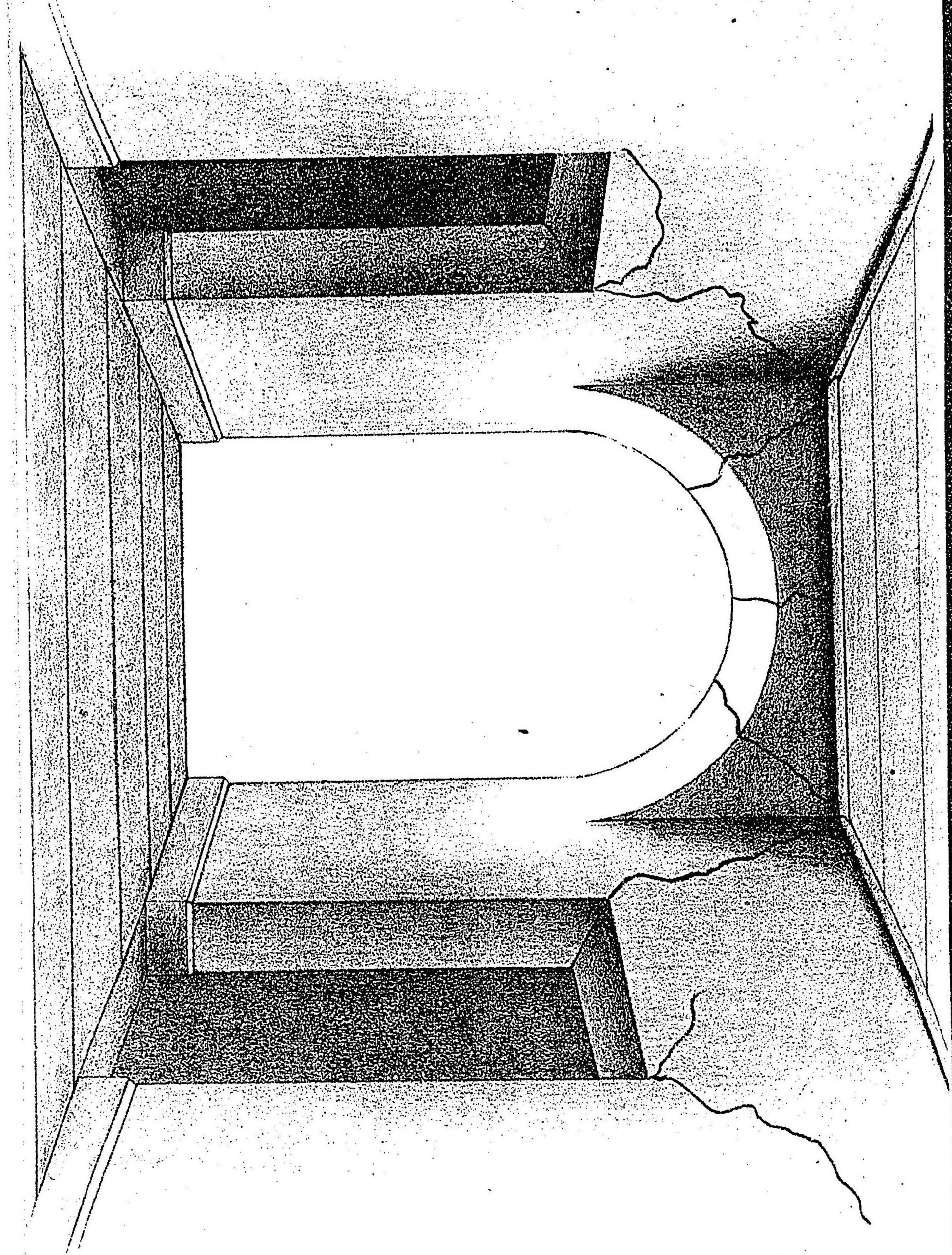
下廊御殿御宮川日北



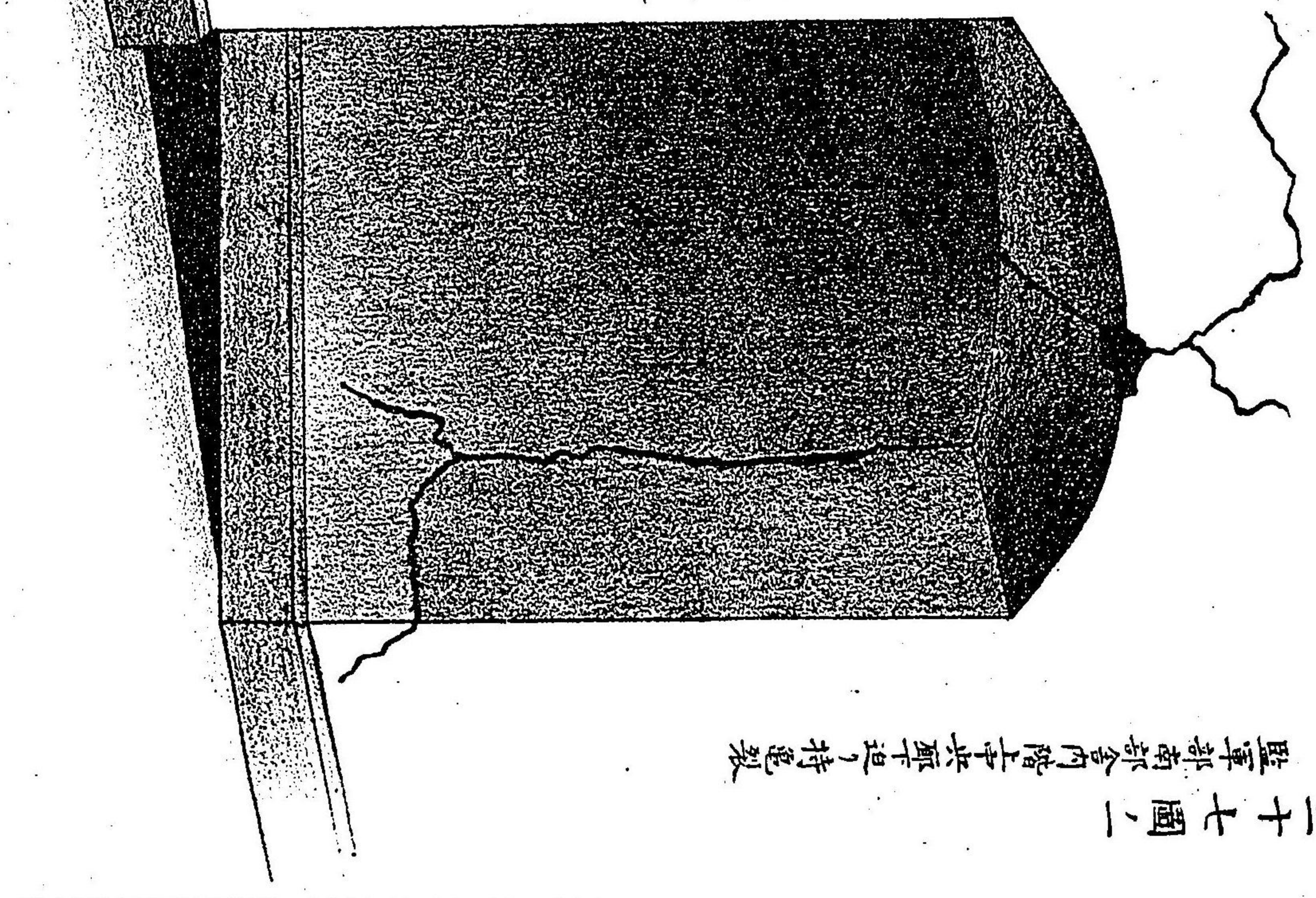
二ノ圖五十三第

下廊御殿御宮川白北

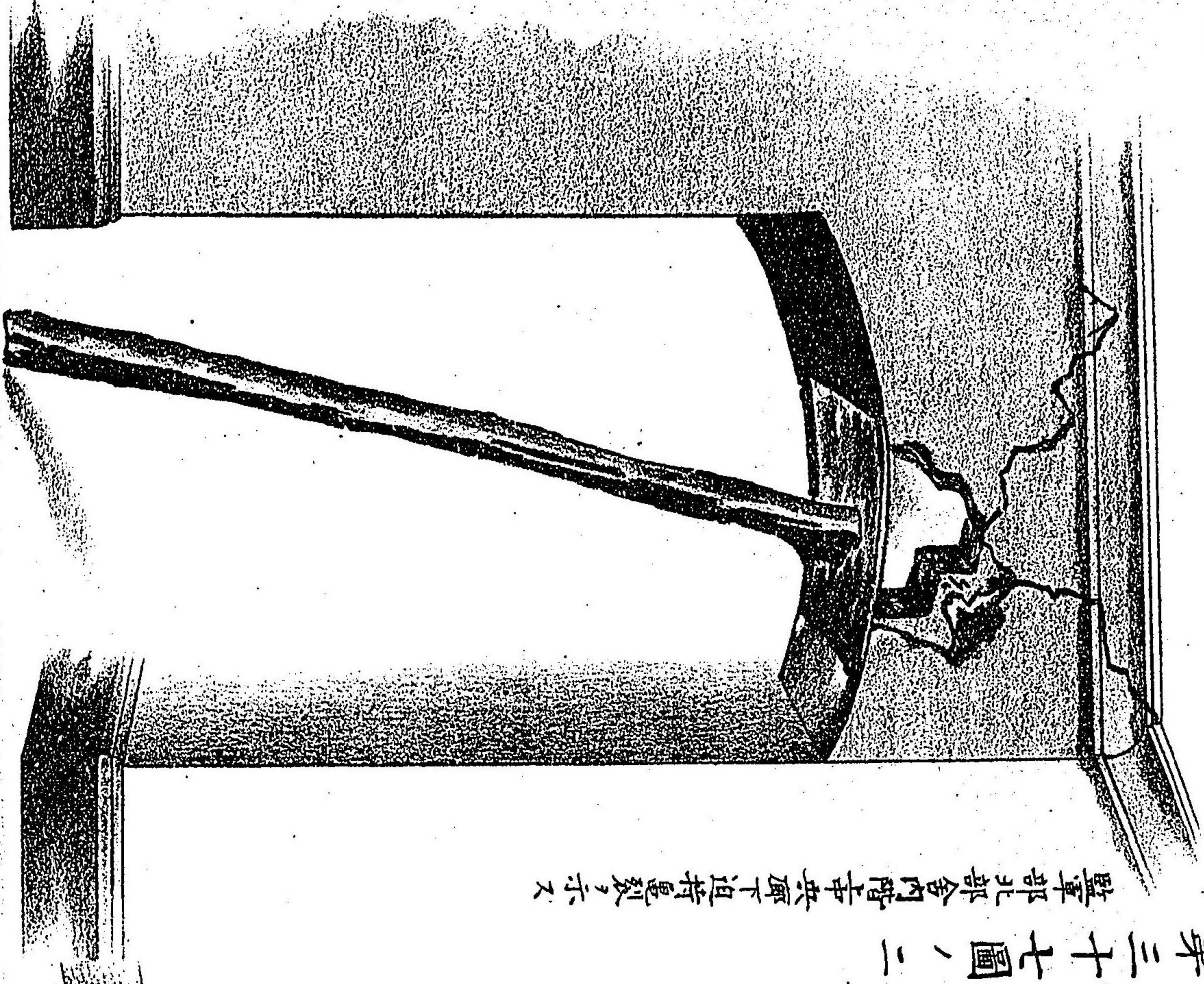




第三十六圖
近衛步兵二聯隊營內部階上廊下入口上部迫持急效



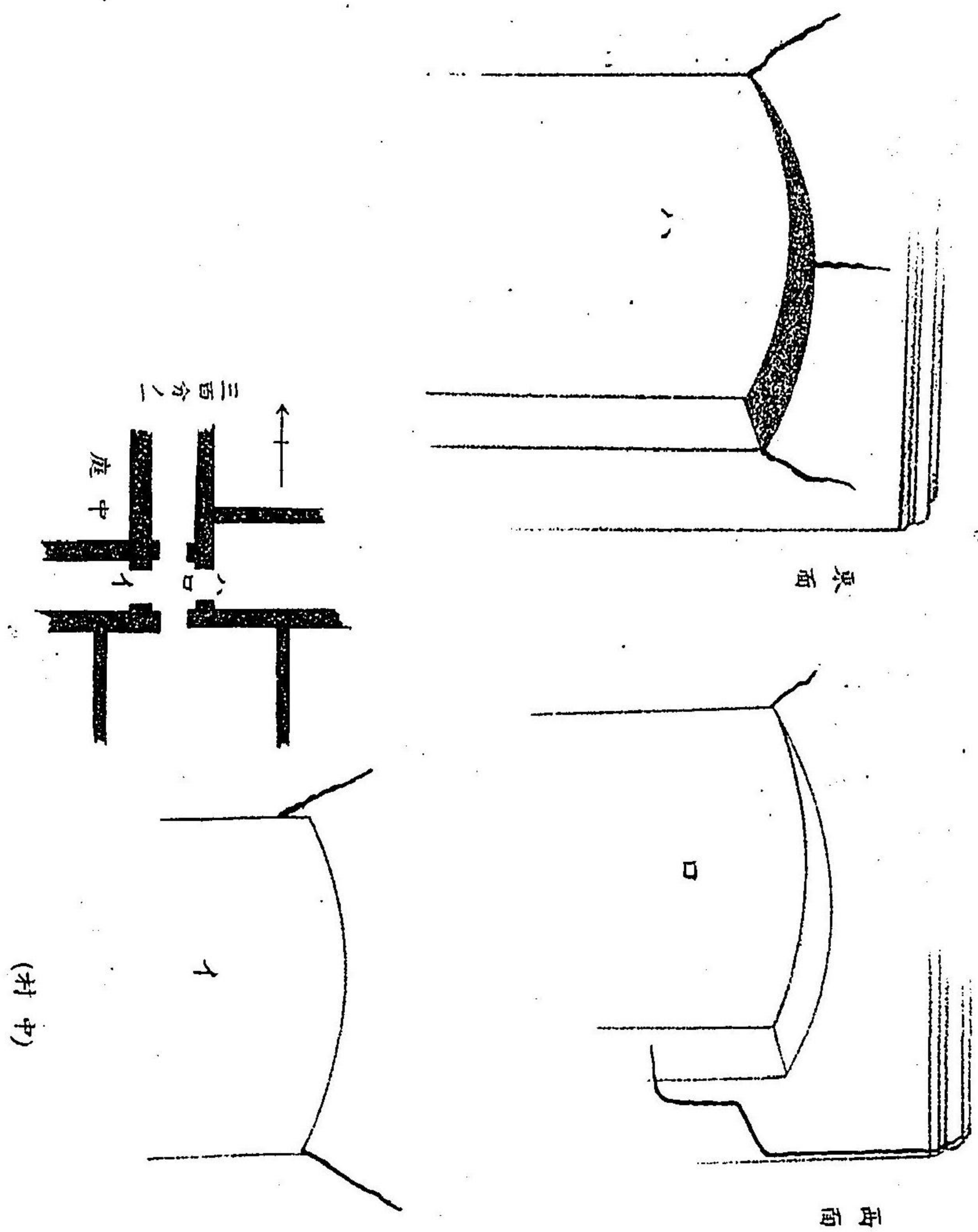
第三十七圖，一
監軍部南舍內階中塔碑平坦，持龜裂。



第三十七圖，二
監軍部北舍內階中塔碑下迫持龜裂，亦又。

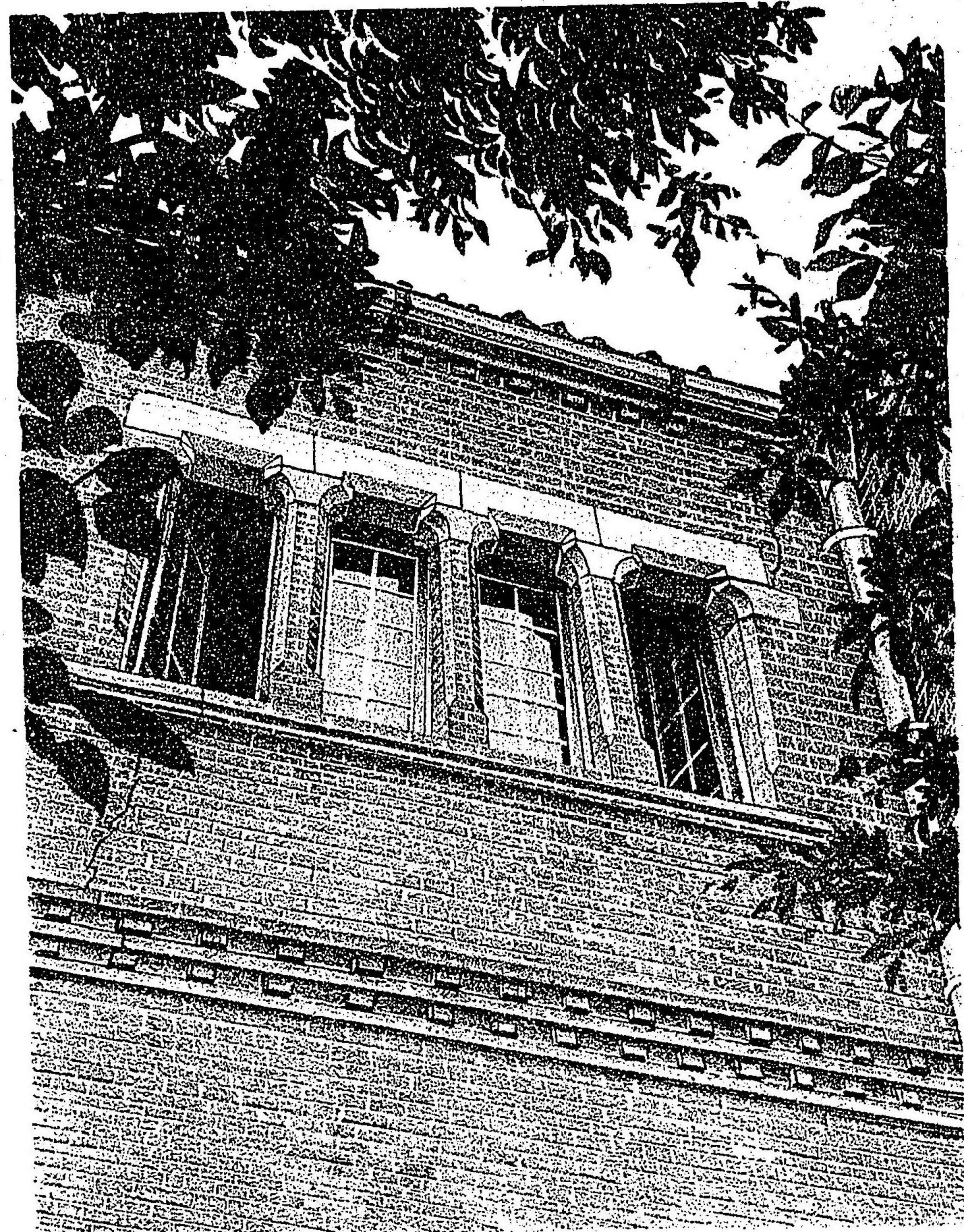
圖八十三第

海軍大學校
階上廊下

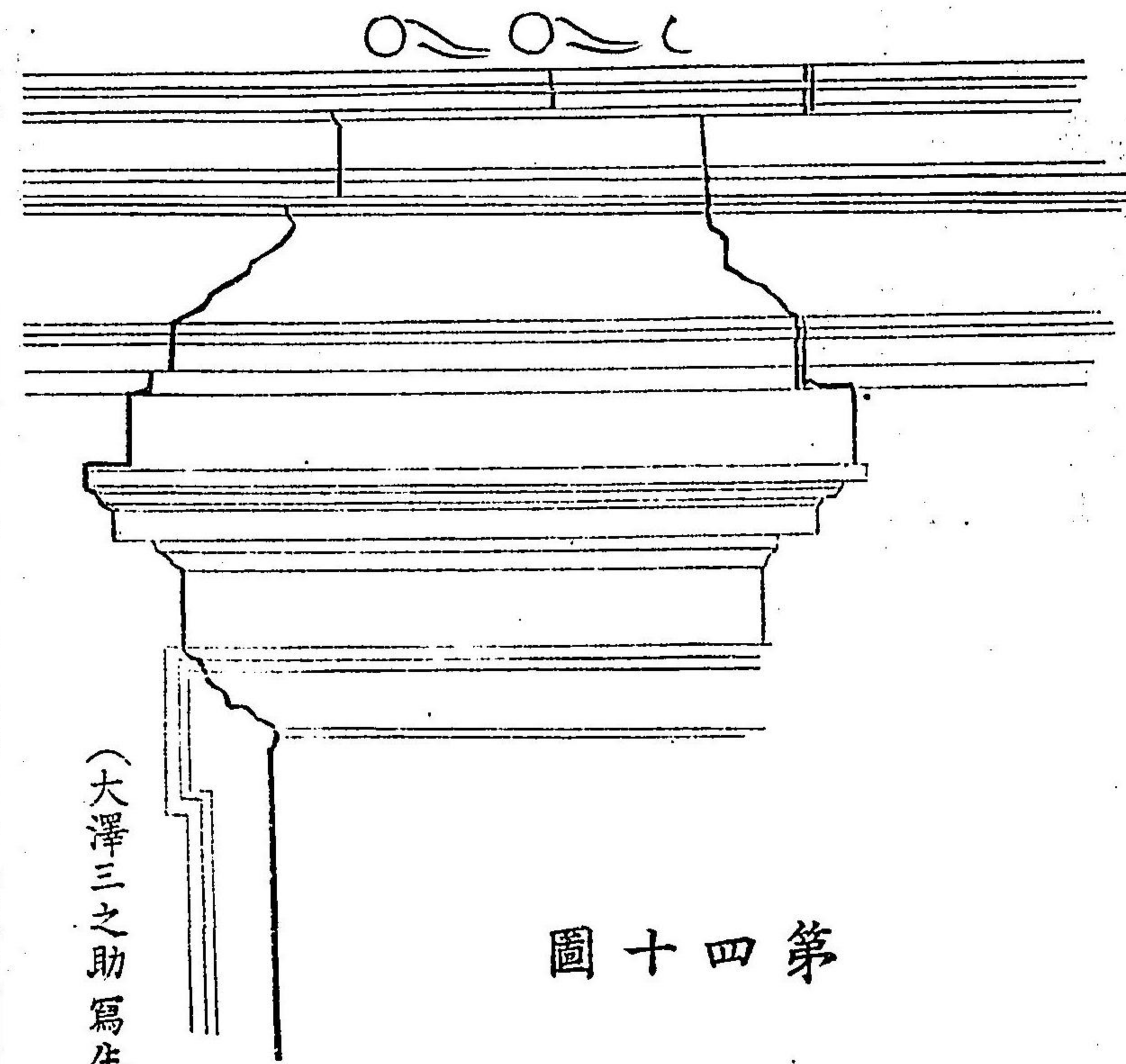


圖九十三第

校學大部工旧内門之虎
側南，館東内，館徒生

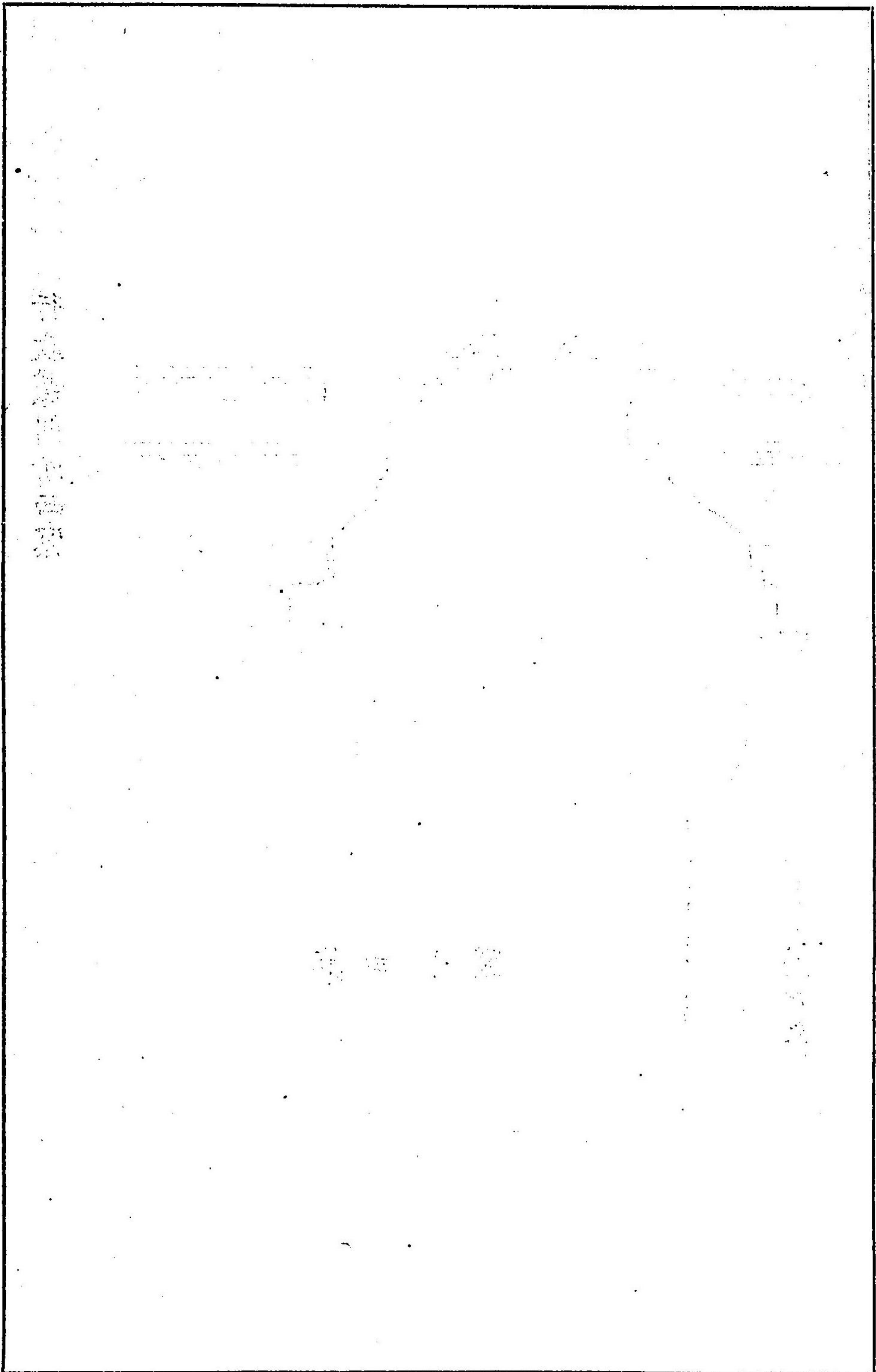


行政裁判所西窓



(大澤三之助寫生)

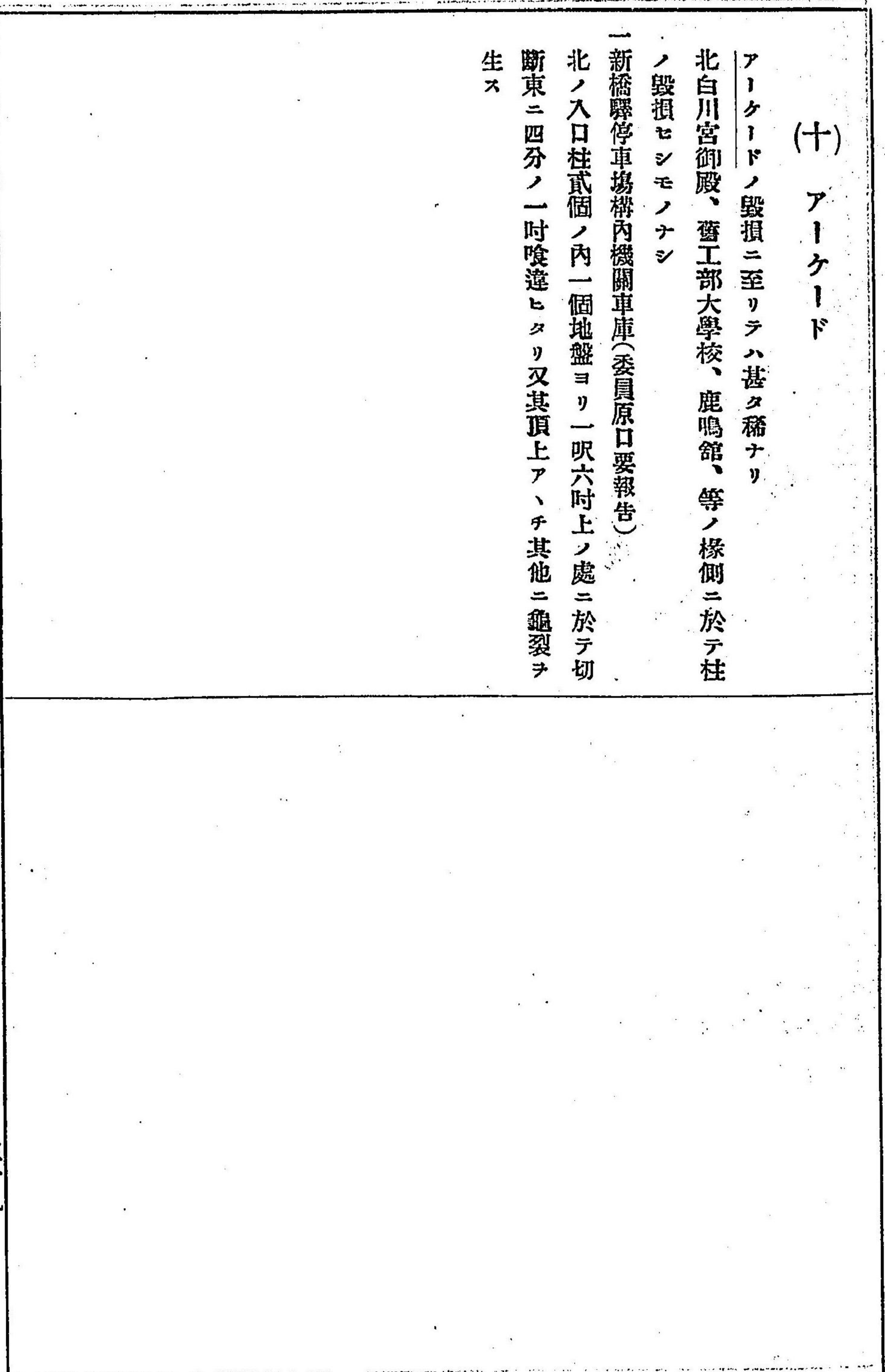
第十四圖



(十) アークード

アークードノ毀損ニ至リテハ甚タ稀ナリ
 北白川宮御殿、舊工部大學校、鹿鳴館、等ノ椽側ニ於テ柱
 ノ毀損セシモノナシ

一 新橋驛停車場構内機關車庫(委員原口要報告)
 北ノ入口柱貳個ノ内一個地盤ヨリ一呎六吋上ノ處ニ於テ切
 斷東ニ四分ノ一吋喰違ヒタリ又其頂上ア、チ其他ニ龜裂ヲ
 生ス



(十一) 窓及出入口

一 赤十字病院(山崎定信報告)

澁谷村御料地内ニアリ其事務所ハ煉瓦造ニ階建ニシテ東西ニ長ク南北ニ短ク芝開ハ南面セリ東翼外部窓臺石ハ二本或ハ三本ニ折レ笠石モ折損シタリ

一 舊機械工學實驗室(全上)

舊工部大學校構内機械工學實驗室西側階上三連窓ノ間柱ハ上部ニ於テ壹寸許リ北向ニ傾斜シ頗ル危険ナリ

一 砲兵工廠

小銃製造所入隅ニアル窓ノ外側煉瓦方立ハ罅裂ヲ生セリ

一 舊訓盲啞院

階下窓ノ間柱ハ傾斜シタルヲ第四十四圖ノ如シ

(イ) 軒近クニアル窓

軒近クニアル窓ニ於テハ其上ヨリ軒迄罅裂ヲ現出セシモノ極メテ多シ

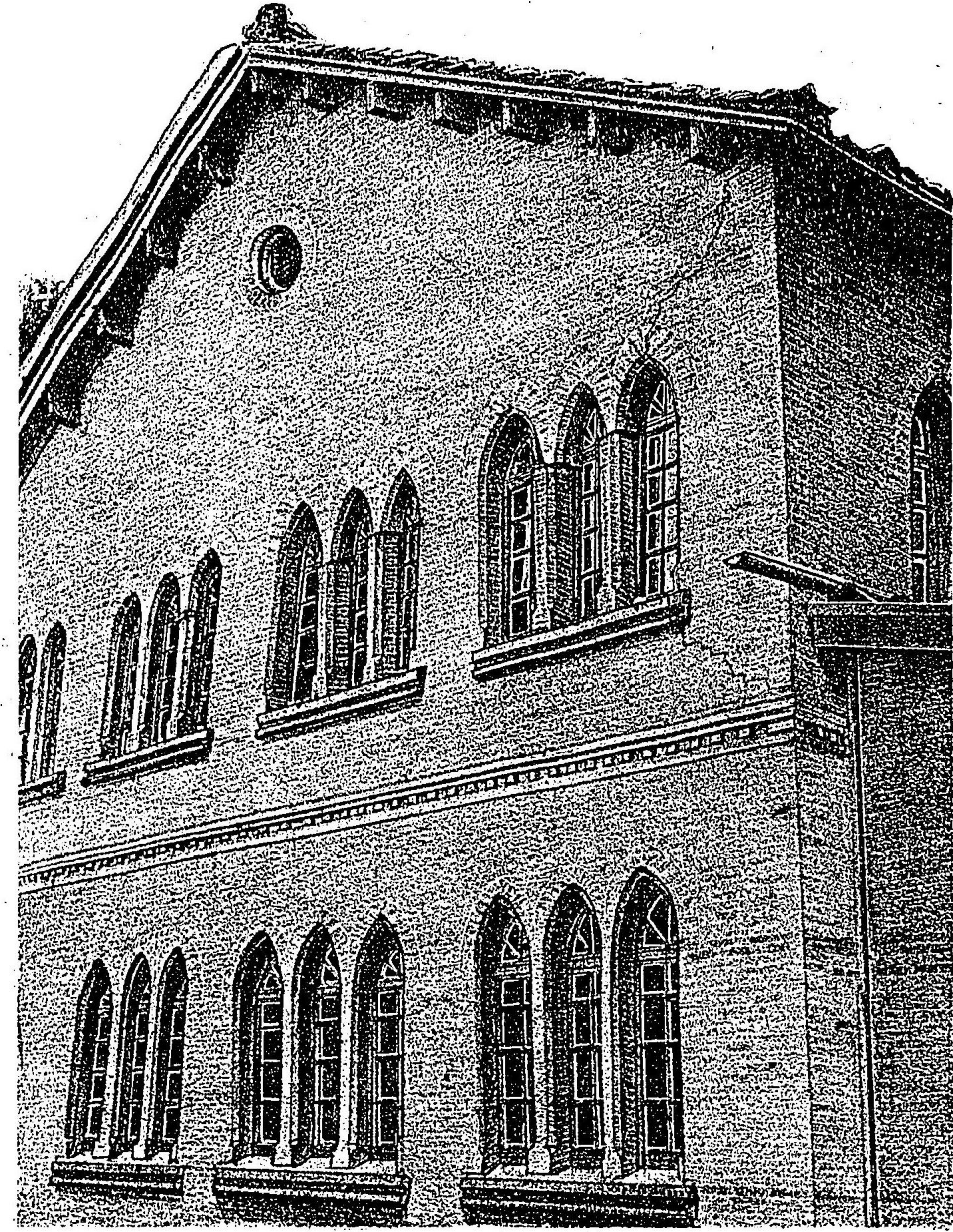
近衛歩兵第二聯隊營房厨所、英國領事館、行政裁判所、舊工部大學校化學實驗室等枚舉ニ追アラズ

(ロ) 窓及ヒ入口ノ重ナリアル場合

上下ノ窓間ニハ罅裂或ハ龜裂ヲ生セシモノ極メテ多シ

別圖ハ唯舊工部大學校中堂正面階段ノ間及ヒ印刷局印刷部ノ例ヲ示セルノミ其他實ニ枚舉ニ追アラズ

圖二十四第
面西側右室驗實學工械機校學大部工田內門ノ虎



Vertical text columns, likely a list or index, located in the right-hand section of the page. The text is arranged in several columns, with some characters appearing to be in a different script or a specific dialect. The text is too faint to transcribe accurately but appears to be organized in a structured manner, possibly listing items or locations.

圖三十四第
所造製銃小廠工兵砲

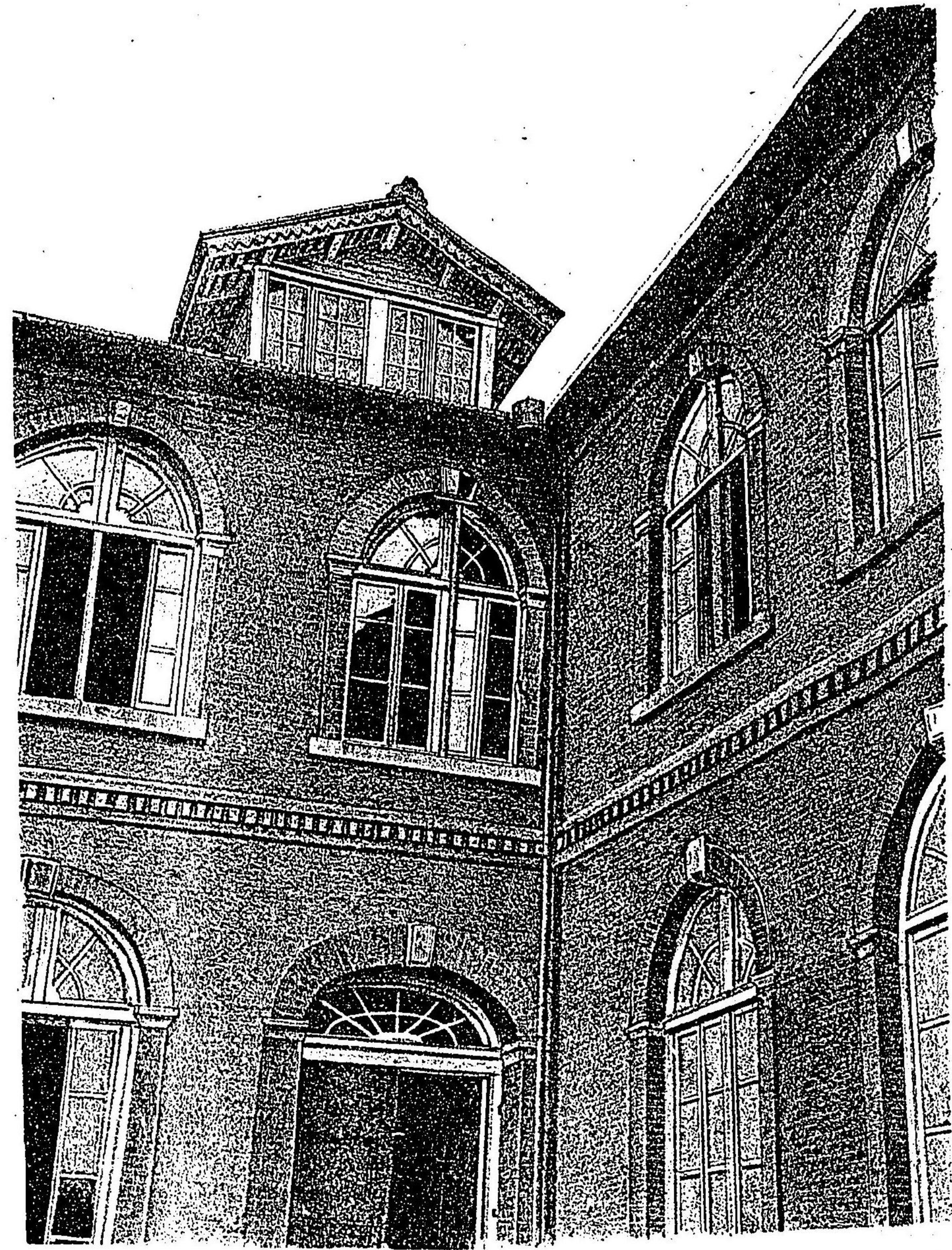
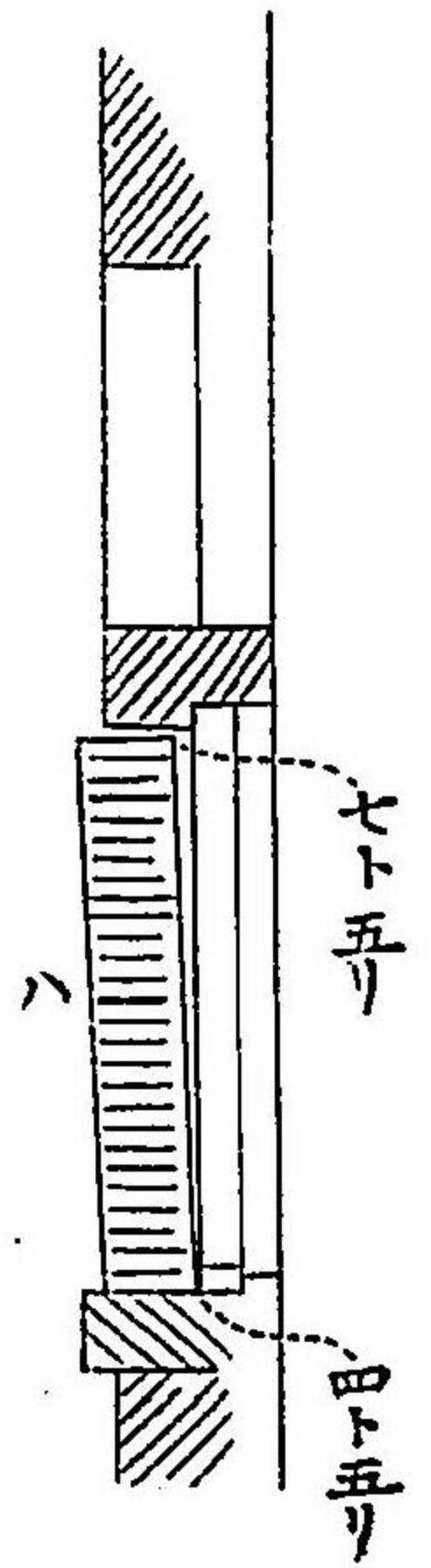
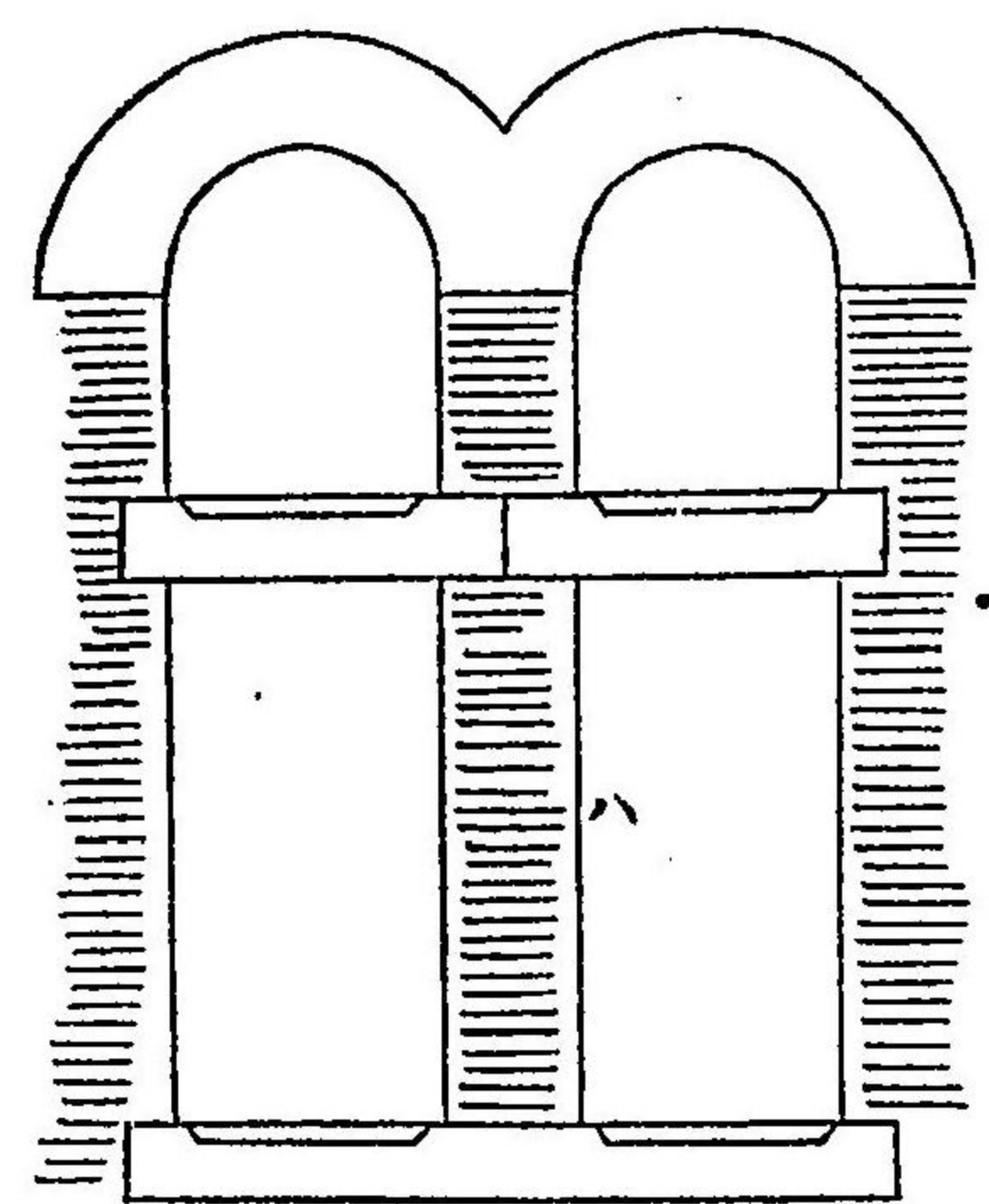


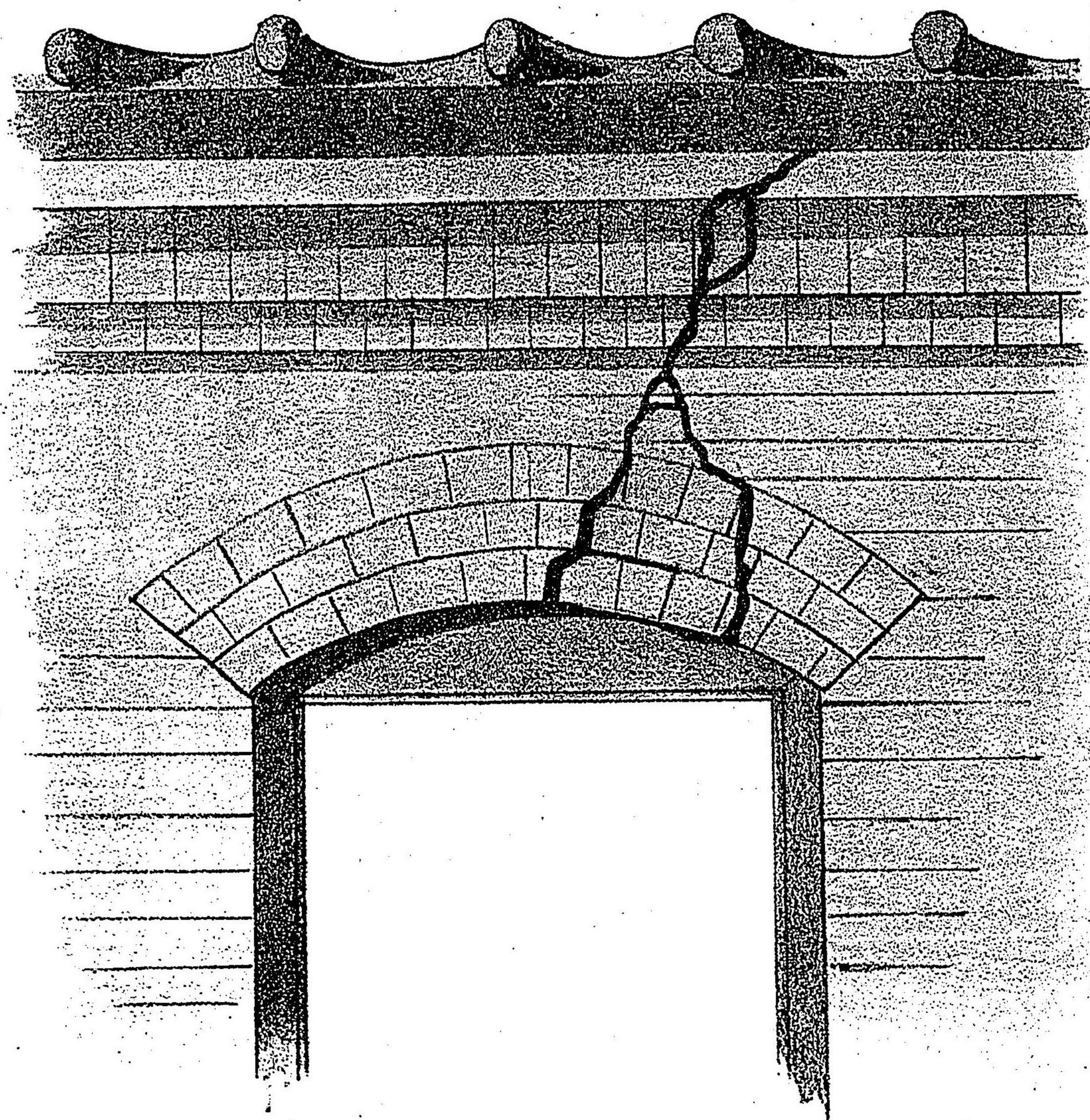
圖 四 十 四 第



田 訓 盲 塚 階 下 窓

圖五十四第

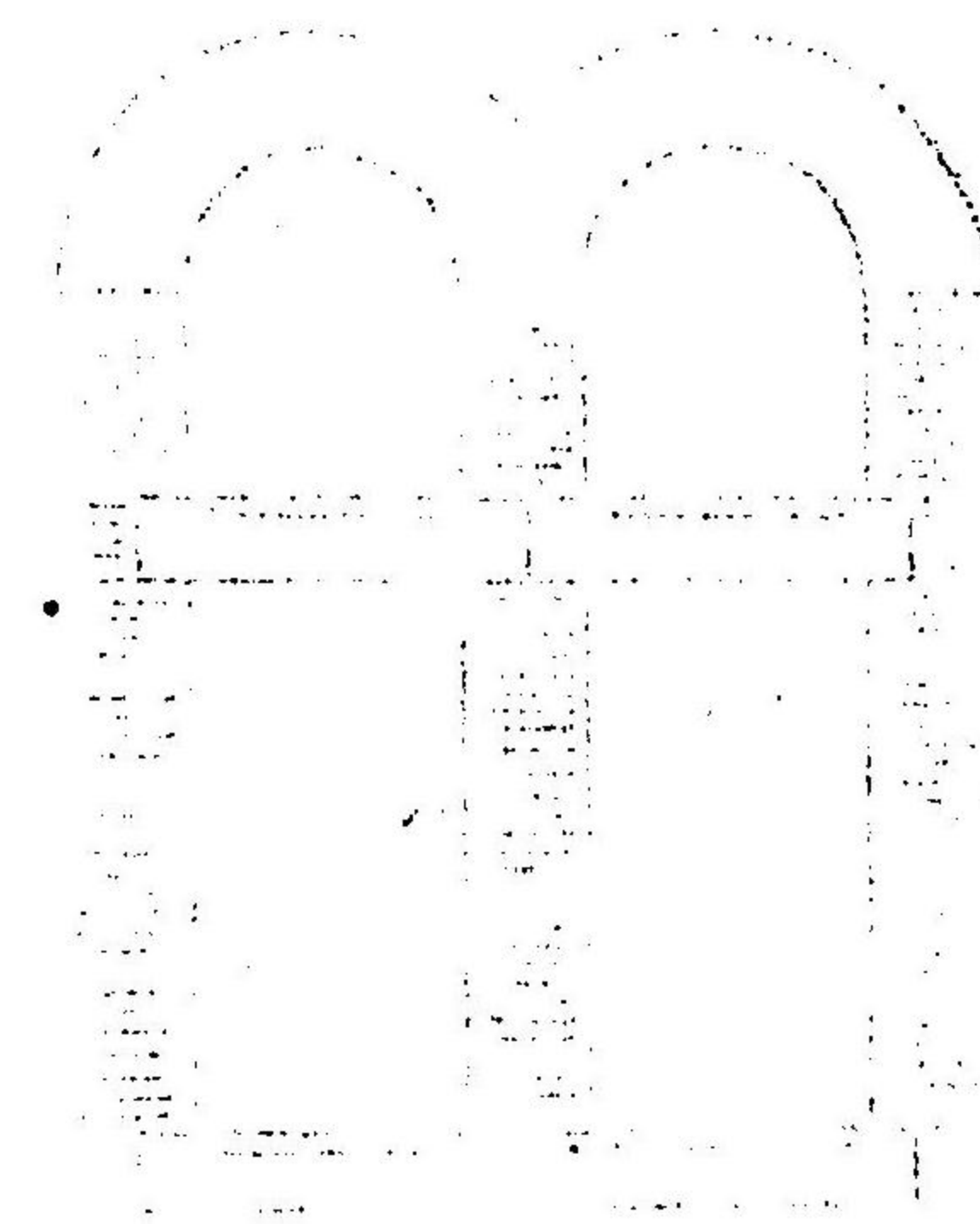
近衛步兵第二聯隊營所、龜裂を示す



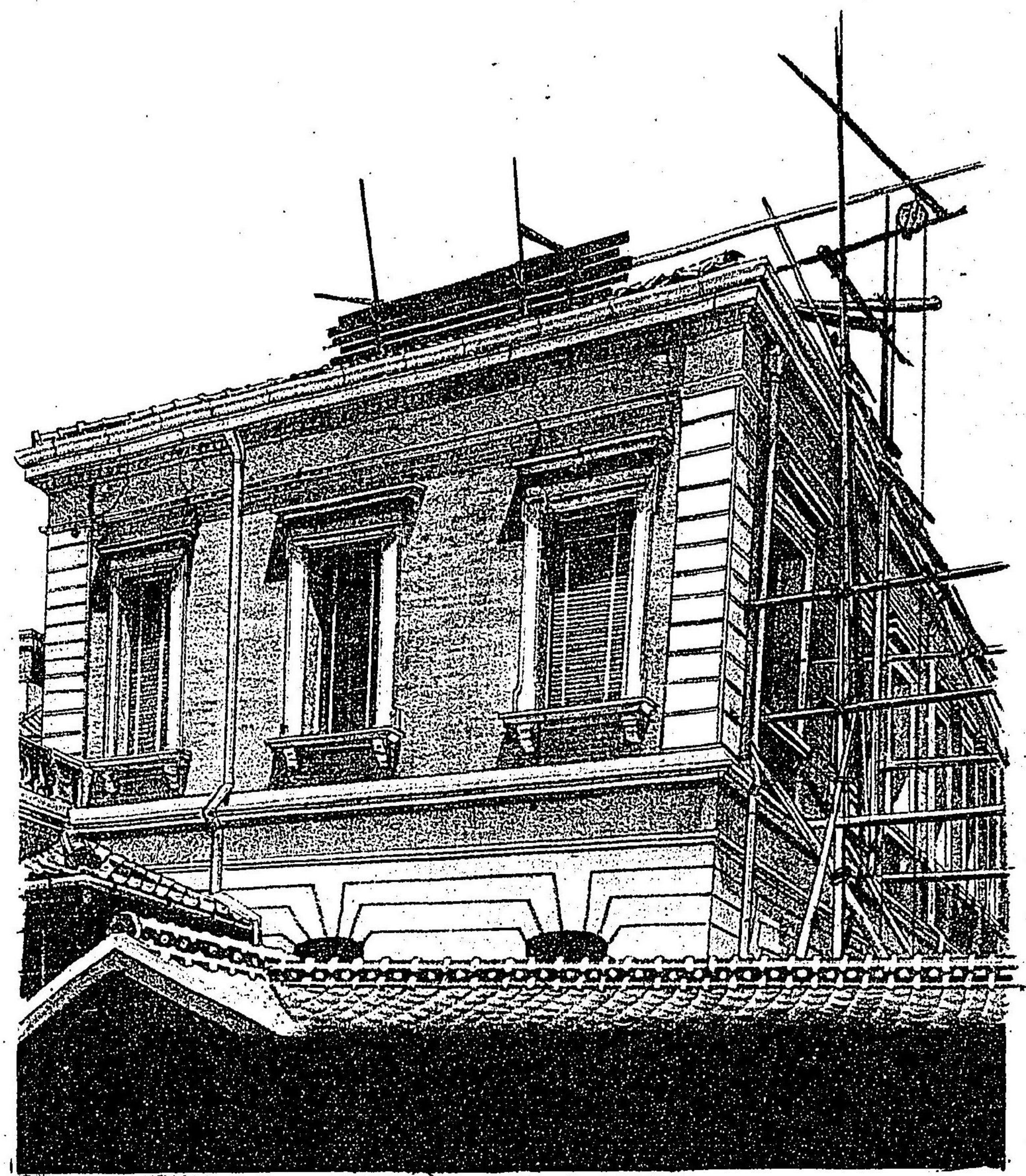
參照第一 東京附近震災被害建築物等調査報告

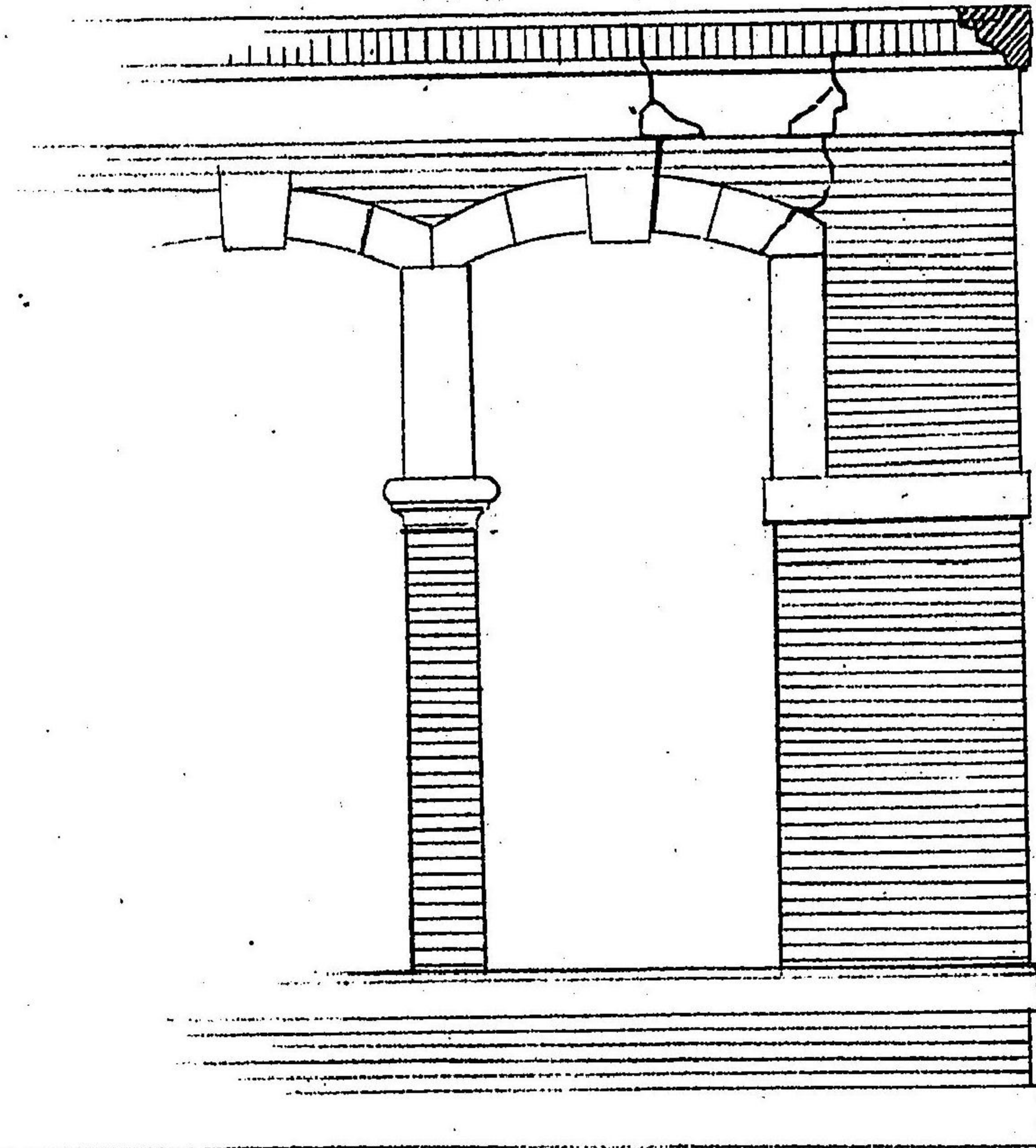
圖五十四第

近衛步兵第二聯隊營所

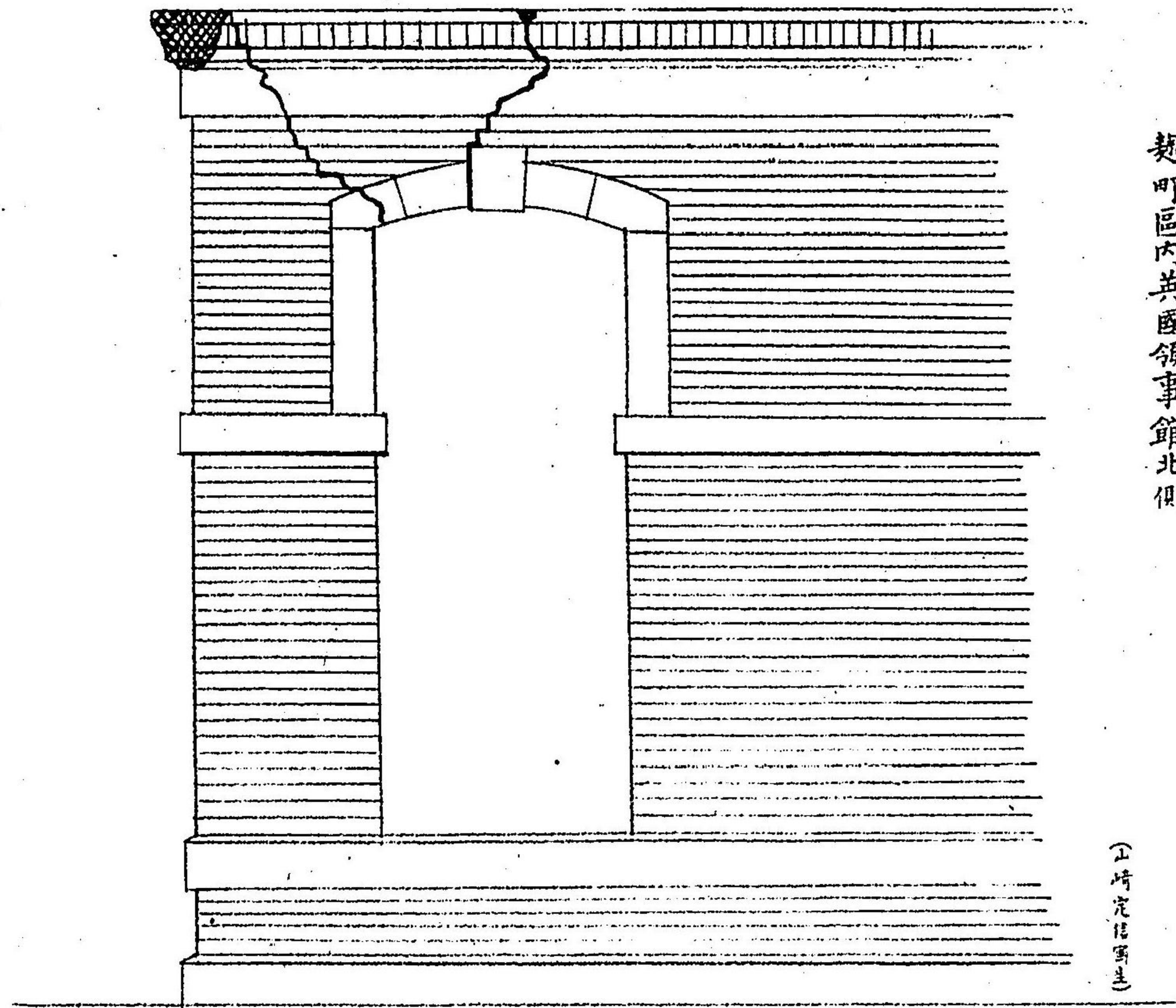


圖六十四第
部外室官定評所判裁政行





第四十七圖一
 租界內英國領事館東側

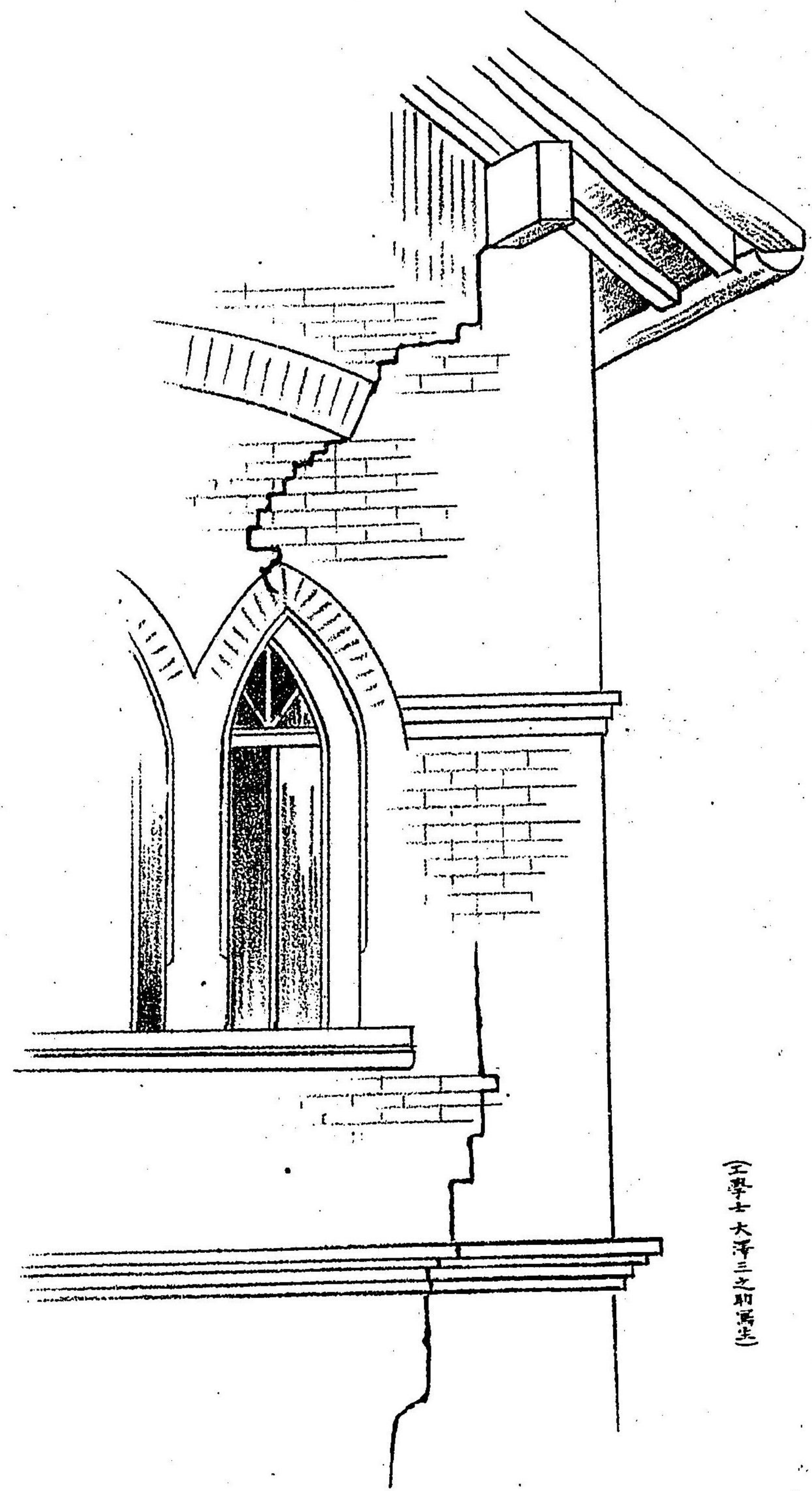


第四十七圖二
 租界內英國領事館北側

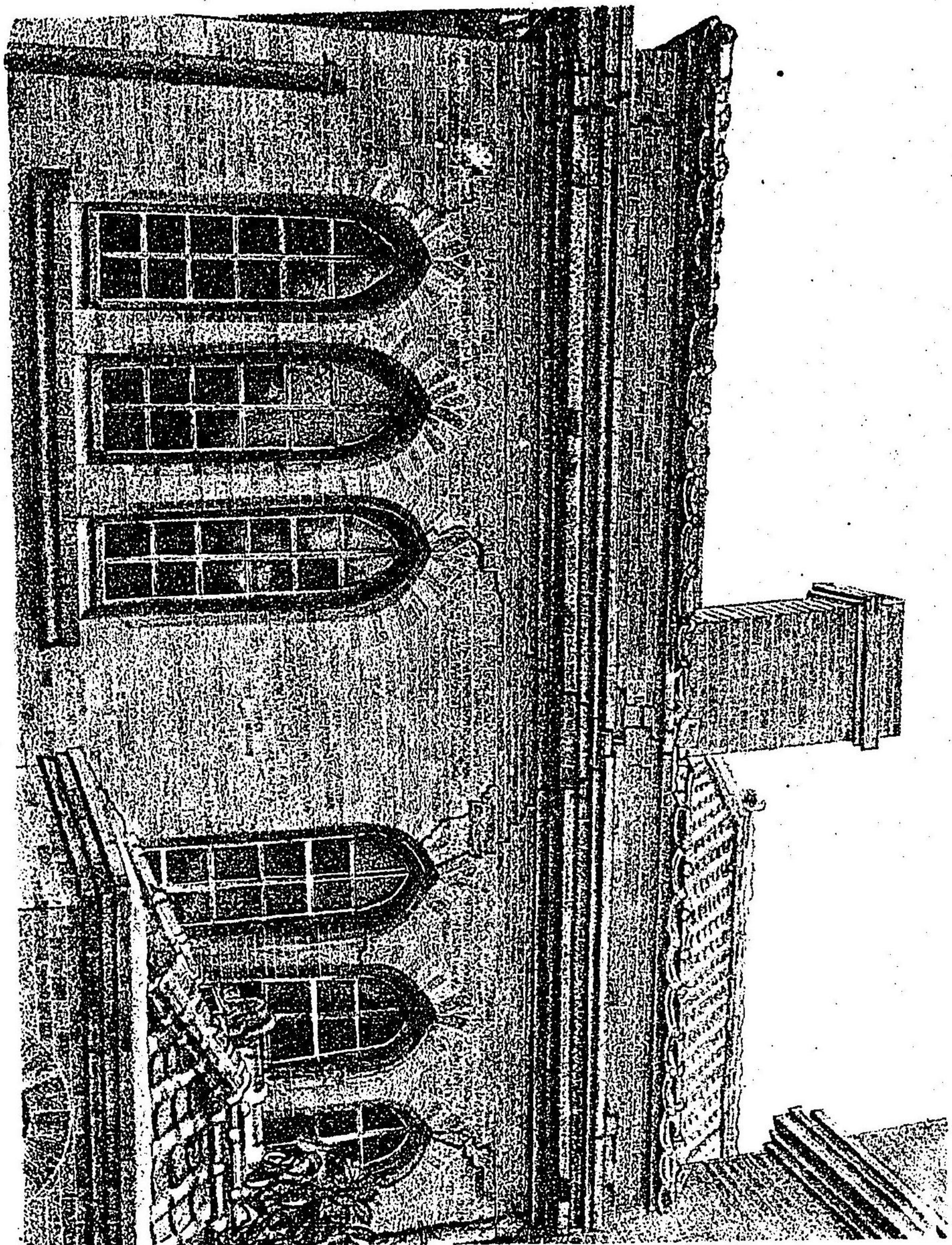
正所定建築志

第四十八圖

虎之門內元工部大學校



工學士大澤三郎寫

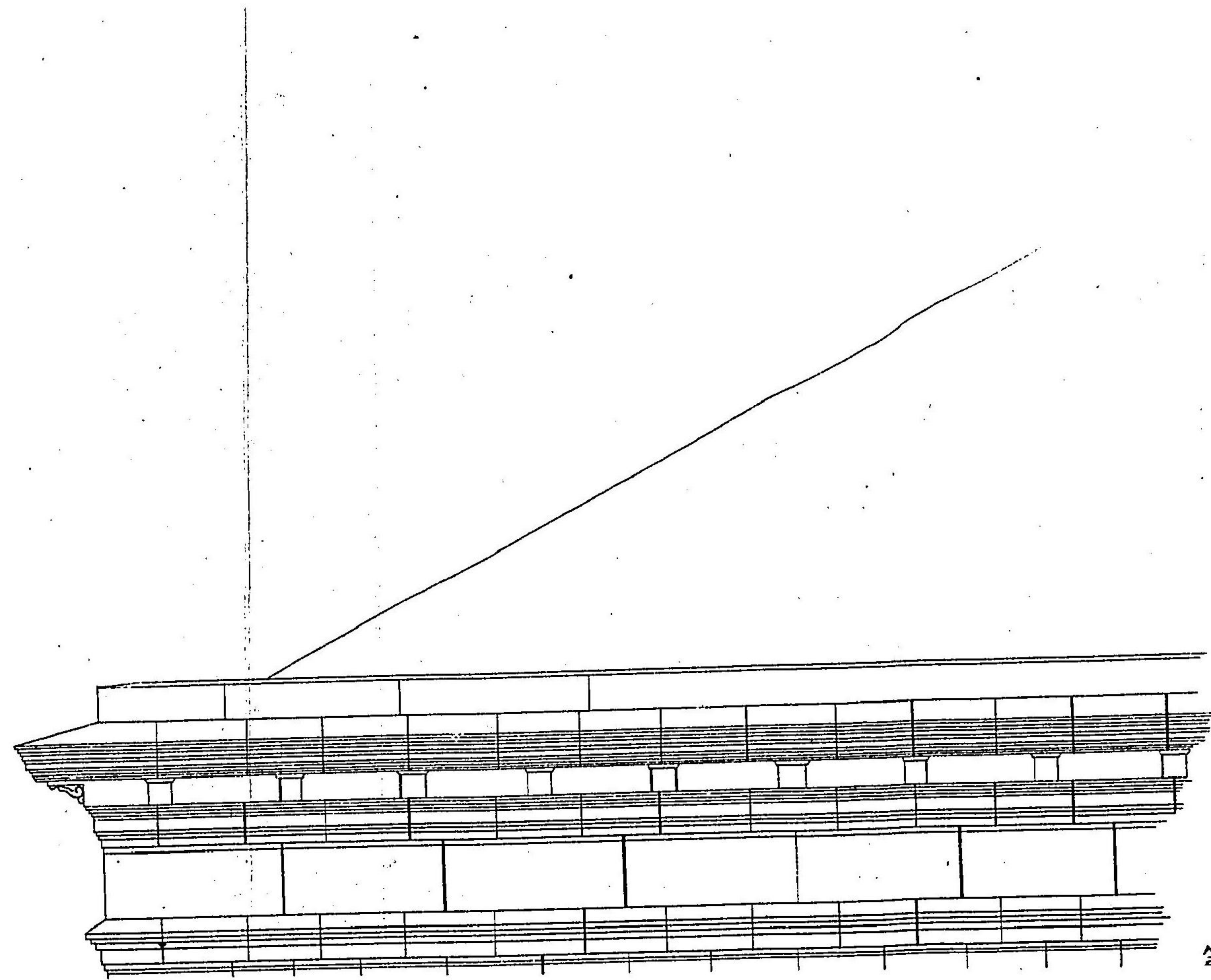


圖九十四 筆
面東側左室驗實學化校學大部工旧内門，虎

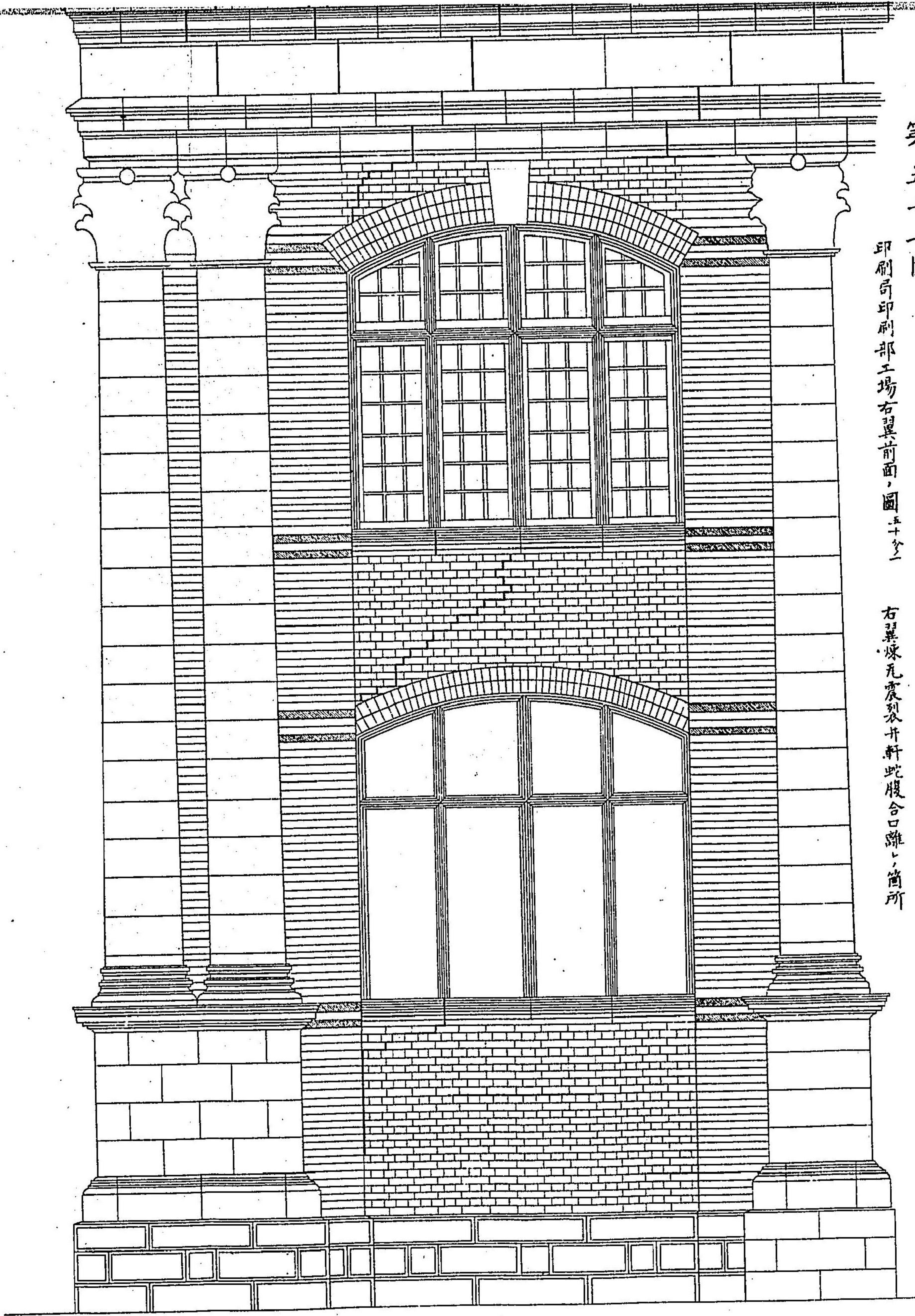
圖十五第

間 / 段階面正堂中校學大部工田





笠



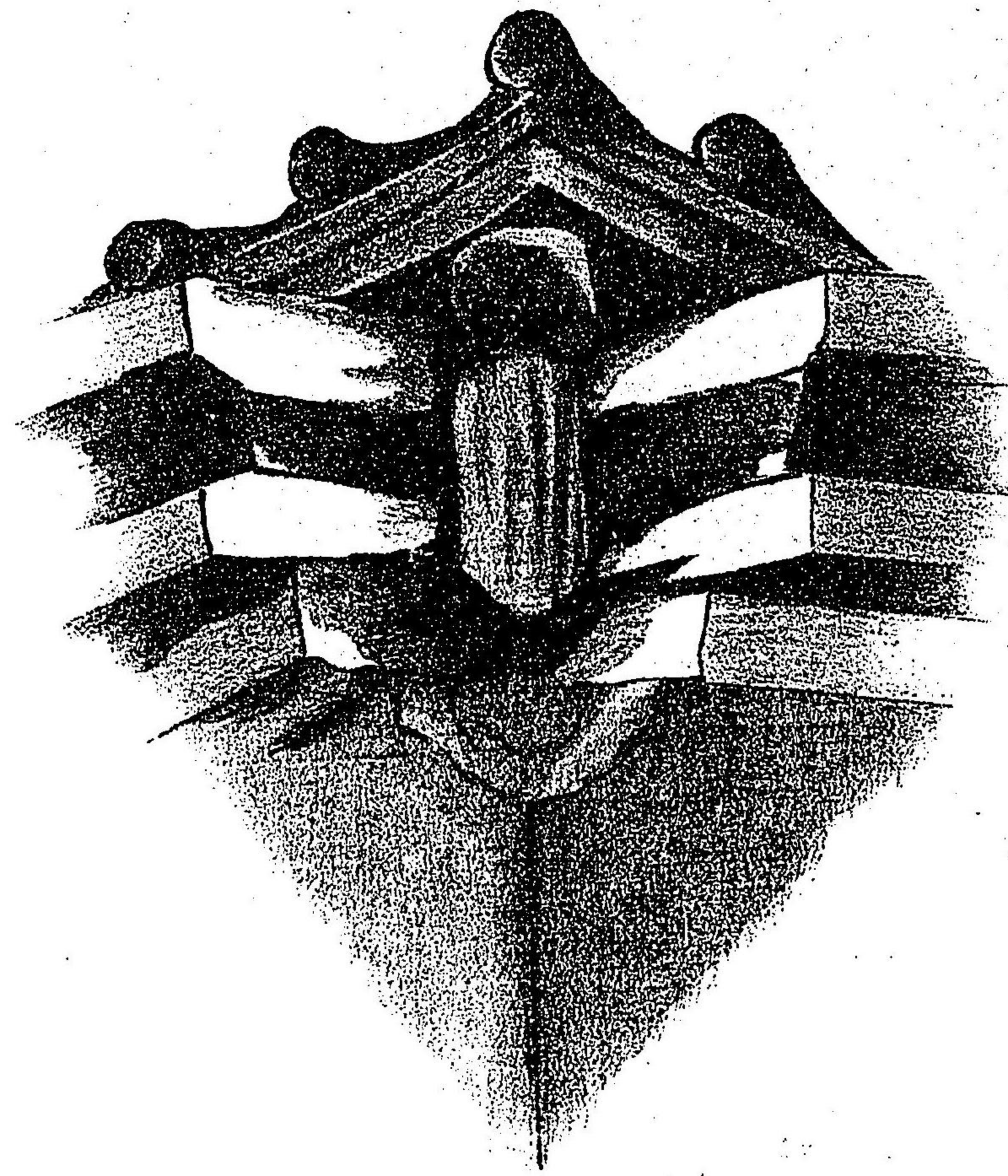
第五十一圖

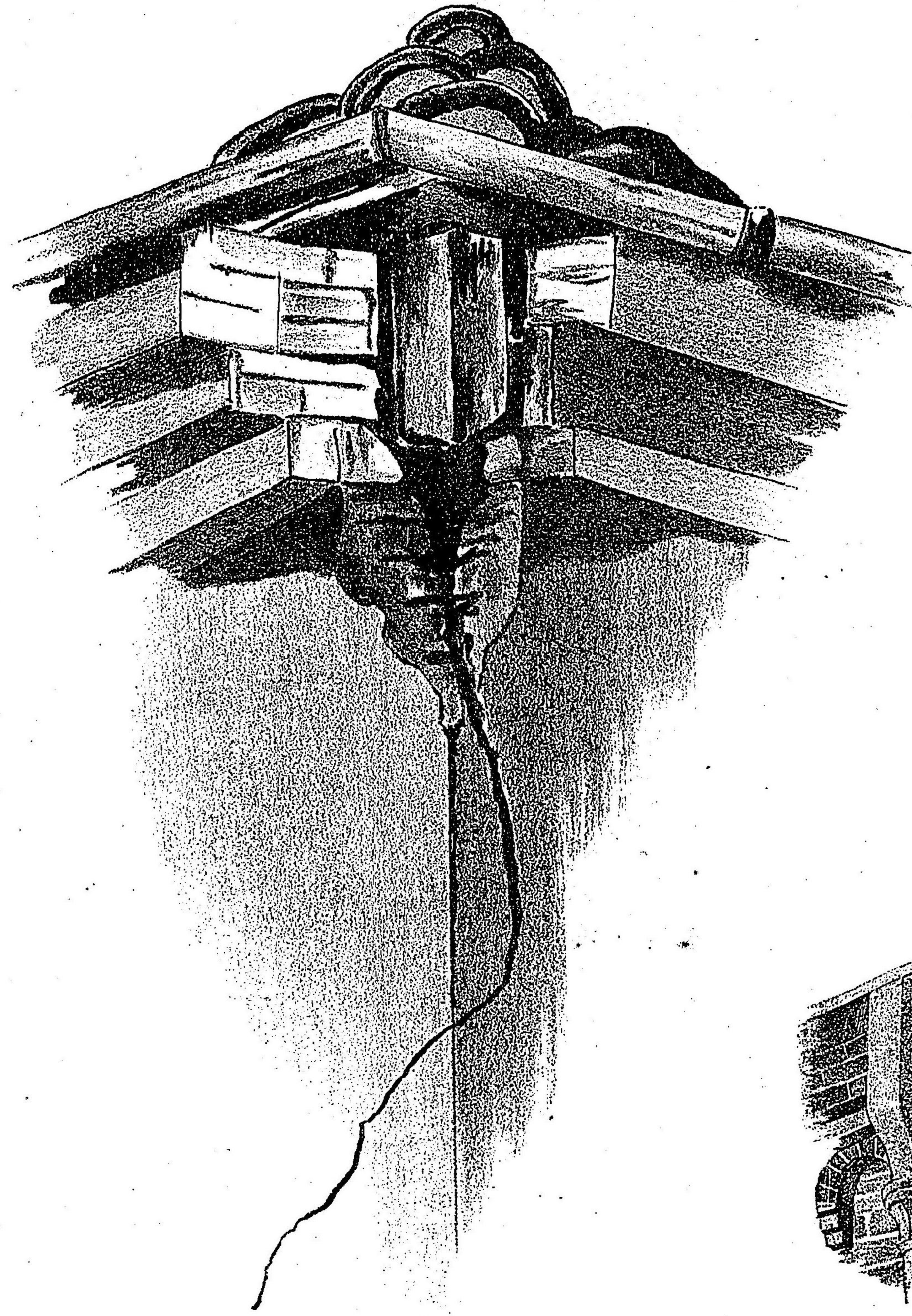
印刷局印刷部工場右翼前面圖

右翼煉瓦震裂并軒此腹合口離、箇所

第五十二圖

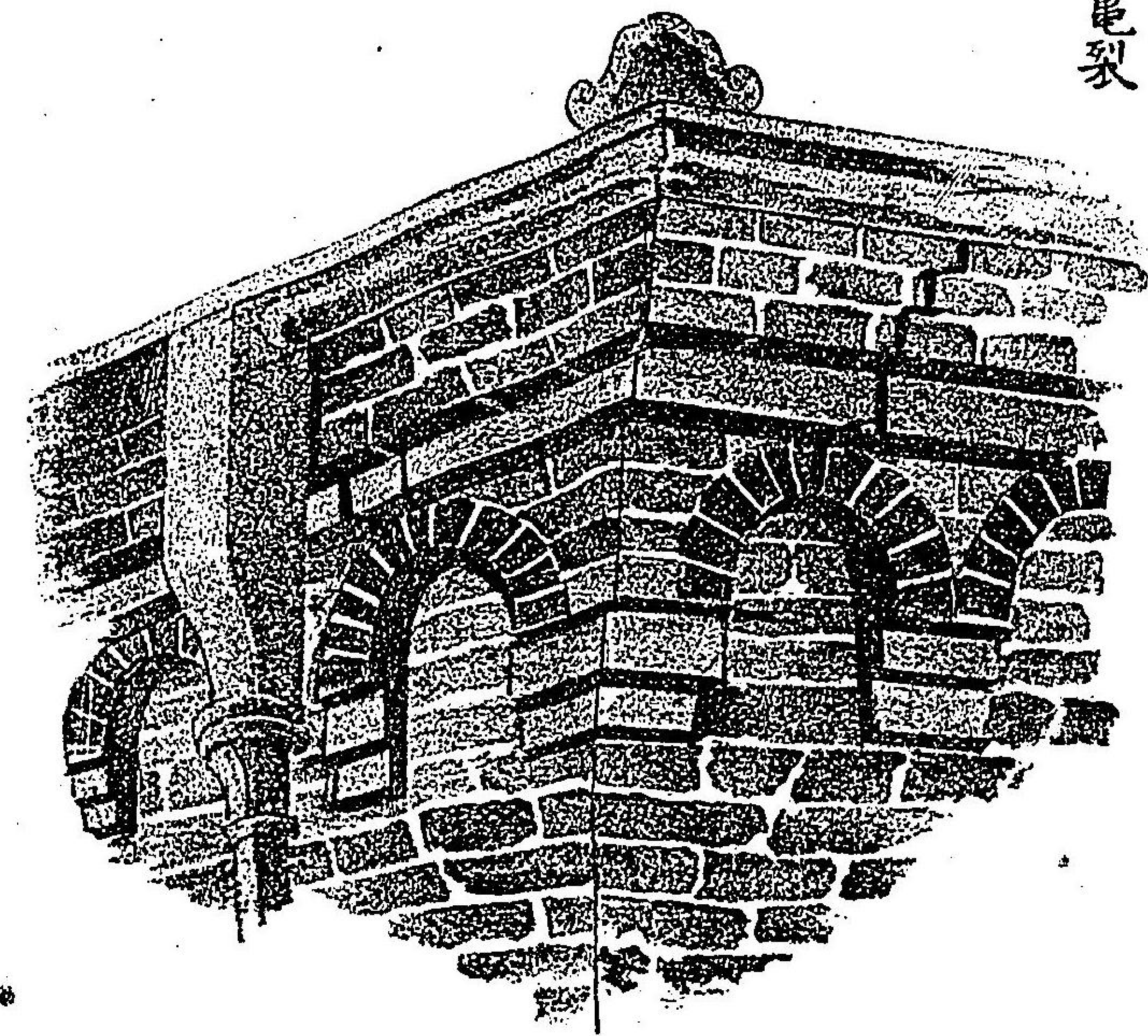
近衛步兵茅三聯隊營厩所外部隅棟化壁龜裂





第五十五圖

邊衛步兵第三聯隊庖厨所外部隔煉化壁龜裂ヲ示ス



第五十四圖

麻布第一聯隊本部軒蛇腹角龜裂

(十二) 軒

軒ノ中最多ク害ヲ被リシ部分ハ其隅角ナリ其他バラスト
レードノ破損タリレットノ毀損等ナリ

(イ) 軒ノ隅角

軒蛇腹ノ出角ニ於テ罅裂ヲ生セシモノ極メテ多シ而シテ其
主ナル原因ノ一ハ小屋梁ノ端或ハ隅垂木端ノ推力是ナリ

赤坂一ツ木近衛歩兵第三聯隊營

庖厨所軒蛇腹ノ出隅ハ第五十二圖ノ如ク墜落シ隅梁及ヒ隅
垂木ノ端ヲ露出シタリ別圖ハ北側妻ノ西方隅角ナリ而シテ
其對角即チ南側妻ノ東方隅角モ亦同様ノ害ヲ被レリ

近衛歩兵第四聯隊營

四谷區霞ク岳町同營庖厨所軒蛇腹ノ隅角モ亦前記同様ノ損
害ヲ被レリ即チ第五十三圖ノ如シ

麻布第一聯隊本部

同所ノ煉瓦軒蛇腹ハ四隅トモ同様ノ罅裂ヲ生セリ第五十四
圖ハ即チ其一角ヲ示ス

近衛歩兵第三聯隊營

庖厨所ノ壁ハ軒ノ隅ニ於テ罅裂ヲ生セリ

海軍大臣官舎

新築煉瓦造ナル海軍大臣官舎ハ損害至テ甚ナシ然レドモ其
東南隅ニ於テ煉瓦及ヒ石ニ沿フテ罅裂ヲ生セシヲ第五十六
圖ノ如シ其罅裂ハ目地並ニ煉瓦ヲ通ス

一 學智院(工學士大澤三之助報告)

本館左部軒ノ隅角ニ於テ罅裂ヲ生セシヲ第五十七圖ノ如シ

(ロ) 軒蛇腹

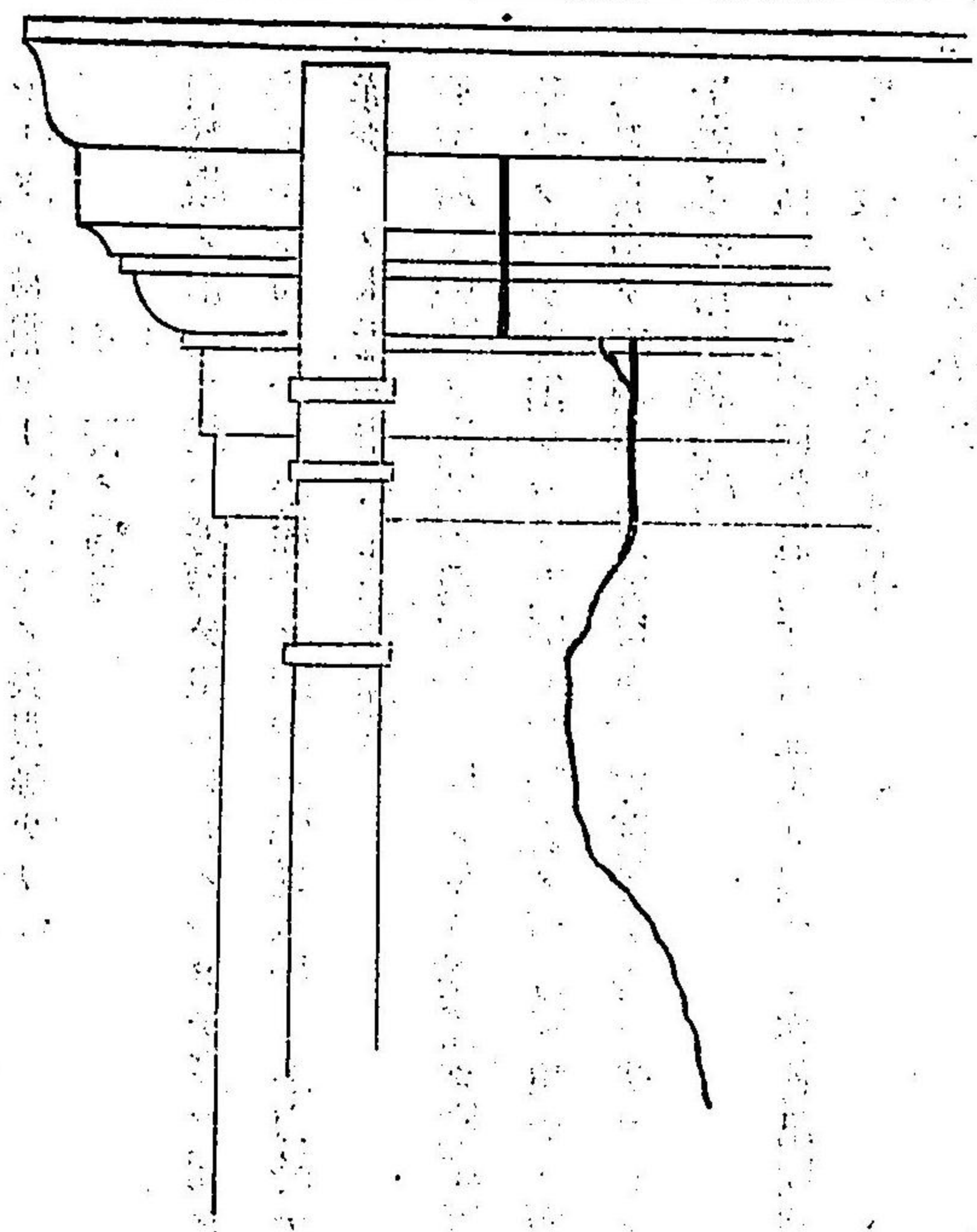
一 舊工部大學校北翼(山崎定信報告)

此一棟ハ東側及ヒ北側ノ軒蛇腹及ヒバラストレード共殆ト
悉ク墜落シテ建物ヲ距ル凡七尺ノ處ニ堆積セリ又南側ノ軒
蛇腹ハ落チタルアリ依然タルアリ其依然タル軒蛇腹ノ中長
延三尺餘ノ一石片墜落シテ建物ヲ去ル三尺餘ノ處ニアリタ
リ而テ軒蛇腹石ハ總テ長サ三尺七八寸上ハ巾貳尺貳寸下ハ
壹尺餘セシ壹尺四五寸ノモノナリ而ルニ右墜落シタル石片
ハ長サ三尺七寸幅壹尺セシ八寸程ノモノナリ熟視スルニ初
メ施工ノ際罅裂ヲ生シ居リシニ心附カズシテ其儘積上ケタ
ルモノ累年ノ間ニ雨水割レ目ヨリ流レ込ミタルモノ今度ノ
震災ニ逢ヒソノ割目ヨリ剝落シタルモノナルヲ知リ得タ
リ

一同上(工學士大澤三之助報告)

舊工部大學校左翼ノ軒蛇腹墜落ノ狀況第五十九圖ノ如シ

第五十六圖
海軍大臣官舎



ス通ヲ地目ヒ及尾煉ハ裂罅

(ハ) 軒飾

パラストレイド、及ヒバートルメント、タレット等ノ類ハ
多少ノ損害ヲ受ケザルモノ極テ稀ナリ

一 虎ノ門帝國博物館(工學士大澤三之助報告)

舊工部大學校ノパラストレイドハ墜落セシコ第六十圖ノ如
シ

一 海軍大臣官舎

南向弧形椽側屋根上ノパラストレイドハ墜落セリ

一 赤羽根造兵廠(山崎定信報告)

丘上ニアル煉瓦造事務所ノ車寄上陸屋根ノ手摺石ハ大略破
損ヲ受ク墜落シタリ

一 舊工部大學校化學實驗室(全上)

化學實驗室ノ後部ニアル水溜臺四隅ノ頂上ニ柱形ノ飾アリ
根ヨリ居去リテ其位置ヲ變セシモ倒落スルニ至ラサリキ

(第六十一圖參照)

一 遊就館(工學士遠藤於菟報告)

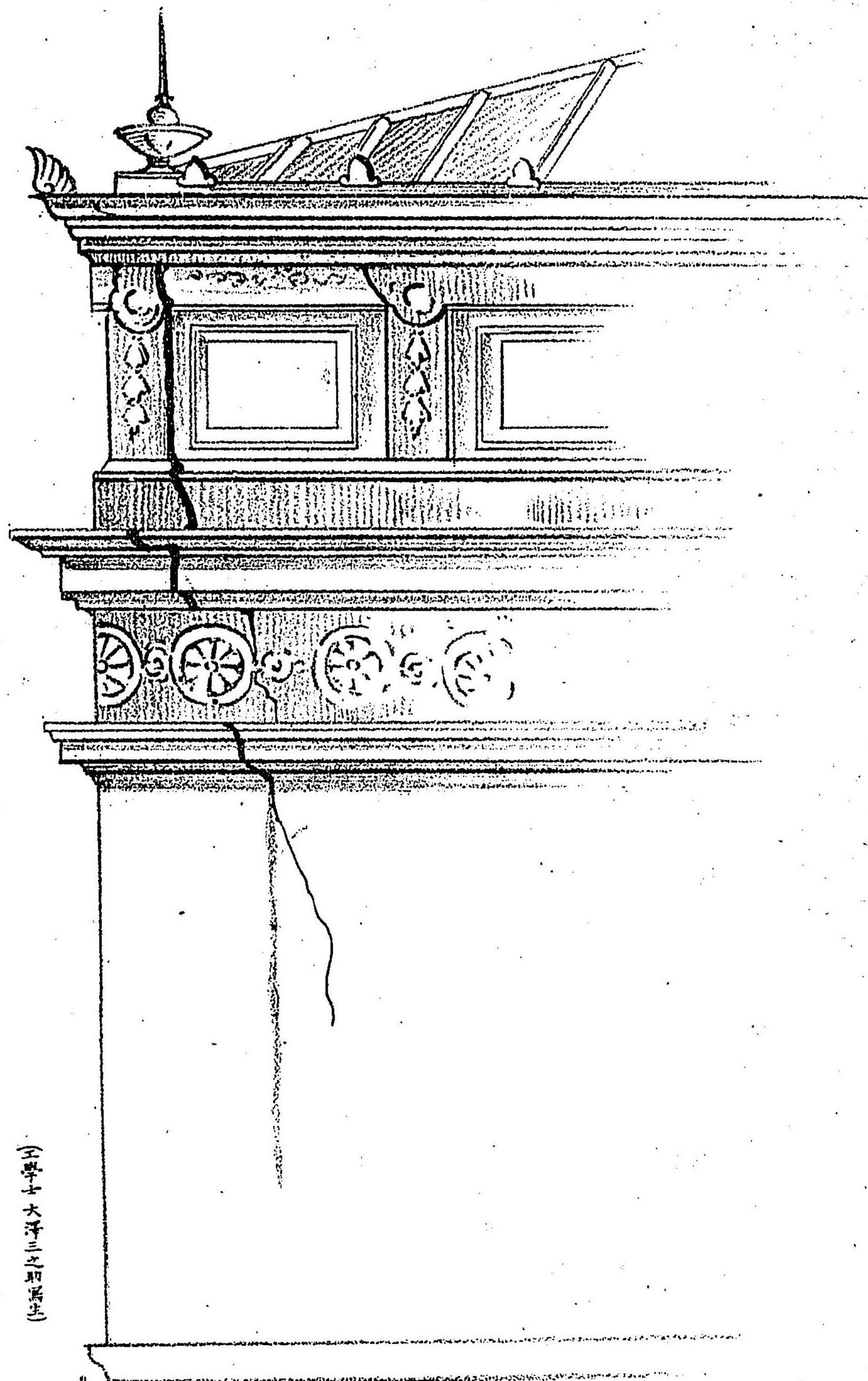
軒ノ隅飾ハ何レモ毀損ヲ受ケザルモノナシ今其二三ノ圖ヲ
示ス(第六十二圖)

一 行政裁判所(全上)

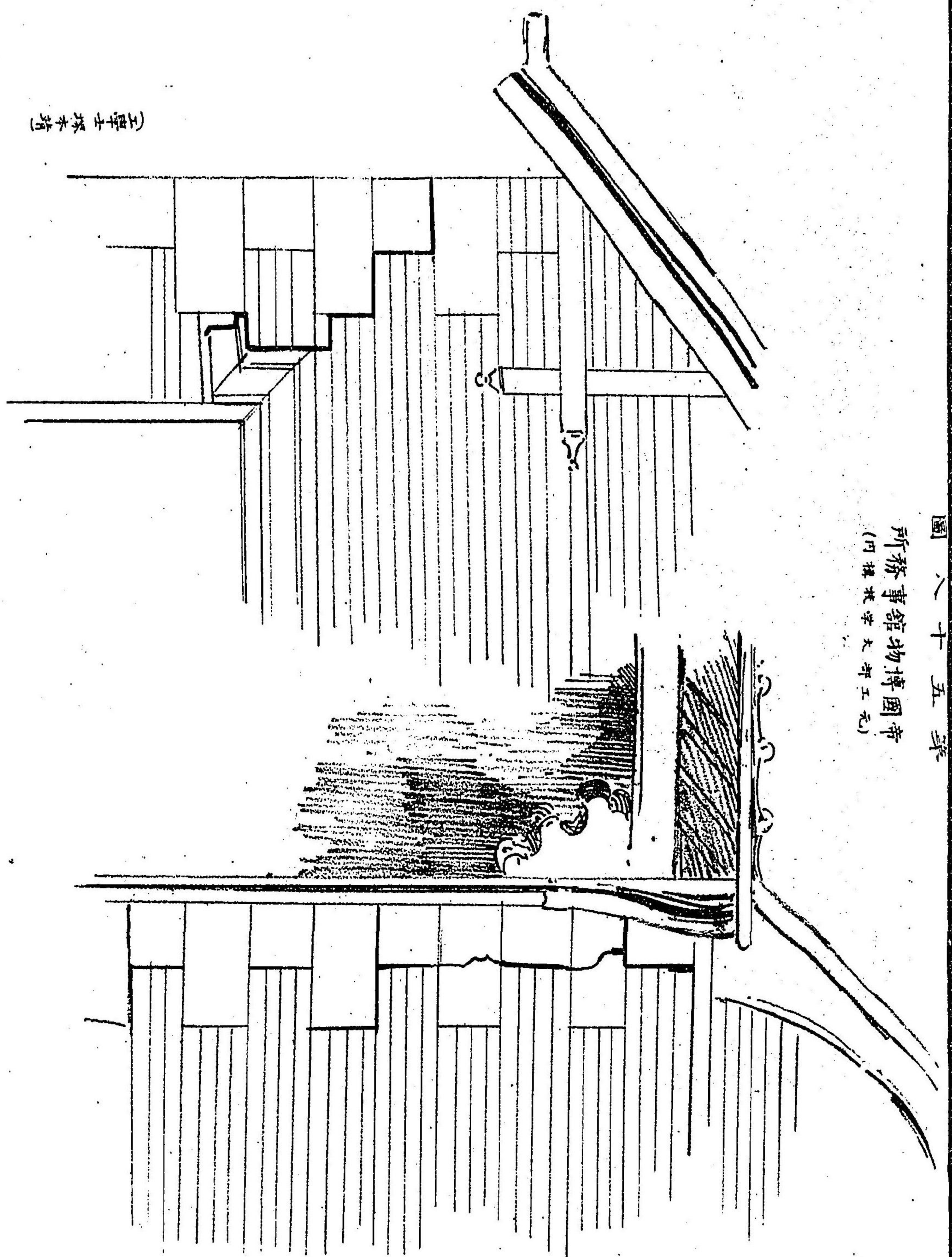
正面車寄上手摺ハ墜落セシコ第六十三圖ノ如シ

第七十五圖

學習院本館左部西方角骨同様ナリ

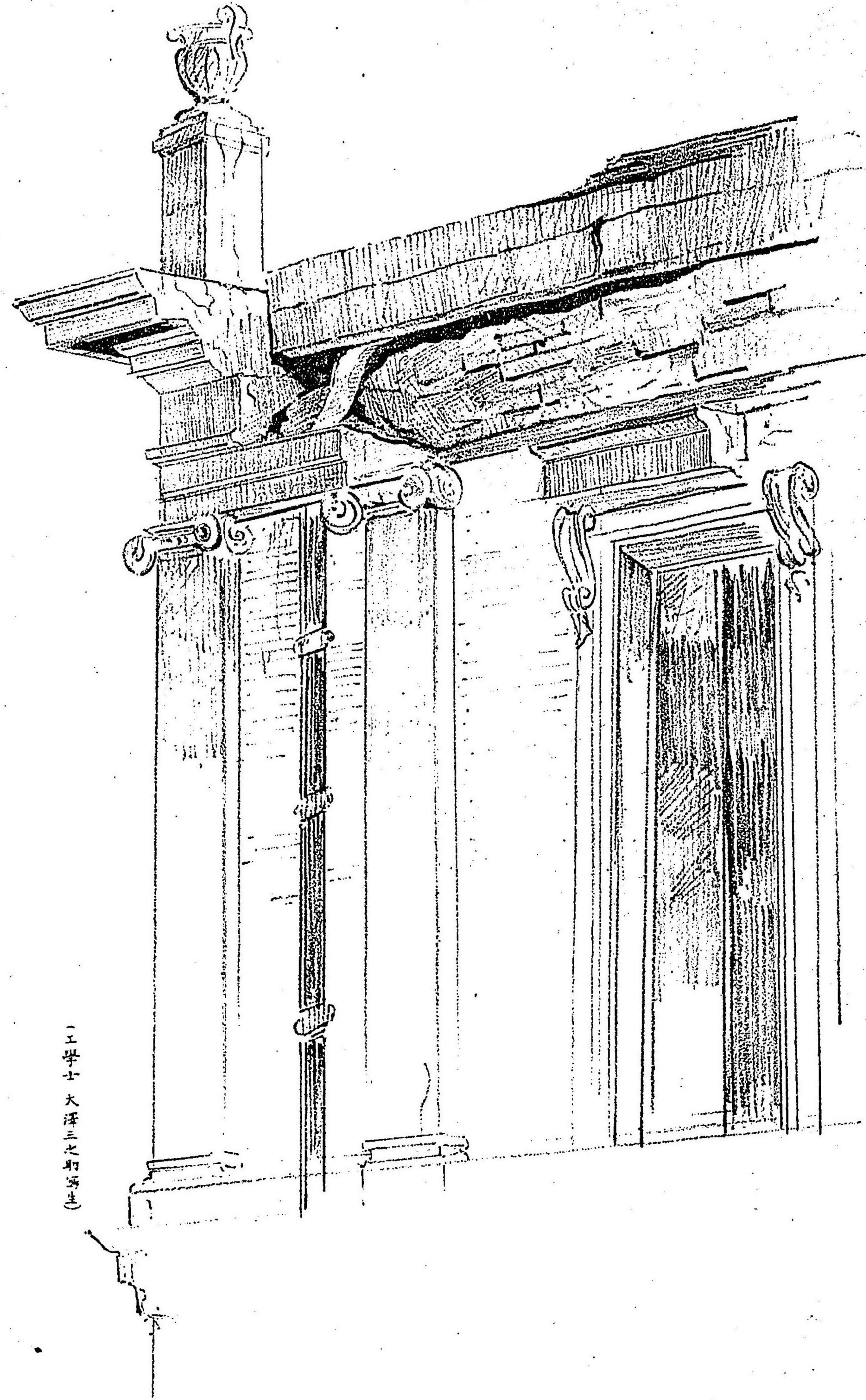


工學士大澤三之助報告



圖八十五
辛國博館事務所
(元工新大宇樣同)

(辛國博館)

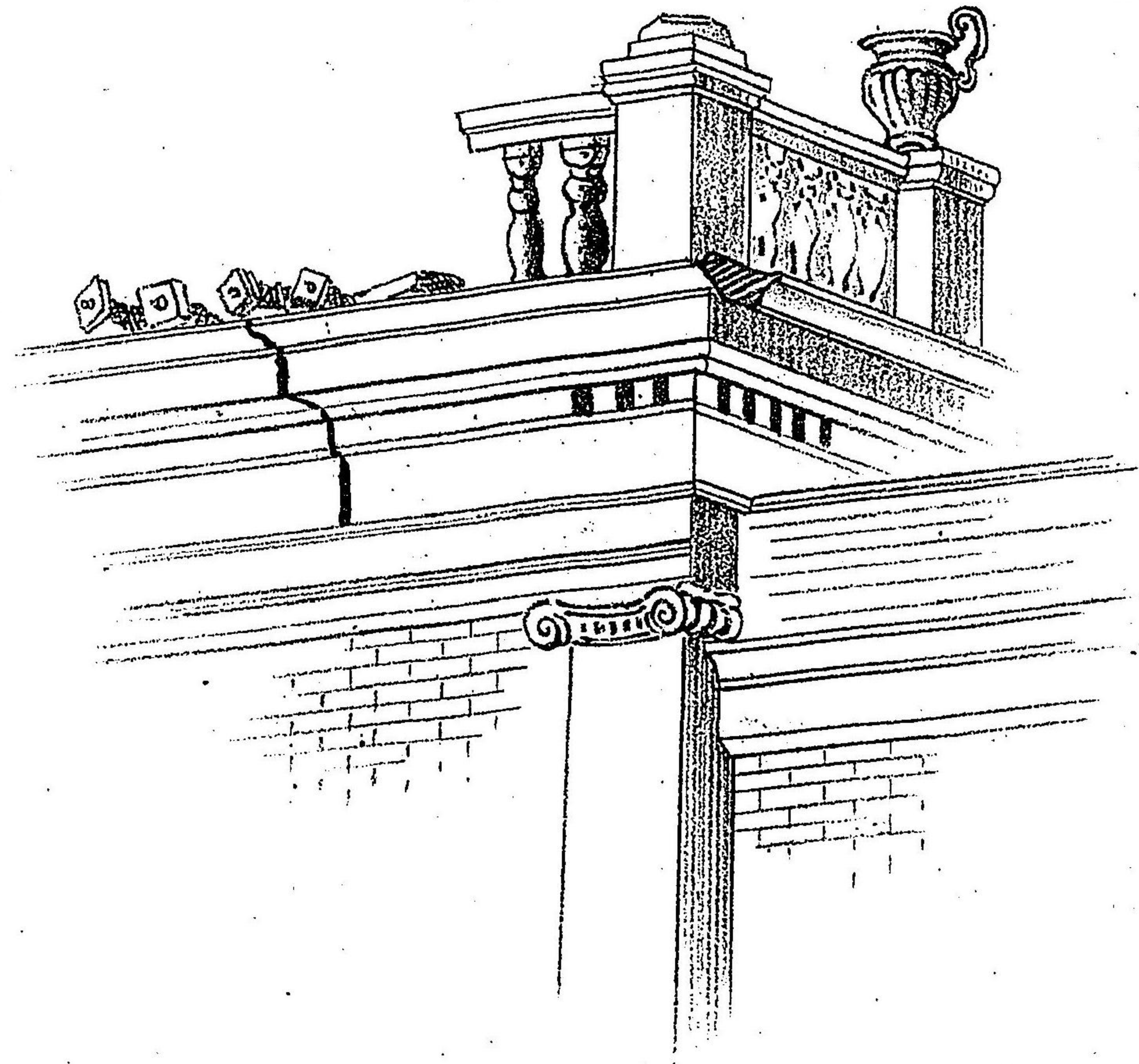


第五十九圖 虎之門元工部大學校本館左翼

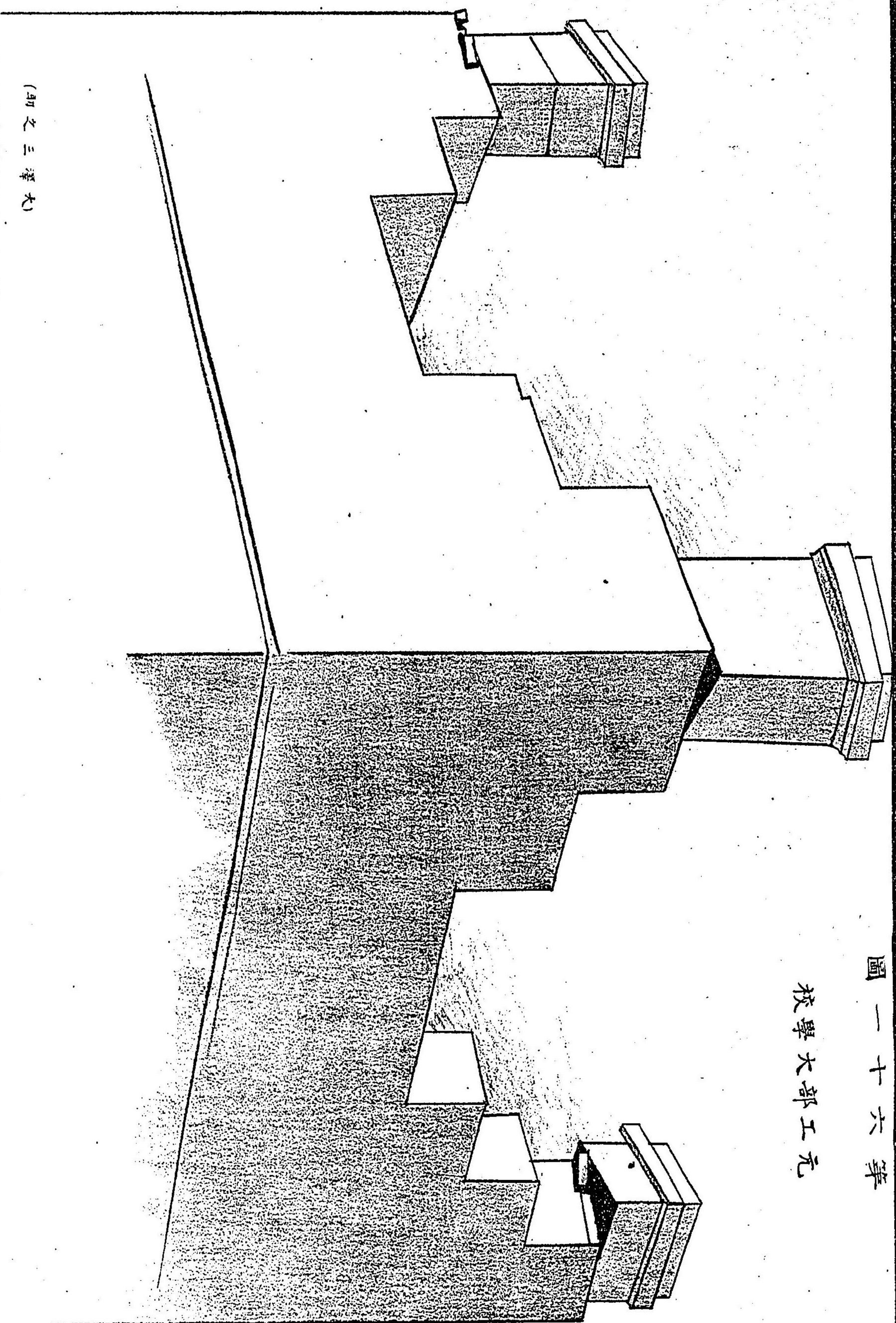
工學士 大澤三之助寫

圖 十 六 第

館物博國帝門之虎

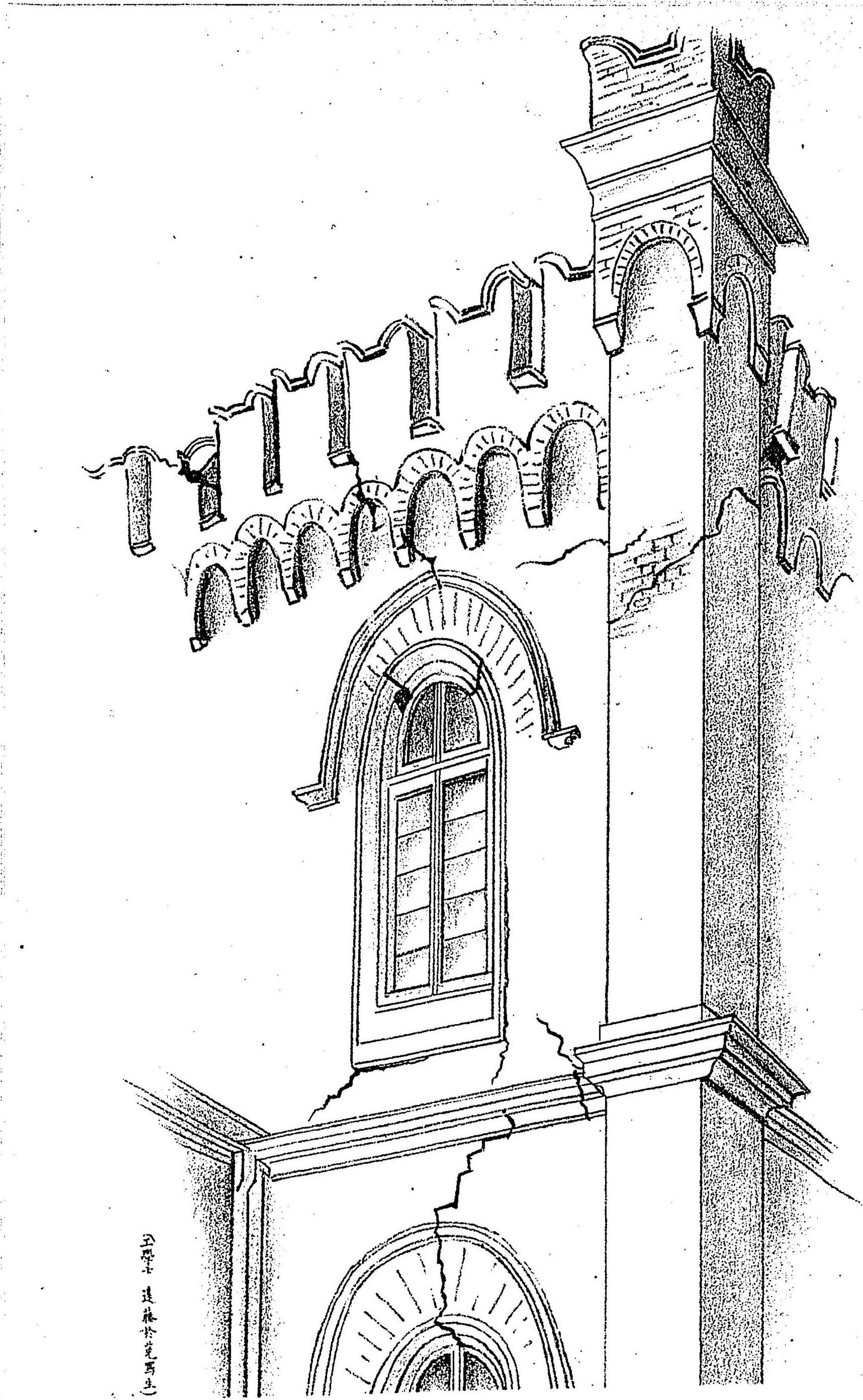


(生寫物之三澤大士學工)



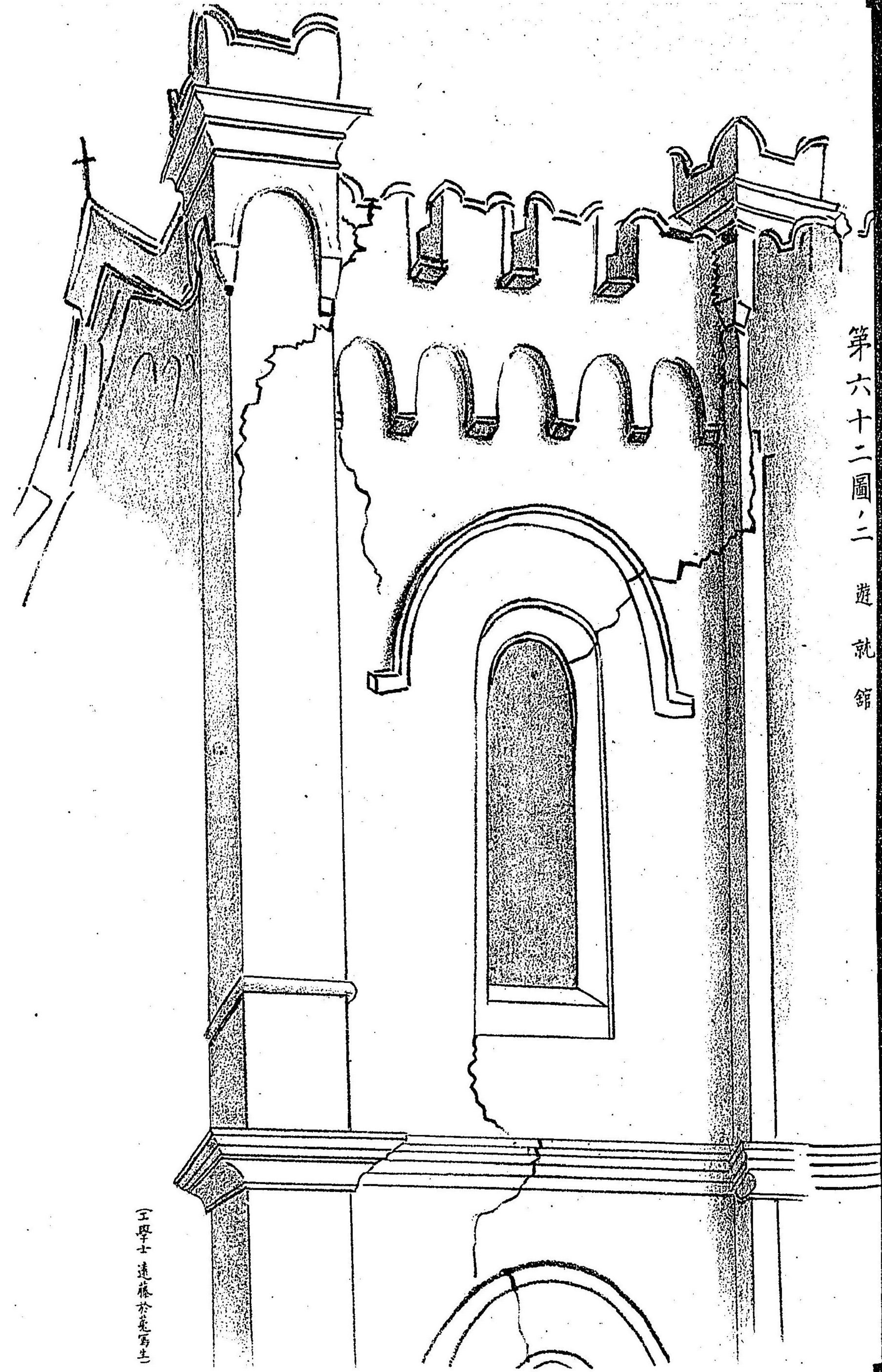
圖一十六 學校大部工元

(附之三擇大)



第六十二圖 一遊就館

五學士 建築於寫生



第六十二圖二 遊就館

工學士 遠藤於光寫生

三ノ圖二十六第

館就遊

